

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 目 次

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	1
① 学生確保の見通し	1
ア 定員充足の見込み	1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	1
1) 観光分野の高等教育機関の動向	1
1)-1 私立大学の動向	1
1)-2 私立短期大学の動向	2
1)-3 私立大学・短期大学等 入学志願動向のデータの概要	3
2) 18歳人口の全国的、地域的動向	3
2)-1 全国及び四国地域の18歳人口の推移	3
2)-2 全国及び四国地域の短期大学進学率の推移	4
2)-3 「資料5 全国及び四国地域の18歳人口の推移」及び 「資料6 全国及び四国地域の短期大学の進学率の推移」のデータの概要	4
3) 既設の専門学校の動向	4
4) アンケート調査の結果	6
4)-1 本学への入学希望者数	6
4)-2 「資料9 本学への入学希望者数」に係るデータの概要	6
5) 競合校の状況	8
5)-1 四国地域の短期大学の学科系統別定員充足率からみた学生確保の見通し	8
5)-2 競合校の入学者の状況からみた学生確保の見通し	9
5)-3 「資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率」に係るデータの概要	9
ウ 学生納付金の設定の考え方	9
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	10
ア 学生確保に向けた取組体制	10
イ 設置認可前のPR活動	11
ウ 設置認可後の学生募集活動	14
(2) 人材需要の動向等社会の要請	14
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	14
ア 観光振興の現状と課題	14
イ せとうち観光専門職短期大学の設置の趣旨及び教育研究上の目的	15
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠	16
ア 観光振興の中長期的展望	16
イ 人材需要の動向等社会の要請に関するデータの概要	17
1) 「観光振興専門職」に対する地域の人材需要の動向	17
2) 「観光振興専門職」に対する人材需要が生じる社会的動向	17
3) 「観光振興専門職」を求める企業の人材需要	18
4) 「資料27 本学の観光専門職教育への企業のニーズ」及び 「資料28 本学が養成する人材の採用予定」に係るデータの概要	18
(3) 中長期的な学生確保の見通し	19

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況

#### ① 学生確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

学校法人穴吹学園（以下、「本学園」という。）は、せとうち観光専門職短期大学（以下「本学」という。）に観光振興学科（以下「本学科」という。）を設置し、1学科で構成する。入学定員は以下のとおり設定した。

せとうち観光専門職短期大学（所在地：香川県高松市）			
観光振興学科（三年制）	入学定員	80名	収容定員 240名

上記の入学定員については、観光分野における高等教育機関の動向、社会状況や人材需要、18歳人口の動向、近隣の短期大学の動向等に加え、高校生や社会人、企業を対象としたアンケート調査の結果を踏まえた上で総合的に判断して設定しており、定員充足には問題がないと判断している。また、本学本学科は、四年制大学の観光学部等とも異なり、専門学校等における教育とは次元の異なる教育により観光振興のエキスパートを養成するためには、三年制の教育課程が必要と判断し、三年制の**専門職短期大学**として設置する。定員設定の主な理由は、以下のとおりである。

#### (理由1) 同時に授業を行う学生数と実効性の高い少人数教育

本学は、専門職大学及び専門職短期大学制度の特色の一つである、同時に授業を行う学生数を原則40人以下とすること（専門職短期大学設置基準第14条）を踏まえて、また、「観光振興専門職」を確実に養成することを目的として、必修科目を卒業単位の3/4以上に設定し、教育の質の保証と均質化に努めるために、1学年2クラスの設置が理想的であると判断し、入学定員を80名に設定する。これにより、教育理念にも掲げる実効性の高い少人数教育をめざしている。

#### (理由2) 臨地実務実習の充実と教育効果の向上

さらに、専門職大学及び専門職短期大学制度の最大の特色である、卒業要件単位の概ね1/3以上を実習等により修得し、産業界等と緊密に連携した長期の臨地実務実習を必修科目として履修するなど、より教育効果の向上を図るためには、入学定員は80名が適切である。

#### (理由3) 各種データ及び中長期的展望を踏まえた定員設定

本稿での説明に用いている各種データや今後の観光振興の継続と発展及び観光や観光による地域創生事業における人材ニーズの推移に関する中長期的な展望を踏まえ、安定した学生確保の状況を維持するためには、入学定員は80名が適切である。

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### 1) 観光分野の高等教育機関の動向

#### 1)-1 私立大学の動向

本学の定員充足率を予測する手がかりとして、「観光系私立大学の志望動向」を一つの目安とするために、日本私立学校振興・共済事業団「平成31（2019）年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」の数量データを用いた。

同報告書では、大学の「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった学部系統区分は、「社会科学系」に包含されている。

「社会科学系」は、「経済学部、経営学部、法学部、商学部、社会学部、社会福祉学部、総合政策学部、人間社会学部、現代社会学部、経営情報学部、情報学部、経済経営学部、現代

ビジネス学部、**観光学部**、政治経済学部、総合経営学部、国際経営学部、総合福祉学部、**国際観光学部**、経営経済学部、環境情報学部、人間福祉学部、その他」の23の学部系統に細分化されている。

「社会科学系」では、「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、その各年の定員充足率は、平成27年度104.92%、平成28年度105.61%、平成29年度106.93%、平成30年度104.51%、平成31年度103.51%であり、いずれも定員を充足している。また、志願倍率は、平成27年度7.16倍、平成28年度7.66倍、平成29年度8.46倍、平成30年度9.21倍、平成31年度9.85倍と右肩上がりの上昇を示している。

#### (資料1 学部系統別の動向)

細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2~4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。(資料2 観光系大学の入学者動向)

これらの私立大学における学部系統別の入学定員充足率等のデータは、三年制の専門職短期大学である本学の定員充足の見込みにダイレクトに反映するものとは言えないが、社会科学系及び観光系の学部に対する定員充足率と志願倍率の高さには顕著なものがあり、「観光」を教育研究上の目的とする新たな高等教育機関の設置に対する期待は大きいと思われる。

### 1)-2 私立短期大学の動向

同じく、本学の定員充足率を予測する手がかりとして、「観光系私立短期大学の志望動向」を一つの目安とするために、日本私立学校振興・共済事業団「平成31(2019)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」の数量データを用いた。

同報告書では、短期大学の「過去5カ年における学科系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、そこには「観光系」の学科系統区分がない。本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった学科系統区分は、「社会系」に包含されている。「社会系」は、保健系、農工系、人文系、家政系、教育系、芸術系、その他と合わせて、8つの学科系統区分の一つである。それらの平成27年から平成31年までの定員充足率の推移を見ると、人文系、社会系、芸術系、農工系、その他の5つの学科系統区分は、多少とも上昇しているが、他の3つの学科区分は低下している。

「社会系」区分の平均の定員充足率は、100%に達しておらず、その各年の定員充足率は、平成27年度87.24%、平成28年度86.70%、平成29年度88.27%、平成30年度91.11%、平成31年度91.07%である。私立短期大学の観光ビジネス、観光、地域創造、地域創生を含む「社会系」の学科系統区分において、平成27(2015)年度から平成31(2019)年度までの5年間の「定員充足率」は、平成27(2015)年度の87.24%から平成31(2019)年度の91.07%までと、(平成30年度から31年度にかけては若干減少したものの)、総じて毎年定員未充足ながらも上昇傾向にある。(資料3 学科系統別の動向)

また、「社会系」学科系統区分の全71学科は、さらに8つの学科系統区分に細分化され、介護福祉学科、現代ビジネス学科、社会福祉学科、商学科、経営情報学科、福祉学科、人間

福祉学科、その他に分けられている。本学本学科に関連する「観光系」は、社会系の「その他」に含まれる。社会系「その他」の定員充足率を平成 30 (2018) 年度と平成 31 (2019) 年度で見ると、それぞれ 94.95%と 93.50%となっている。社会系「その他」の平成 30 (2018) 年と平成 31 (2019) 年の「志願者数」は、それぞれ 5,450 人から 5,257 人、「入学者数」も 3,105 人から 3,123 人へとほぼ横ばいの状況にある。**(資料 4 観光系短期大学の入学者動向)**

このように、学科系統別動向からみた学生確保の見通しは、定員未充足ながら、中期的には上昇傾向にある。これは、短期大学への進学率が低下を続けている中において、「1)-1 私立大学の動向」に見るような、社会科学系及び観光系の人気を反映している。

よって、本学の今後の PR 活動・学生募集等により、その教育研究上の目的や短期大学と専門職短期大学の相違点などを明確に説明することにより、学生確保の見通しを立てることができる。

### 1)-3 私立大学・短期大学等 入学志願動向のデータの概要

「資料 1 学部系統別の動向」「資料 2 観光系大学の入学者動向」及び「資料 3 学科系統別の動向」「資料 4 観光系短期大学の入学者動向」は、日本私立学校振興・共済事業団「平成 31 (2019) 年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によるものである。本データは、各年度 5 月 1 日を基準日として実施された「学校法人基礎調査」の平成 27 年度から平成 31 年度までのデータから、大学及び短期大学の入学者等に関する項目のデータを集計したものであり、集計学校数は、平成 31 年度で、大学 587 校、短期大学 297 校である。

平成 31 年度の大学の概況は以下のとおりである。

- 入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者は、昨年度と比較しいずれも増加した。
- 入学者は、2,305 人増加して、500,083 人となった。
- 入学定員充足率は、0.03 ポイント上昇して、102.67%となった。
- 入学定員充足率が 100%未満の大学は、16 校減少して 194 校となり、大学全体に占める未充足校の割合は、3.1 ポイント下降して、33.0%となった
- 学部系統別の動向

「農学系」「家政学」「芸術系」の系統で入学定員充足率が 2 ポイント以上上昇した。一方、平成 31 年度の短期大学の概況は以下のとおりである。

- 入学定員、志願者、受験者、合格者、入学者は、昨年度と比較しいずれも減少した。
- 入学者は、2,509 人減少して、48,705 人となった。
- 入学定員充足率は、0.91 ポイント下降して、87.15%となった。
- 入学定員充足率が 100%未満の短期大学は、16 校増加して 228 校となり、短期大学全体に占める未充足校の割合は、6.4 ポイント上昇して、76.8%となった。
- 学科系統別の動向

入学定員充足率が 100%を超えているのは「人文系」のみで、90%を超えているのは「保健系」「農工系」「社会系」「その他」である。

## 2) 18 歳人口の全国的、地域的動向

### 2)-1 全国及び四国地域の 18 歳人口の推移

文部科学省「学校基本調査」の数量データをそれぞれに用いた資料として、リクルート進学総研マーケットリポート (2018 年 11 月) によれば、全国の 18 歳人口は、令和元年 (2019) 年の 117.5 万人から長期的に漸減傾向にある。令和 11 (2029) 年の全国 18 歳人口は、106.6 万人に減少すると予想されている。

また、香川県を含む四国地域の 18 歳人口を見ると、これも、全国の傾向と同様に、令和元 (2019) 年の 36,321 人から長期的に漸減傾向にある。四国地域の 18 歳人口は、令和 11 (2029) 年に 31,100 人に減少すると予想されている。さらに、香川県の 18 歳人口については、令和元 (2019) 年が 9,574 人であり、令和 11 (2029) 年には 8,377 人まで減少する。

**(資料 5 全国及び四国地域の 18 歳人口の推移)**

## 2)-2 全国及び四国地域の短期大学進学率の推移

「全国の短期大学の進学率の推移」には、長期的な減少傾向が見られる。全国の短期大学の進学率は、平成 20 (2008) 年の 6.4%から平成 29 (2017) 年の 4.8%へと 1.6 ポイント減少した。このように、全国の短期大学進学率には、長期的な減少傾向が見られるが、平成 29 年 (2017) 年の中国地域では 4.9%、四国地域では 5.6%と、全国平均を上回る進学率であり、過去 5 年間を通じ、すべての年で全国平均を上回っている。(資料 6 全国の短期大学の進学率の推移)

このように、全国の短期大学進学率には、長期的な減少傾向が見られる中で、四国地域では、全国平均を上回る短大進学率を過去 5 年に渡り継続していることは、本学の定員充足の見込みにとってプラス材料である。

## 2)-3 「資料 5 全国及び四国地域の 18 歳人口の推移」及び「資料 6 全国の短期大学の進学率の推移」のデータの概要

「資料 5 全国及び四国地域の 18 歳人口の推移」及び「資料 6 全国の短期大学の進学率の推移」は、文部科学省「学校基本調査」の数量データをそれぞれに用いた資料として公表されているリクルート進学総研マーケットレポート (2018 年 11 月) によるものである。2018 年から 2030 年までの 18 歳人口予測及び、2008 年から 2017 年までの大学進学率、短期大学進学率、専門学校進学率を、全国及び地域別に掲載している。

## 3) 既設の専門学校の動向

本学園の既設専門学校 9 校 37 学科は、定員未充足であるが、それらの定員未充足には、専修学校設置基準 47 条に規定する校舎面積を基に、当該校舎の収容可能な総定員を計算し、その範囲内で入学定員を 1 クラス 40 名以内で開設時に設定してきた経緯が影響している。そのような状況において、18 歳人口の減少に伴い入学者が減少する中で、定員設定の見直しをしないまま、現在に至っていることが定員未充足の主な原因である。

このため、現在定員の見直しを進めており、専門学校全体で平成 29 年度は 57.2%、平成 30 年度は 57.5%、令和元年度は 64.1%と徐々に改善している。(資料 7 既設専門学校の定員充足率) また、既設専門学校の学科の定員充足率は全体的に低いが、経営状況は安定しており、日本私立学校振興・共済事業団が作成した「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分 (法人全体)」の A 3 に分類され、健全な財務状況を維持している。

2017 年 2 月から 3 月にかけて、観光庁観光産業課が株式会社日経リサーチ社に委託して実施した「観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～」によると、観光に関連する学科・専攻・コースの出願倍率はどれくらいかとの質問に対して、回答した 51 校中、0.9 倍未満の専門学校は 35 校あり、その平均は 0.4 倍であった。また、1 倍以上の専門学校でも約 9 割が 1 倍～1.9 倍に留まっていた。

また、専門学校に入学する理由として、希望の職種につけるからという理由が約 6 割を占め、カリキュラム等についての関心は高くない。専門学校における学生募集の主なターゲットは、対象となる高等学校等や入学希望者の思考において、進学校や大学進学希望者のそれとは異なるものと考えている。(資料 8 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～ (抄))

さらに、既設専門学校の中で、穴吹ビジネスカレッジのホテル学科は、本学本学科の卒業生の主な進路としてホテルや旅館を想定し、「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ (宿泊クラス)」等の授業科目を配置することから、名称上相似しているが、両者が全く異なる教育機関であることは、「10 設置の趣旨等を記載した書類」の「1-13 既設の専門学校とのカリキュラム上の相違 (29 ページ)」で見たように、養成する人材像や教育課程、授業科目の内容等において明白である。

既設専門学校のホテル学科の定員 20 人の充足率は、平成 29 (2017) 年度に 55%、平成 30 (2018) 年度に 42.5%、令和元 (2019) 年度に 31.4%と低かった。志願者の多いホテル系の専門学校が、主としてホテル系単科である事例が多いのに対して、既設専門学校のホテル学科は、穴吹ビジネスカレッジ 7 学科中の 1 学科であり、現在、他の 6 学科の構成は、ブラ

イダル学科、企業ビジネス学科、公務員ビジネス学科、公務員学科、国際ビジネス学科、海外ビジネス学科となっている。つまり『ビジネス』という広い概念の中に、相互の関連性の薄い学科が併存する中で、『ホテル学科』という名称が隠れて存在感が薄れてしまったこと、また、それにより、生徒及び保護者に、教育内容や教育環境が十分に評価されず、訴求力のある募集活動に繋がらなかったものと考えている。ただし、当該ホテル学科の就職率は、平成 29 (2017) 年度と 30 (2018) 年度の両年とも 100%であり、当該学科の専門学校教育はその成果を十分に挙げている。

一方で、本学が提供する教育は、専門学校の教育と全く異なるコンセプトを有している。本学の教育課程は専門職短期大学設置基準に従い、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目から構成している。まず、基礎科目において、観光学の理論を学ぶための基礎となる「地理学」と「文化論」を必修科目として開設するとともに、選択科目には、「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を配置し、大学教育において重要な「思考力」を涵養するとともに、職業専門科目における観光学の理論を学修する基礎を築いている。また、観光振興においては、高齢者や障がい者への適切な対応が重要となってくるため、その基礎的な知識と技能を学修するため「介助実務実習」を必修科目として配置している。

次に、職業専門科目においては「観光の理論と知識」を学修する学術科目と「観光実務の知識と技能」を学修する実務科目のバランスを考慮し、学術科目では「観光学概論」を起点として、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の観光基礎理論を学修する科目を配置し、それらが「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の観光応用理論を学修する科目に繋がっていくように配置している。一方で地域の観光についても学修するため、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の地域観光論基礎科目を配置し、それらが「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」のせとうち観光研究科目群に繋がっていくように配置している。この2つの系統は相互に関連しており、これにより系統的かつ複合的な学びを担保している。

このように観光の理論を体系的に学びつつ、瀬戸内や四国の観光事業の成果や成功事例を教材にした学修と研究が可能であり、これにより、理論に裏付けられた実務を学修するために必要な観光学の理論の幅を広げ、かつ深化させるものとなっている。

一方の実務科目では、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」「観光事業論」という観光実務理論や観光事業理論を必修科目として学修した後、「ホスピタリティ実務実習A・B」を学内実習として学修し、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」により、それぞれ目的が異なり、多彩な実習施設における臨地実務実習が展開される。それぞれの臨地実務実習には事前学修として関連する実務の内容や留意点を講義にて学修する「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」と、事後学修として実習後の振り返りや知識・技能の定着と展開やマネジメント能力の強化を図るための「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を必修科目として配置するとともに、実務科目の締めくくりとして、「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置しており、「観光実務の知識と技能」が系統的に学修できるという特色がある。本学はクォーター制を採用しており、臨地実務実習科目の前後のクォーターにおいては、先に述べた「観光の理論と知識」を学修し、相乗効果が発揮されるよう授業科目を配列している。

展開科目においては、①企業やNPO法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）、②事業イノベーションを生み出すための情報力や創造力（情報力・創造力）の育成を目的として、経営関係科目と情報関係科目を中心に配置する。講義科目では、「経営学」「マーケティング論」「コミュニティデザイン論」「中小企業論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」の7科目を配置している。また、実習科目では、「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「メディアコンテンツ実習」「マップデザイン実習」「ファ

シリテーション実習」の5科目を配置して、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を育成する。これにより、学生が卒業直後の進路のみを意識するのではなく、職業経験や社会経験を経た後の将来像を見据えた総合的な教育を展開することができる。

最後に、総合科目に「専門演習」を設置するが、本演習は、これまでに学んだ全科目及び、本演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持ち、学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、他の学生と協力しながら調査研究を行う。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に学ぶ力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身に付けるものである。

よって、学生募集の主なターゲットとするのは専門学校進学希望者ではなく、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者である。高校生に対するアンケート調査によれば、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者 4,881人(56.4%)に対し、「専門学校」進学希望者は 2,323人(26.9%)となっており、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者が「専門学校」進学希望者の2倍以上であることが分かる。また、令和元年度の学校基本調査によれば、高等学校卒業後の進路状況では、大学・短期大学進学者が 578,769人(54.8%)、専門学校進学者が 172,376人(16.3%)となっている。これらのことから、学生募集の主なターゲットの分母となる人数が明らかに異なることが分かる。

専門学校がこれまで「専門学校」進学希望者をターゲットとして学生募集を行ってきたため、定員の6割程度の充足率であったが、「大学・専門職大学」「短期大学・専門職短期大学」進学希望者をターゲットとするため、その分母が2倍以上になることから、それに比例して本学への進学希望者が増えるものと思慮され、定員充足を見通すことができると考えている。

#### 4) アンケート調査の結果

##### 4)-1 本学への入学希望者数

本学では、第三者機関に委託し、2019年8月から9月にかけて、高校生に対するアンケート調査を実施した。中国・四国エリアの高等学校に在籍する高校2年生13,000名を対象に定量調査(留め置きアンケート調査)を実施。また、同エリアで開催した進学ガイダンスでも定量調査を実施し、高校2年生75名から有効回答を得た。

中国・四国エリアの高校2年生の「大学・短大等進学希望者」で回答のあった6,162人のうち、本学に「入学したい」と回答した者が260人(4.2%)いた。その回答者数は、本学の入学定員80人の3倍以上である。これにより、学生確保の見通しを立てることができる。

さらに「入学を検討したい」という回答者1,616人(26.2%)を加えると、合計1,876人となり、入学定員の80人の23倍を超える。「入学を検討したい」と回答した者についても、本学の今後のPR活動・学生募集等によって入学希望者となる可能性がある。**(資料9 本学への入学希望者数)**

##### 4)-2 「資料9 本学への入学希望者数」に係るデータの概要

資料9には、「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称) 受容性調査結果報告書【高校生】」の数量データを用いている。

この「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称) 受容性調査【高校生】」は、本学が委託した第三者機関の株式会社日本ドリコムによって、令和元年(2019)年8月から9月にかけて実施された。

本調査【高校生】では、質問紙調査が、中国・四国エリアの高校に在籍する高校2年生13,000人を対象として、留置法で実施された。(また、同地域で開催された進学ガイダンスにおいても質問紙調査が実施され、高校2年生75人から有効回答が得られた。)回収された質問紙は、8,775件(回収率67.5%)である。調査協力高校は、103校であった。回答者

の性別は、性別未記入者 66 人を除き、男子 4,229 人 (48.6%)、女子 4,480 人 (51.4%) である。

同調査【高校生】では、回答者属性、高校卒業後の進路選択等の他に、本学についての質問で、「本学の認知度」、「観光振興学科の特色の中で興味・関心があるもの(進学希望者)」、「観光振興学科のオープンキャンパス参加意向(進学希望者)」、「観光振興学科への入学意向(進学希望者)」、「入学後、目指したい職種(進学希望者)」、「入学しない理由」等が質問された。

「資料9 本学の入学希望者数」については、同調査【高校生】で大学・短大等進学希望者に対し「観光振興学科への入学意向」を質問して、回答者 6,162 人中、「入学したい」が 260 人 (4.2%)、「入学を検討したい」が 1,616 人 (26.2%)、「入学しない」が 4,286 人 (69.6%) となっている。**(資料10 受容性調査【高校生】結果報告書)**

「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称) 受容性調査【高校生】」概要は以下のとおりである。

①調査目的

本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)の設置構想に伴い、具体的に受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志願者の分析を行い、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

②調査期間

2019年8月～2019年9月

③調査対象・地域・方法

中国・四国地域の高等学校に在籍する高校2年生13,000名を対象に定量調査(留め置きアンケート調査)を実施。(また、同地域で開催した進学ガイダンスでも定量調査を実施し、高校2年生75名から有効回答を得た。)

なお、進学ガイダンスでは、在籍高校名を記入の上回収しており、留め置きアンケート調査で協力を得られた高等学校の場合及び高等学校の記載が無い場合は、重複のないよう除外した。

④調査対象の選定理由

開学当初は、四国地域及び対岸の中国地域の高等学校等の生徒が本学への有望な進学希望者となり得ると考えられるため、四国地域(香川、愛媛、徳島、高知)及び中国地域の一部(岡山、広島)の高等学校に調査を依頼した。

⑤回収状況

高校生8,775件(回収率約67.5%)。

協力を得られた高等学校一覧は以下のとおりである。

⑥調査協力校一覧(103校)

都道府県	高等学校名
香川県	高松工芸高等学校/高松商業高等学校/高松東高等学校/高松西高等学校/高松南高等学校/英明高等学校/高松中央高等学校/丸亀城西高等学校/大手前丸亀中学・高等学校/香川県藤井高等学校/坂出高等学校/坂出商業高等学校/坂出工業高等学校/尽誠学園高等学校/観音寺第一高等学校/観音寺総合高等学校/志度高等学校/三本松高等学校/石田高等学校/藤井学園寒川高等学校/飯山高等学校/農業経営高等学校/多度津高等学校/琴平高等学校/笠田高等学校/高瀬高等学校/高松北高等学校/香川中央高等学校/高松桜井高等学校/高松高等学校<定時制>/丸亀高等学校<定時制>/丸亀高等学校<通信制>/多度津工業高等学校<定時制>/クラーク記念国際高等学校<高松キャンパス>/村上学園高等学校<通信制>/松陰高等学校 高松校/善通寺養護学校/穴吹カレッジキャリアアップスクール高松校/香川誠陵高等学校/坂出第一高等学校



徳島県	城南高等学校/徳島商業高等学校/生光学園高等学校/鳴門渦潮高等学校/富岡東高等学校/城西高等学校<神山校>/小松島西高等学校<勝浦校>/海部高等学校/吉野川高等学校/穴吹高等学校/つるぎ高等学校/龍昇経理情報専門学校<高等課程>/穴吹カレッジキャリアアップスクール徳島校
愛媛県	松山商業高等学校/今治東中等教育学校/新居浜南高等学校/大洲高等学校/野村高等学校/小松高等学校/上浮穴高等学校/伊予高等学校/松山南高等学校/松山西中等教育学校/聖カタリナ学園高等学校/済美高等学校/松山中央高等学校/松山聖陵高等学校/東温高等学校/第一学院高等学校<松山キャンパス>
高知県	室戸高等学校/嶺北高等学校/清水高等学校<定時制>
岡山県	倉敷高等学校/玉野高等学校/岡山龍谷高等学校/井原高等学校<南校地>/おかやま山陽高等学校/岡山市立岡山後楽館高等学校/学校法人三友学園専修学校自由高等学院クラーク記念国際高等学校 連携校 岡山キャンパス/TAC岡山校/東岡山工業高等学校/西大寺高等学校/山陽女子高等学校/就実高等学校/岡山理科大学附属高等学校/清心女子高等学校/倉敷翠松高等学校/総社南高等学校/高梁城南高等学校/瀬戸南高等学校/鹿島朝日高等学校<通信制>/KTC おおぞら高等学院<岡山キャンパス>
広島県	福山商業高等学校/福山葦陽高等学校/大門高等学校/福山明王台高等学校/府中東高等学校/沼南高等学校/神辺高等学校/戸手高等学校/芦品まなび学園高等学校/並木学院福山高等学校/穴吹カレッジキャリアアップスクール福山校

#### ⑦調査結果まとめ

進学希望者で回答のあった者	
6,162名	
↓	
入学したい	入学を検討したい
260名	1,616名

#### ⑧その他

アンケート実施の際、当初、学科名を「観光事業学科」としていたが、その後、設置構想を精査し、より良い教育目標、教育課程、授業科目、臨地実務実習を構築する過程において、より教育研究上の目的にふさわしい名称として、「観光振興学科」に変更した。

### 5) 競合校の状況

#### 5)-1 四国地域の短期大学の学科系統別定員充足率からみた学生確保の見通し

本学が立地する香川県を含む四国地域には、令和元(2019)年10月1日現在で11校の短期大学があり、それらの短期大学には合わせて28学科が設置されている。それら28学科のうち、定員を充足しているのは、4学科である。28学科の定員充足率は、全般的に高くない。その中でも相対的に定員充足率が高い系統は、主に「社会系」と「教育系」である。

特に「社会系」は設置されている6学科のうち、3学科において定員を充足している。また、香川県内に「社会系」は2学科設置されているが、そのうち1学科は定員を充足している。

さらに、この「社会系」の6学科の入学定員をみると、入学定員40人、60人(2学科)、70人(2学科)、100人であるが、定員未充足の3学科の入学定員は40人と60人のうち1学科、70人のうち1学科であり、定員を充足している学科は、60人のうち1学科、70人のうち1学科、100人の学科であることから、本学の入学定員80人も適切妥当と考える。

(資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率)

## 5)-2 競合校の入学者の状況からみた学生確保の見通し

本学が立地する香川県を含む四国地域には、本学の設置する「観光振興専門職」教育と競合する同系統の学科や専攻を設置する短期大学はないが、隣接県の徳島県2校と愛媛県1校の短期大学において、本学の「観光振興学科」と「名称」上で似ている「観光ビジネスコース」（徳島文理大学短期大学部 言語コミュニケーション学科）、「地域ビジネスコース」（四国大学短期大学部 ビジネス・コミュニケーション科）、「国際観光ビジネスコース」（今治明德短期大学 ライフデザイン学科）といったコースがある。

しかし、これらの3コースは、それぞれ、「言語コミュニケーション学科」、「ビジネス・コミュニケーション科」、「ライフデザイン学科」という学科に配置されているコースであり、コース別の定員充足率は算出されていない。学科別では以下の通りである。

徳島文理大学短期大学部 言語コミュニケーション学科 0.85（入学者17/定員20）

四国大学短期大学部 ビジネス・コミュニケーション科 0.97（入学者58/定員60）

今治明德短期大学 ライフデザイン学科 0.89（入学者89/定員100）

### （資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率）

これら3学科の定員充足率の平均は、93.33%であり、定員未充足ではあるものの、全国の短期大学の定員充足率の平均（87.15%）に比較して高く、社会系及び観光系の人気を反映しているものと言える。これら3学科の各コースは、本学の「観光振興学科」という「観光振興のエキスパートの養成」を前面に打ち出した「観光振興専門職」教育とは、教育課程（3年制）、教育内容・方法、長期の臨地実務実習等において違いがあり、直ちに競合するものではないと考えているが、それらを受験生や保護者に対して明確に説明して、訴求力のある学生募集を行っていくことにより、定員充足の見込みを立てることができる。

## 5)-3 「資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率」に係るデータの概要

資料11は、四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率を参照するために、各短期大学が情報公開した資料の各種データより作成した。

四国地域には、私立11校の短期大学が設置されている。それらの所在地は、香川県2校、徳島県3校、愛媛県5校、高知県1校である。

四国地域の各短期大学には多様な系統の学科が設置されている。それらの学科を系統別に見ると、「保健系」（医療衛生学科、看護学科）、「農工系」（自動車工業学科）、「人文系」（言語コミュニケーション学科）、「社会系」（経営情報科、商科（2校、1校は夜間）、現代ビジネス学科、秘書科、ビジネス・コミュニケーション科）、「家政系」（生活文化学科、生活科学科、食物栄養学科、ライフデザイン学科、人間健康科、生活科学学科）、「教育系」（子ども学科（第I部・第III部）、保育科（2校）、保育学科（2校）、幼児教育保育科、幼児教育学科、幼児保育学科、人間発達学科）、「芸術系」音楽科（2校）に分けられる。

四国地域の11校の短期大学における28学科の内、定員が充足されている学科は、4学科である。その学科と充足率を見ると、「社会系」の経営情報科（1.12）、現代ビジネス学科（1.13）、商科（1.11）、「教育系」の保育科（1.00）となっている。

### （資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率）

## ウ 学生納付金の設定の考え方

本学は、学生納付金を次のように設定する。

区分	金額
入学金	200,000円
授業料	700,000円
施設費等	220,000円
実習費	0円
諸会費	30,000円
初年度納付金	1,150,000円

学生納付金の設定に当たり、近隣の短期大学及び他県の社会系・観光系統学科の短期大学における学生納付金を比較のために調査した。近隣の短期大学については、進学希望者が学生納付金額の多寡を比較することによって、本学の志望を回避することのないように、入学金を低くし、初年度納入額を同等程度になるように設定している。また、他県の大都市に立地する観光系統学科の短期大学については、本学が地方に立地することを考慮して、本学の学費がより低くなるように設定した。

#### **(資料 12 近隣の短期大学及び他県の短期大学同系統学科の学生納付金)**

本学は、他の短期大学と異なり、実習費については学生の実費とする。これは、臨地実務実習においては、学生の進路に応じたクラス編成がなされ、それぞれの実習計画毎に、臨地実務実習施設が異なるためである。臨地実務実習施設の選定にあたり、学生の負担がなるべく少なくなるよう考慮しているが、場合によっては、臨地実務実習の教育上の効果をより高めるために遠隔地の臨地実務実習施設を選定することがある。その場合には、廉価な寮の確保等によって、学生の負担を軽減するように配慮する。

このように教育の充実による比較衡量の結果として算出された学生納付金の設定には妥当性があると考えられる。

## **② 学生確保に向けた具体的な取組状況**

本学園は香川県高松市において、昭和 60 (1985) 年に四国情報ビジネス学院を開設し、それ以降も地域の人材育成のニーズに応え、各種の専門学校を順次開設してきた。現在では、高松市内に 9 つの専門学校を設置している。また、姉妹校として、徳島県に 3 校、広島県に 6 校の専門学校がある。本学園の全専門学校は、企業の業務現場で即戦力となる有為な人材を育成する職業教育を 30 余年にわたり実践してきた。そして、姉妹校を含めた専門学校 18 校の 52 学科で文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受けている。平成 31 (2019) 年 3 月末現在で 18 校の卒業生累計 36,014 名が、専門技能業務の現場で活躍し実績を残すことで、地域社会の発展に貢献してきた。

今後も有為な人材の養成に重点的に注力し、地域社会の発展に貢献することが、長年この地において、地域社会と連携し、また支援を得ながら、高等教育機関を設置・運営してきた本学園の使命及び責任であると認識している。

一方で、本学園が所在する香川県では大学・短期大学の整備が十分とは言えない。都道府県別 100 万人当りの大学・短期大学数を見ると、香川県は 6.11 校 (全国 37 位) と全国平均 8.75 校に対して 2.64 校少ない状況である。**(資料 13 都道府県別大学と短期大学数と人口)**

平成 30 (2018) 年度の学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」によると、香川県の県内進学率は 13.5% (全国 37 位) であり、全国平均の 27.2% と比較して非常に少ない状況である。**(資料 14 出身高校の所在地県別県内進学率)**

従って、香川県高松市における新たな高等教育機関の設置が、香川県内の大学進学者が県外に流出するのを止める一助となり得ると同時に、県内の高校生等の進路選択の幅を拡大し、香川県の高等教育の発展と向上に寄与することができるものと分析している。

本学は、「観光振興専門職」教育という本学独自の教育理念と教育方針が、地域社会において広く的確に認知されるよう、PR 活動と学生募集活動を展開する。

## **ア 学生確保に向けた取組体制**

本学の「観光振興専門職」教育については、入学が期待される「高校生」にとっても、学生の卒業後の就職先となる「企業」にとっても、関心はかなり高い。こうした需要をさらに創出するために、以下の取組を積極的に実践することで、長期的かつ安定的な学生確保が見込まれる。具体的には、学生確保を担当する部署として、広報課を配置し、学生募集活動、また大学の広報活動を行う。本学設立時までの学生確保にあたっては、「設置認可申請中から認可前の広報活動」と「設置認可後の学生募集活動」に分けて取組を行う。

## イ 設置認可前のPR活動

認可前のPR活動では、告知できる内容とできない内容とを峻別し、高校教員、高校生、社会人、保護者等に、本学本学科へ継続的な関心を喚起するよう、次のような多様な媒体や活動を通して、長期間に渡る告知を行っていく。

なお、PR活動を行うにあたっては、設置計画は現在認可申請中であること、及び設置計画は予定であり内容に変更があり得ることを明確に記載するとともに、動画でのPR活動を行う際には、これらの内容を常時明示する。

### ◎パンフレット等の制作と配布

設置構想内容を記載したパンフレット、チラシ等を制作し、高校訪問、進学ガイダンス、オープンキャンパスにおいて配布する。それらは、本学の資料請求者にも送付する。その他、ポスターや動画など、本学が設置構想中である旨を告知するための媒体も制作する。資料請求数の目標は、1,200名とする。これは、既設専門学校の過去3年の資料請求数に対する出願割合が過去3年平均で約7%であり、この割合を基に本学科の入学定員80名を確保するために必要な資料請求数を計算したものである。**(資料15 既設専門学校の資料請求数、体験入学動員と出願状況)**

#### 【効果】

パンフレット等の制作と配布は、高校生及び保護者に対し認知度を高め、社会一般への設置の趣旨等の周知において効果を発揮する。

### ◎高校訪問

高校訪問を行い、主に進路指導担当教員に対し、本学の設置構想の内容と「観光振興専門職」教育の特色について説明する。今後も継続的に高校訪問を行い、設置構想内容の説明をするとともに、本学が設置構想中である旨を記載したチラシやポスターの掲示を依頼する。

#### 【効果】

高校の進路指導担当教諭と将来の進路や本学の教育理念、教育方法等に関する共通理解を図ることは、学生募集上、最も重要であり、そのためには、高校訪問が最も効果的な方策である。

#### 【実績】

本学は当初2019年4月開学の予定で認可申請及び開学準備を進めていた関係から、すでに以下のような実績がある。

平成30(2018)年4月から5月にかけて、香川県40校、徳島県36校、愛媛県3校、岡山県5校、合計84校の高校に赴き、学校長及び進路指導担当教員に本学の設置構想に係る印刷物を手渡し、設置構想の趣旨を説明している。また、2018年11月から12月にかけては、香川県40校、徳島県25校、愛媛県16校、高知県20校、岡山県12校、合計113校の高校に赴き、掲載情報を更新したパンフレット及び12月23日に開催した第1回目のオープンキャンパス(学校説明会)の開催案内のチラシを配布し、また、本学が設置認可申請中である旨を記載したチラシやポスターの掲示を依頼した。

### ◎オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスを年間8回開催し、「観光振興専門職」教育の説明、キャンパス案内、模擬授業、質疑応答、個別相談等を実施する。オープンキャンパス開催時には、入学希望者の保護者に対しての説明会も同時に行う。オープンキャンパスの開催の告知方法としては、本学ホームページ、進学情報誌、進学サイト、資料請求者へのダイレクトメールやSNSの他、進学ガイダンスや高校訪問でも案内を行う。オープンキャンパスの参加者数目標は、200名とする。これは、既設専門学校の過去3年の体験入学に対する出願割合が過去3年平均で約40%であり、この割合を基に本学科の入学定員80名を確保するのに必要なオープンキャンパス参加者数を計算したものである。**(資料15 既設専門学校の資**

## 料請求数、体験入学動員と出願状況

### 【効果】

オープンキャンパスは高校生及び保護者の興味と関心を喚起し、繰り返しの参加により、本学への信頼感と志望度を向上させる効果がある。

### 【実績】※高校訪問と同様の経緯あり

①第1回目のオープンキャンパス（学校説明会）を、2018年12月23日に、学校法人穴吹学園の本部が所在する穴吹医療大学校において開催し、高校生（2年生15名、1年生2名）及び保護者、高校教員等合計38名が来場した。当日のプログラムには、上記の説明等に加えて瀬戸内の観光においてキーパーソンとなる二人の人物により、瀬戸内の観光の現状と課題について、トークセッションを行うなどの工夫を凝らし、会場には観光業に携わりたいという意欲のある高校生たちの笑顔が溢れていた。また、終了後のアンケート調査によると満足度は高く（とても満足53.8%、満足38.5%、合計92.3%）、オープンキャンパス（学校説明会）終了後に希望者のみが参加する個別相談会には、参加生徒17人中8人（47.1%）が参加した。**（資料16 オープンキャンパス（学校説明会）アンケート）**

②第2回目のオープンキャンパス（学校説明会）を、2019年3月23日に、本学の校地校舎となる予定の高松テルサにおいて開催し、高校生34名（2年生31名、1年生3名）及び保護者、高校教員等合計91名が来場した。

## ◎会場型・高校内進学ガイダンスへの参加

業者が主催する会場型進学ガイダンスおよび高校内ガイダンスに参加し、直接高校生や保護者に、本学の設置構想内容を記載した印刷物を配布の上、学校概要の説明を行う。今後も安定した学生確保ができるよう、高校3年生が対象のものだけでなく、高校1・2年生を対象としたガイダンスにも積極的に参加する。

### 【効果】

会場型・高校内進学ガイダンスは、高校の授業時間を利用して、学年全体で1会場を訪れることもあり得るため、本学について知らなかった、あるいは興味がなかった高校生等に対し、関心を喚起する重要な機会であり、きっかけづくりとしての効果が大きいと期待される。

### 【実績】※高校訪問と同様の経緯あり

#### ①会場型ガイダンスの実績

・実施済20回（2018/9/19高松、9/21徳島、10/4高松、11/7高知、11/8高松、11/9岡山、11/14徳島、11/14高松、11/19坂出、11/20高松、12/13高知、2019/1/29観音寺、1/30観音寺、2/1善通寺、2/8高松、2/13高松、3/18高松、4/22高松、4/23高松、6/6高松）

（実施済みの会場型ガイダンスにおいて、本学のブースに着席した人数 101名）

#### ②高校内進学ガイダンスの実績

・実施済8回（2018/12/20高松工芸高校、2019/1/22高松高等学院、2/13津田高校、3/4石田高校、4/4三木高校、5/21英明高校、6/5琴平高校、6/6飯山高校）

（実施済みの高校内進学ガイダンスにおいて参加した生徒数 35名）

## ◎進学情報誌等の活用

進学情報誌に本学観光学科の情報や広告を掲載し、本学の「観光振興専門職」教育の認知度が向上するようにそれらを活用する。また、進学情報誌だけでなく、インターネットを使った進学サイトでも設置構想内容をPRしていく。

### 【効果】

進学情報誌やインターネットを使った進学サイトにおいて、本学の存在をPRすることは、本学への理解を深めるための絶好の機会であり、効果的である。

**【実績】※高校訪問と同様の経緯**

- ・掲載した進学情報誌 3誌
- ・掲載中のインターネット進学サイト 3サイト
- ・進学雑誌やインターネット進学サイトからの資料請求件数 644件  
(2019年10月17日現在)

**◎高校での出張授業等**

観光分野の出張授業を高校に案内し、希望のあった高校で本学の教員が出張授業を実施する。また、高等学校からの要請に応じて、キャンパスの見学会や体験授業などを受け入れる。本学の学校概要のPRのだけでなく、「観光学」および「観光振興専門職」への関心を喚起する活動にも努める。

**【効果】**

本学教員が高校等で模擬授業を行うことで、大学教育に対する興味と理解を喚起する重要な機会となっている。また、1回の出張授業だけでなく、高校の教育課程に含まれる「総合的な探究の時間」の連続した授業等も行っており、大学教育に対する興味と理解を喚起するために、非常に重要な機会となっている。

**【実績】※高校訪問と同様の経緯あり**

- ・香川県立高松東高等学校2年生 総合的な探究の時間「香川の観光と統計学」  
(平成31年4月～令和2年3月 毎週水曜日の第6限目 全31回)

**(内容)**

香川県の観光における現状と課題をビッグデータやフィールドワークを用いてグループで分析し、まとめを行い、論理的に発表する。

- ・その他、県内外の高等学校から観光に関する授業や講演等の依頼がある。  
(実施済：2件、予定：2件)

**◎本学ホームページの活用**

平成30年3月より、本学のホームページを作成し、公開している。(URL：<http://www.seto.ac.jp/>) このホームページでは、設置構想の告知の他、資料請求や問合せも受け付けている。今後も引き続きこのサイトを更新し、設置構想内容、学校概要のPR活動を行う。

**【効果】**

ホームページにより、本学の存在をPRすることは、本学への理解を深めるための絶好の機会であり、効果的である。

**【実績】※高校訪問と同様の経緯あり**

本学のホームページからの資料請求件数 120件 (2019年10月17日現在)

**◎その他の媒体の活用**

Twitter、FacebookといったSNSや、Web広告等のインターネット媒体を使用したPR活動も行う。これらは、高校生だけでなく、保護者や社会人向けの情報発信ツールとしても有効に活用する。

**【効果】**

SNSにより、本学の存在をPRすることは、本学への理解を深めるための絶好の機会であり、効果的である。

**◎本学の設置構想についての説明会の開催**

本学は当初2019年4月開学の予定で認可申請及び開学準備を進めていた関係から、平成30(2018)年5月8日に香川県教育委員会、及び同年6月6日に香川県高等学校校長会において、それぞれ本学の設置構想を告示する説明会を実施した。また、同年7月3日、5日、6日に、それぞれ香川県、徳島県、広島県(福山市)において、本学が設置構想の説

明会を開催し、高校の進路指導担当教員等に設置構想を説明した。今後も、高等教育関係者に向けた説明会を開催し、本学の設置構想について理解を深めてもらえるよう努めることとする。

## ウ 設置認可後の学生募集活動

認可後は、上述の活動の継続的な実施に加え、本学「観光振興専門職」教育のカリキュラム、臨地実務実習、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー等の詳細かつ具体的な内容を開示する。また、入学者選抜方法についても、速やかに告知する。「観光振興専門職」教育への関心を高め、本学への入学志願者を増大させるべく、学生募集活動を行う。

### ◎入試説明会の開催

認可後、速やかに入試説明会を開催し、募集要項の配布や入学試験内容等の説明を行う。

#### 【効果】

入試の詳細等については、受験生の最大関心事であり、認可後速やかにかつ丁寧に説明することにより、受験意欲を喚起する効果がある。

### ◎高校訪問による学生募集活動の実施

高校訪問を行い、進路指導担当教員に募集要項を手渡すとともに、入学試験の概要説明を行う。オープンキャンパスの参加履歴などをもとに、入学希望者が見込まれる高等学校については複数回訪問し、受験の動向等に関する情報を交換しながら学生募集活動を展開していく。

#### 【効果】

高校の進路指導担当教諭と将来の進路や本学の教育理念、教育方法等に関する共通理解を図ることは、学生募集上、最も重要であり、そのためには、高校訪問が最も効果的な方策である。

### ◎其他媒体等による学生募集活動の実施

認可後、速やかに本学ホームページ、進学情報誌、進学サイト及び資料請求者へのダイレクトメール等で、入学試験内容の情報を発信する。また、進学ガイダンス、入試説明会で高校生や保護者が募集要項を見ながら直接説明を聞く機会を設ける。

#### 【効果】

ホームページやSNS等により、本学の存在をPRすることは、広く本学への理解を深めるための絶好の機会であり、効果的である。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### ア 我が国の観光振興の現状と課題

近年の我が国の大きな社会変革の一つが急激な「観光振興」である。とりわけ、我が国のインバウンドが平成 15（2003）年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に 521 万人であった訪日観光客到着数が、特に平成 24（2012）年以降に急増して、平成 30（2018）年には過去最高の 3,119 万人となった。また、平成 28 年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。これらのインバウンドの波は都市部だけではなく、すでに地方にも及んでいる。（資料 17 明日の日本を支える観光ビジョン（抄））

そのような状況の中、香川県高松市を中心とする瀬戸内地域（以下「瀬戸内」という）においては、観光産業が事業の拡大に尽力し、観光客入込み数の増大に成果を挙げている。特

に、香川県においては、高松市内の中心商店街である高松丸亀町商店街で、観光振興に伴う大規模な商店街再開発が行われている。その商店街活性化によって、活気溢れる商店街が実現し、それが観光対象となって高松市の観光振興全体に大きく寄与している。また、香川県小豆郡の小豆島でも、観光振興によって島の観光客入込み数が増大し、それとともに島民による地域活性化の事業が実績を上げつつある。

また、2010年度から3年に1回、瀬戸内海の島々を舞台に、現代美術の国際芸術祭（瀬戸内国際芸術祭）が開催され、訪れる観光客は増加傾向にあるとともに、官民が連携して、来訪者の確保等に積極的に取り組んでいる。瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」をテーマに掲げ、島の住人と世界中からの来訪者の交流により瀬戸内海の島々に活力を取り戻し、伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して瀬戸内海の魅力を世界に発信し、地球上のすべての地域の「希望の海」となることをめざしている。海外からの注目度の高さについては、瀬戸内の島々が米国ニューヨーク・タイムズ誌の「2019年に行くべき52か所」のうち第7位に選ばれていることから明白である。（資料 18 米国ニューヨーク・タイムズ誌「2019年に行くべき52か所」）

さらに、香川県高松市が所在する四国地方には、四国に所在する空海（弘法大師）ゆかりの88か所の寺院（四国八十八箇所）を巡拝する「四国遍路」という巡礼の文化があり、それに伴い、巡拝するお遍路さんに対して、地元の人々が食べ物や飲み物などを無償で提供するという伝統的な習慣・文化（「お接待」と呼ばれている。）も生まれている。現在では、信仰だけでなく、さまざまな目的を持って四国巡礼に来訪するようになったが、来訪者の中には外国人も増加している。2015年4月に「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～が、日本遺産に登録され、自治体と各寺院が一体となって観光振興に取り組んでいる。（資料 19 日本遺産リスト）

このように我が国のインバウンドの急増と観光振興の発展が見込まれる状況とこの時期においては、現在及び将来に向けて、「観光産業と観光による地域創生事業」において、「観光振興」の担い手となる「エキスパート」の養成が求められている。（資料 20 本学の観光振興及び地域振興のイメージ）

観光振興のエキスパートを養成するためには、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランスよく修得し、それらを融合させながら、観光事業の各現場において企画、運営、管理等におけるマネジメント能力や創造力、リーダーシップを発揮するとともに、各地で課題となり始めたオーバーツーリズムへの対策等（資料 21 2019.7.30 日本経済新聞社説）にも従事することができる能力を修得させることが必要であるとともに、このような人材を比較的短期間のうちに養成することが、我が国の観光振興と地域社会の発展における喫緊の課題となっている。

## イ セとうち観光専門職短期大学の設置の趣旨及び教育研究上の目的

上記のような状況の中、我が国の観光教育の現状として、既存の四年制大学の観光学部等においては、学術的な理論を中心とした観光教育が行われているが、観光が学際的な学問であることから、観光を入り口として幅広い教養と知識が身に付き、汎用性の高いジェネリックスキルが養成されるため、現実には、公務員や銀行等の他業種に進路を変更する学生もいるなど、卒業生が必ずしも観光産業や観光による地域創生事業の担い手になるとは限られていない状況にある。（参考までに、「和歌山大学観光学部10周年記念誌」によると、和歌山大学観光学部における、2010年度から2015年度までの卒業生の観光関連業への就職実績は全体の24%である。）

一方で、既存の専門学校等においては、接客や顧客サービスに関するビジネススキルの修得に重点が置かれ、あくまで就職先として観光産業を捉えてきたため、観光産業の現場で従事する人材の量的な充実が図られてきたものの、我が国の観光振興や地域社会の発展を視野に入れた観光学の理論の修得や思考力の養成等についてはあまり注力されて来ず、「観光産業及び観光による地域創生事業」の現場において中核的な役割を果たす人材の質的な充実が図られていない状況にある。



このため本学園は、本学本学科を設置して、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を相互に融合し、バランスよく修得し、その基礎となる人間力や思考力をも兼ね備え、その職務を通じて観光振興の中核的な担い手となる高度専門職業人を養成したいと考えている。

本学園がこのような人材の養成に積極的に取り組み、我が国の大学における観光教育及び人材養成の一端を担うことは、我が国の高等教育の充実と発展に寄与するものであるとともに、香川県や高松市、瀬戸内の企業等からの期待や要望に応えるものである。**(資料 22 香川県知事要望書)(資料 23 高松市長要望書)** またこれは、観光を地方創生の切り札とし、GDP600 兆円達成への成長戦略の柱としている政府の施策とも軌を一にするものと思われる。**(資料 17 明日の日本を支える観光ビジョン(抄))**

本学は、以下のとおり「建学の精神」、「教育理念」、「養成する人材像」を定め、「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、本学が立地する瀬戸内を教育、研究、地域貢献の拠点として、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」に必要な観光の理論に基づいた実践的かつ応用的な能力を育成することを教育研究上の目的としている。

### 建学の精神

観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する

### 教育理念

- ①教員、職員、学生が、小規模な組織において一体となった教育の場を構築する。
- ②大学教育で修得されるべき思考力を涵養する。
- ③産業界との教育連携を拡充し、理論に裏付けられた実践力を育成することにより高度専門職業人の徹底的な実務教育を実践する。
- ④地域連携を深化させ、多様な地域貢献のあり方を模索し実現する

### 養成する人材像

本学が養成する人材「観光振興専門職」は、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」であり、観光振興専門職としての主な進路は、交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、DMO、NPO等において、以下の役割を担う総合職を想定しているが、将来的には、職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となることを期待している。

- ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
- ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
- ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
- ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
- ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。

## ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠 ア 観光振興の中長期的展望

このような観光振興の将来的な見通しについては、現代観光の隆盛という地球規模の社会的背景の中において、我が国では、(平成 28 (2016) 年 3 月 30 日に明日の日本を支える

観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたいくなる日本へ―」によれば、) 訪日外国人旅行者数の目標を、2020年には4,000万人、2030年には6,000万人としている。また、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020年には8兆円、2030年には15兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を2020年には7,000万人泊、2030年には1億3,000万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「3つの視点」と「10の改革」を掲げている。その後、政府が着実に改革を推進していることや東京オリンピック、大阪万博など世界規模のイベントが継続することから考えても、今後も長期的に右肩上がりの堅調な推移が期待される。(資料17 明日の日本を支える観光ビジョン(抄))

しかしながら、これらは自然と継続されるものではなく、観光振興の継続と発展のためには、観光振興の継続と発展を図る仕組みの中における創意工夫が不可欠であり、現場において様々な創意工夫を行いつつ、観光振興と観光による地域振興を牽引していく高度専門職業人の存在が不可欠である。(資料20 本学の観光振興及び地域振興のイメージ)

## イ 人材需要の動向等社会の要請に関するデータの概要

### 1) 「観光振興専門職」に対する地域の人材需要の動向

香川県の観光客入込数は、平成24(2012)年から5年連続で900万人台を越え、平成29(2017)年には946万人であった。香川県高松市とその周辺の瀬戸内地域では、観光産業が事業の拡大に尽力し、また各地で地域観光の振興が実践されているので、今後とも、国内外から観光客が増加すると予測される。そのために、地域の観光産業における「観光振興専門職」人材の需要は、益々増大している。(資料24 香川県交通機関別県外観光客入込数)

また、高松市や香川県内、その周辺の瀬戸内地域では、観光振興による地域振興事業が数多く実践され、成果を挙げている。特に高松市内の中心商店街である高松丸亀町商店街では、観光振興に伴う大規模な商店街再開発が行われてきた。その商店街活性化によって、活気溢れる商店街が実現し、それが観光対象となって高松市の観光振興全体に大きく寄与している。そして、香川県小豆郡の小豆島でも、観光振興によって島の観光客入込み数が増大し、それとともに島民による地域活性化の事業が実績を上げつつある。

高松丸亀町商店街と小豆島の両事例は、瀬戸内地域の他の観光や地域の振興事業とともに多くのメディアで紹介され、国内外から高い評価を広く受けてきた。このように、高松市と周辺地域における観光振興による地域振興の実績は、瀬戸内地域全体において観光振興の広がりを喚起している。

このような状況において、本学が育成しようとする人材、つまり観光振興と地域振興を同時に見据えた企画運営、地域活動の組織化、人的ネットワークの構築等を担う若い人材が早急に必要とされ、そのニーズに対応する「観光振興専門職」人材の需要が増大している。

### 2) 「観光振興専門職」に対する人材需要が生じる社会的動向

観光は、今や世界中に拡大し、世界経済の動向を左右さえするほどの社会的現実となった。1960年代に大衆観光が出現して以来、世界各地に国際観光客到着数が増大し続け、観光は「21世紀の基幹産業」となった。国際観光客到着数は、令和12(2030)年に18億人に達すると予測されている。こうした国際観光客到着数の増大は、我が国の観光立国宣言を契機として、我が国のインバウンド観光客数の急増にも反映する。この現実に対応して観光産業が国際的に拡大して、観光事業を担う人材の需要が増大してきた。(資料25 UNWTO (2018) Tourism Highlights, p.2) (資料26 訪日外国人旅行者数の推移)

本学が立地する瀬戸内においても、インバウンド観光客と国内観光客が増大している。このような現状に、観光の国際的な長期的予測を踏まえて考えると、観光が国内外で発展する動向は、長期的に続くと展望される。この動向に伴い、本学が立地する瀬戸内の観光事業全体が今後とも発展し、その観光産業及び観光による地域創生事業における「観光振興専門職」へのニーズも長期的に増大すると見込まれる。

### 3) 「観光振興専門職」を求める企業の人材需要

第三者機関に委託して実施したアンケート調査【企業】の結果によれば、本学が養成する「観光振興専門職」についての企業の人材ニーズは、全般的に高い。同調査【企業】の「本学が養成する人材」について、回答企業 254 社の内、「ニーズは極めて高い」という回答が 61 社 (24.0%)、「ニーズはある程度高い」という回答が 150 社 (59.1%) であった。回答した 254 社中 211 社 (83.1%) が、本学の養成する人材のニーズは高いと評価している。

また、同調査【企業】では、「本学が養成する人材の採用意向」について、回答した 258 社中、136 社 (52.7%) が「本学が養成する人材の採用」に前向きである。回答企業 258 社中、「採用したい」48 社 (18.6%)、「採用を検討したい」88 社 (34.1%)、「どちらともいえない」101 社 (39.1%)、「採用しない」21 社 (8.1%) という回答結果であった。

このように、本学が養成する「観光振興専門職」について、企業がそのニーズを評価し、採用しようとする状況は、その社会的需要が拡大する現状を反映している。

### 4) 「資料 27 本学の観光振興専門職教育への企業のニーズ」及び「資料 28 本学が養成する人材の採用予定」に係るデータの概要

資料 27 及び資料 28 には、「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」のデータが用いられた。

この「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査【企業】」は、本学が委託した第三者機関の株式会社日本ドリコムによって、令和元 (2019) 年 8 月から 9 月及び追加調査として令和 2 (2020) 年 2 月に実施された。

同調査【企業】の目的は、本学本学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体に対して、本学の設置構想についての関心度やニーズ、採用状況等を質問し、その回答結果を設置構想の基礎資料とすることである。

本調査【企業】では、700 社の団体を対象として、質問票が郵送ないしは持参で配布され、質問紙調査が留置法によって実施された。回収された質問紙は、261 件 (回収率 37.3%) である。

同調査【企業】では、回答社属性 (所在する都道府県、業種)、新卒採用・人材充足状況 (重視する能力、人材の過不足状況) 等の他に、本学観光振興学科が養成する人材について、「社会的ニーズ」、「採用意向」、「採用想定人数」、「本学への意見・要望」等が質問された。

「せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) 受容性調査結果報告書【企業】」の概要は、以下のとおりである。(資料 29 受容性調査【企業】結果報告書(2019 年 8 月～2019 年 9 月)) (資料 30 受容性調査【企業】結果報告書(2020 年 2 月))

#### ①調査目的

本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (仮称) の設置構想に伴い、該当学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体へ本構想に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

#### ②調査期間

2019 年 8 月～2019 年 9 月及び 2020 年 2 月

#### ③調査対象・地域・方法

企業・団体 700 社・団体を対象に郵送もしくは持参でアンケート調査を実施。

#### ④回収状況

261 件 (回収率約 37.3%)

### (3) 中長期的な学生確保の見通し

18歳人口の減少や全国の短期大学への進学率が低下するなど、専門職短期大学にとって厳しい状況にあることは認識しているが、それらを払拭するために以下のような観点から分析を行い、本学の中長期的な学生確保の見通しを立てている。

#### ①世界的な観光の隆盛とその持続性

世界の観光客数は、第二次大戦の戦禍から経済復興を遂げた先進諸国において昭和40(1965)年代に激増し始め、さらに平成7(1995)年頃以降には中進諸国からも急増して、現在に至るまで世界全体でほぼ右肩上がりに増大した。国連世界観光機関の統計によれば、先進国に大衆観光が出現した昭和35(1960)年に年間7,000万人であった国際観光客到着数は、平成29(2017)年には13億2,600万人(前年比7%増)となり、2030年には18億人に達すると予測されている。さらに、国際観光収入総額は1兆3,400億米ドル(前年比5%増)となった。観光は、今や地球規模の巨大な社会現象であり、観光の経済的規模は、2017年に世界全体のGDP総額(79兆8000億米ドル)の10.4%(8兆3,000億米ドル)を占め、3億1,300万件の雇用(全雇用の9.9%)を生み出している。こうして、観光は、「21世紀の基幹産業」であると評価されるが、同時に、世界中で観光地の社会、文化、環境等に多大な負の影響を及ぼすと批判もされた。そのような観光の負の影響にも拘わらず、観光客の「爆発的な増大」という事実から明白なように、観光は世界中の誰もが望む余暇活動であり、すべての人々が享受すべき「人権」である、と国際的に認識されている。

そこで、観光地に弊害をもたらす従来の観光に代わる新たな観光形態が、昭和50(1975)年代以降に国連世界観光機関等の観光関係機関によって模索され、実践され始めた。持続可能な観光とは、観光地に負の効果を与えず、むしろ観光を通して、観光地の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりする観光形態であり、それによって、観光地の持続可能性を実現すると同時に、観光それ自体の持続可能性をも具現する観光形態である。このような、現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、観光による地域創生や観光まちづくりの観点から観光振興と地域社会の発展を実現することができる人材を速やかに育成することが、我が国の観光にとっても喫緊の課題となっていると同時に、そのような人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

#### ②我が国における観光振興の現状と政府の施策

我が国のインバウンドが平成15(2003)年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に521万人であった訪日観光客到着数が、特に平成24(2012)年以降に急増して、平成30(2018)年には過去最高の3,119万人となった。

また、平成28(2016)年3月30日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたい日本へ―」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020年には4,000万人、2030年には6,000万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020年には8兆円、2030年には15兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を2020年には7,000万人泊、2030年には1億3,000万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「3つの視点」と「10の改革」を掲げた。その後、政府は着実に改革を推進している。

このように「観光」は我が国の経済を支える主要な産業であり、「観光」を抜きにしては、我が国の発展は考えられないといってもおかしくない状況にあり、「観光」を支える中核的人材の需要は中長期的に安定したものとなると分析している。

#### ③大学における社会系学部の定員充足率

日本私立学校振興・共済事業団「平成31(2019)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向」によると、本学に関連する「観光ビジネス」、「観光」、「地域創造」、「地域創生」といった大学における学部系統区分は、「社会科学系」に包含されている。「社会科学系」は、「経済学部、経営学部、法学部、商学部、社会学部、社会福祉学部、総合政策学部、

人間社会学部、現代社会学部、経営情報学部、情報学部、経済経営学部、現代ビジネス学部、観光学部、政治経済学部、総合経営学部、国際経営学部、総合福祉学部、国際観光学部、経営経済学部、環境情報学部、人間福祉学部、その他」の23の学部系統に細分化されている。

「社会科学系」では、「過去5カ年における学部系統別の入学定員充足率」が掲載されているが、その各年の定員充足率は、平成27年度104.92%、平成28年度105.61%、平成29年度106.93%、平成30年度104.51%、平成31年度103.51%であり、いずれも定員を充足している。また、志願倍率は、平成27年度7.16倍、平成28年度7.66倍、平成29年度8.46倍、平成30年度9.21倍、平成31年度9.85倍と右肩上がりの上昇を示している。

細分化された学部系統の中で、明確に「観光」を学部名に冠している学部は、「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部である。「観光学部」6学部の定員充足率は、平成30年度96.41%、平成31年度105.24%と、8.83ポイントの増加となっている。国際観光学部3学部の定員充足率は、平成30年度106.55%、平成31年度107.69%と1.14ポイントの増加となっている。観光学部と国際観光学部の平成31年度の定員充足率は、「社会科学系」の103.51%を2~4ポイント上回っている。また、志願倍率は、「観光学部」6学部で平成30年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,501名の9.2倍、平成31年度入学定員1,030名に対して、志願者が9,197名の8.9倍で若干減少したものの高い志願倍率を維持している。「国際観光学部」3学部で平成30年度入学定員611名に対して、志願者が6,793名の11.1倍、平成31年度入学定員611名に対して、志願者が7,769名の12.7倍と上昇しつつ、高い志願倍率となっている。このように「観光学部」6学部及び「国際観光学部」3学部は、「社会科学系」の人気を支える一つの要因になっていると思われる。

本学は3年制の専門職短期大学であり、大学におけるこれらのデータを直接に材料として説明することはできないが、本学の教育内容は「観光理論」においては、四年制大学の観光学部とそん色ない内容（学術系専任教員は現職の四年制大学の教員4名（うち3名が博士号取得者）と3月に北海道大学大学院を修了し博士の学位を取得することが内定している1名から構成されている。）とするよう努めていることから、卒業単位数や学位においては四年制大学との違いがあるものの、この点を重点的に高校生や保護者に説明するとともに、就職においては企業の採用担当者に四年制大学と同等なものと考えてもらうよう説明することによって、四年制大学の「社会科学系」のデータを援用することができるのではないかと分析している。

#### ④高校生に対するアンケート調査

学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類のとおり、本学が株式会社日本ドリコムに委託して実施した受容性調査【高校生】においては、中国・四国地域の高校2年生の「大学・短大等進学希望者」で回答のあった6,162人のうち、本学に「入学したい」と回答した者が260人（4.2%）いた。その回答者数は、本学の入学定員80人の3倍以上であった。

これにより、開学当初の学生確保の見通しを立てることができると考えているが、これを持続させ、中長期的な見通しを立てるためには、「学生確保→教育・研究の充実→産学連携・地域連携による支援体制の構築→安定した就職状況→学生確保」という好循環を生み出し、持続させることが必要であると分析している。

#### ⑤現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在となるための創意工夫

本学が大学とも異なり、短期大学や専門学校は次元を異にする教育を提供すること及びそれらを丁寧に説明して、現状の大学教育において、斬新で異彩を放つ存在として確立することにより、中長期的な学生確保の見通しが立てられるものと分析している。

#### ⑥産学連携・地域連携を通じた本学へ支援体制の構築

我が国と瀬戸内地域における観光と観光産業の振興はすでに進展しているが、今後はこのような産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に産業界や香川県、高松市、地域社会と連携し、それらに貢献していく必要がある。具体的には、優秀な人材の供給はもちろんのこと、産業界や香川県、高松市、地域社会に対して必要な提案や提言等の支援を行っていく必要がある。このため、本学は「せとうち観光学研究所」を学内に設置し、産学連携・地域連携の拠点とする。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、産業界や香川県、高松市、地域社会と一体となって、その解決に取り組む。

これらの産学連携・地域連携を通じて、本学の支援体制を構築していくことは、おのずと本学の認知度や信頼度の向上を図ることとなり、中長期的な学生確保の見通しを立てるうえで重要な要素であると分析している。

#### ⑦学生確保に向けた具体的取組への重点化

本学設置準備室においては、学生の確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類に記載したとおり、学生確保に向けた具体的取組を行っているが、2019年12月より、広報・学生募集担当者を1名増員し、合計3名体制で様々な取り組みを推進している。オープンキャンパスはもちろんのこと、高校訪問や会場型・高校内進学ガイダンス、広報媒体の活用を重点的に強化し、本学及び本学の教育課程の特色等に対する認知度及び信頼度の向上に努力している。

香川県の人口は、令和元年度の香川県人口移動調査結果によると、6,031人減少して、平成12年度から20年連続の減少となった。その内訳は自然増減が△5,492人、社会増減が△539人である。社会増減には、県内における転入転出を含むため、これを県外移動のみに限定すると△774人となっている。これらの転出先としては、東京都を中心とする首都圏及び大阪府を中心とする関西圏に集中していることが分かる。

また、香川県の年齢別人口構成は、男女とも第1次ベビーブーム世代（70～72歳あたり）が最も多く、次いで第2次ベビーブーム世代（45～48歳あたり）が多くなっており、二つの階級を中心としたふくらみを持つ「ひょうたん型」の形態となっているが、特に県外への就学・就職が多い20歳代は少なくなっている。

このことから、県外への就学・就職が多い20歳代が首都圏や関西圏に多く流出していることが分かるが、これには香川県内に大学及び短期大学が少ないことも影響しており、本学の設置によりこれらの人口流出減少に歯止めをかける一助となるものと思われる。

本学は、これまでに述べた学生確保に向けた具体的取組の重点化により、若年層を県内に留めるよう尽力し、同時に学生確保の見通しを立てていきたいと考えている。

## <資料目次>

- 資料 1 学部系統別の動向
- 資料 2 観光系大学の入学者動向
- 資料 3 学科系統別の動向
- 資料 4 観光系短期大学の入学者動向
- 資料 5 全国及び四国地域の 18 歳人口の推移
- 資料 6 全国の短期大学の進学率の推移
- 資料 7 既設専門学校の定員充足率
- 資料 8 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～（抄）
- 資料 9 本学への入学希望者数
- 資料 10 受容性調査【高校生】結果報告書
- 資料 11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率
- 資料 12 近隣の短期大学及び他県の短期大学同系統学科の学生納付金
- 資料 13 都道府県別大学と短期大学数と人口
- 資料 14 出身高校の所在地県別県内進学率
- 資料 15 既設専門学校の資料請求数，体験入学動員と出願状況
- 資料 16 オープンキャンパス（学校説明会）アンケート
- 資料 17 明日の日本を支える観光ビジョン（抄）
- 資料 18 米国ニューヨーク・タイムズ誌「2019 年に行くべき 52 か所」
- 資料 19 日本遺産リスト
- 資料 20 本学の観光振興及び地域振興のイメージ
- 資料 21 2019. 7. 30 日本経済新聞社説
- 資料 22 香川県知事要望書
- 資料 23 高松市長要望書
- 資料 24 香川県交通機関別県外観光客入込数
- 資料 25 UNWTO (2018) Tourism Highlights, p.2
- 資料 26 訪日外国人旅行者数の推移
- 資料 27 本学の観光振興専門職教育への企業のニーズ
- 資料 28 本学が養成する人材の採用予定
- 資料 29 受容性調査【企業】結果報告書(2019 年 8 月～2019 年 9 月)
- 資料 30 受容性調査【企業】結果報告書(2020 年 2 月)

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料1 学部系統別の動向

2. 出典

日本私立学校振興財団・共済事業団

平成31（2019）年度 私立大学短期大学等 入学志願動向

3. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>

P22-24



1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料2 観光系大学の入学者動向

2. 出典

日本私立学校振興財団・共済事業団

平成31（2019）年度 私立大学短期大学等 入学志願動向

3. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>

P25-26

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料3 学科系統別の動向

2. 出典

日本私立学校振興財団・共済事業団

平成31（2019）年度 私立大学短期大学等 入学志願動向

3. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>

P60-61

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類  
資料4 観光系短期大学の入学者動向

2. 出典

日本私立学校振興財団・共済事業団

平成31（2019）年度 私立大学短期大学等 入学志願動向

3. <https://www.shigaku.go.jp/files/shigandoukouH31.pdf>

P62-63

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料5 全国及び四国地域の18歳人口の推移

2. 出典

リクルート進学総研 【都道府県別：四国】18歳人口・進学率・残留率の推移 2018年

3. <http://souken.shingakunet.com/research/2019/01/182018-2a23.html>

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料6 全国の短期大学の進学率の推移

2. 出典

リクルート進学総研 短期大学進学率の推移

3. <http://souken.shingakunet.com/research/2018/11/182018-621f.html>

資料7 既設専門学校の定員充足率

学 校 名	学 科	平成27年度					平成28年度					平成29年度					平成30年度					平成31年度										
		年限	入学 定員	総 定員	入学者 数	在校生 数	定員充足 率	年限	入学 定員	総 定員	入学者 数	在校生 数	定員充足 率	年限	入学 定員	総 定員	入学者 数	在校生 数	定員充足 率	年限	入学 定員	総 定員	入学者 数	在校生 数	定員充足 率	年限	入学 定員	総 定員	入学者 数	在校生 数	定員充足 率	
専門学校穴吹コン ピュータカレッジ	情報システム学科	3	40	120	17	58	48.3%	3	40	120	17	56	46.7%	3	40	120	18	47	39.2%	3	40	120	13	43	35.8%	3	25	105	20	51	48.6%	
	ゲームクリエイター学科	3	30	90	21	44	48.9%	3	30	90	13	39	43.3%	3	30	90	6	33	36.7%	3	30	90	12	29	32.2%	3	20	80	17	35	43.8%	
	情報ビジネス学科	2	30	60	15	24	40.0%	2	30	60	14	29	48.3%	2	30	60	14	30	50.0%	2	30	60	10	26	43.3%	2	20	50	15	25	50.0%	
	情報処理科	2	20	40	6	13	32.5%																									
	ネットワークセキュリティ学科														2	20	20	13	13	65.0%	2	20	40	9	22	55.0%	2	20	40	10	19	47.5%
	国際ITエンジニア学科（2年制）																									2	20	20	0	0	0.0%	
	国際ITエンジニア学科（3年制）																									3	20	20	16	16	80.0%	
学 校 計		120	310	59	139	44.8%		100	270	44	124	45.9%		100	270	38	110	40.7%		100	270	35	98	36.3%		125	315	78	146	46.3%		
専門学校穴吹ビ ジネスカレッジ	税理士上級学科	1	15	15	5	5	33.3%	1	15	15	6	6	40.0%																			
	税理士学科	2	15	30	4	11	36.7%	2	15	30	3	6	20.0%	2	0	15	0	3	20.0%													
	企業ビジネス学科	2	40	80	28	54	67.5%	2	40	80	14	42	52.5%	2	40	80	34	49	61.3%	2	40	80	23	56	70.0%	2	40	80	14	37	46.3%	
	ブライダル・ホテル学科	2	40	80	23	45	56.3%	2	40	80	36	58	72.5%	2	0	40	0	25	62.5%													
	ブライダル学科													2	20	20	12	12	60.0%	2	20	40	11	23	57.5%	2	20	40	22	33	82.5%	
	ホテル学科													2	20	20	11	11	55.0%	2	20	40	6	17	42.5%	2	15	35	5	11	31.4%	
	公務員ビジネス学科	2	30	60	26	32	53.3%	2	30	60	19	29	48.3%	2	30	60	22	34	56.7%	2	30	60	24	32	53.3%	2	25	55	29	53	96.4%	
	公務員学科	1	20	20	10	10	50.0%	1	20	20	10	10	50.0%	1	20	20	4	4	20.0%	1	20	20	10	10	50.0%	1	15	15	2	2	13.3%	
	国際ビジネス学科	2	20	20	19	19	95.0%	2	20	40	22	41	102.5%	2	20	40	6	26	65.0%	2	40	60	12	19	31.7%	2	40	80	19	31	38.8%	
	海外ビジネス学科																									2	30	30	6	6	20.0%	
学 校 計		180	305	115	176	57.7%		165	310	110	192	61.9%		150	280	89	164	58.6%		170	300	86	157	52.3%		185	335	97	173	51.6%		
専門学校穴吹デザ インカレッジ	グラフィックデザイン学科	2	40	80	8	27	33.8%	2	40	80	14	22	27.5%	2	40	80	21	34	42.5%	2	40	80	14	35	43.8%	2	25	65	21	35	53.8%	
	マンガ・コミックイラスト学科	2	40	80	23	43	53.8%	2	40	80	25	46	57.5%	2	40	80	19	43	53.8%	2	40	80	16	33	41.3%	2	25	65	24	40	61.5%	
	トータルインテリア学科	2	40	80	22	33	41.3%	2	40	80	24	46	57.5%	2	40	80	20	42	52.5%	2	40	80	20	41	51.3%	2	25	65	25	45	69.2%	
	国際デザイン学科													2	20	40	5	17	42.5%	2	0	20	0	6	30.0%							
	学 校 計		120	240	53	103	42.9%		120	240	63	114	47.5%		140	280	65	136	48.6%		120	260	50	115	44.2%		75	195	70	120	61.5%	
専門学校穴吹 ビューティカレ ッジ	美容学科	2	60	120	34	64	53.3%	2	60	120	25	56	46.7%	2	60	120	24	47	39.2%	2	35	95	23	45	47.4%	2	35	70	33	56	80.0%	
	ビューティコーディネーター学科	2	30	60	13	27	45.0%	2	30	60	9	20	33.3%	2	30	60	11	19	31.7%	2	30	60	21	29	48.3%	2	20	50	12	33	66.0%	
	トータルエステティック学科	2	30	60	9	18	30.0%	2	30	60	10	17	28.3%	2	30	60	12	20	33.3%	2	30	60	14	26	43.3%	2	20	50	4	18	36.0%	
	学 校 計		120	240	56	109	45.4%		120	240	44	93	38.8%		120	240	47	86	35.8%		95	215	58	100	46.5%		75	170	49	107	62.9%	
専門学校穴吹工 科カレッジ	自動車整備学科（2年制）	2	40	80	28	51	63.8%	2	40	80	23	48	60.0%	2	40	80	25	47	58.8%	2	25	65	21	45	69.2%	2	25	50	17	38	76.0%	
	自動車整備学科（3年制）	3	20	60	9	22	36.7%	3	20	60	24	38	63.3%	3	25	65	28	56	86.2%	3	50	95	45	88	92.6%	3	50	125	43	116	92.8%	
	学 校 計		60	140	37	73	52.1%		60	140	47	86	61.4%		65	145	53	103	71.0%		75	160	66	133	83.1%		75	175	60	154	88.0%	
専門学校穴吹リハ ビリテーションカ レッジ	理学療法学科	3	60	180	57	149	82.8%	3	60	180	59	161	89.4%	3	60	180	44	148	82.2%	3	60	180	55	158	87.8%	3	60	180	52	151	83.9%	
	作業療法学科	3	40	120	33	101	84.2%	3	40	120	22	83	69.2%	3	40	120	14	63	52.5%	3	40	120	30	67	55.8%	3	40	120	27	71	59.2%	
	学 校 計		100	300	90	250	83.3%		100	300	81	244	81.3%		100	300	58	211	70.3%		100	300	85	225	75.0%		100	300	79	222	74.0%	
専門学校穴吹パ ティシエ福祉カ レッジ	介護福祉学科	2	35	70	11	31	44.3%	2	35	70	12	22	31.4%	2	35	70	12	23	32.9%	2	70	105	14	24	22.9%	2	70	140	46	60	42.9%	
	保育・食育学科	3	25	75	14	38	50.7%	3	25	75	19	45	60.0%	3	25	75	9	38	50.7%	3	25	75	8	31	41.3%	3	25	75	10	27	36.0%	
	こども保育学科	2	30	60		7	11.7%	2	30	60	10	10	16.7%	2	30	60	12	23	38.3%	2	30	60	17	29	48.3%	2	30	60	14	31	51.7%	
	パティシエ・ベーカリー学科	2	35	70	32	64	91.4%	2	35	70	23	47	67.1%	2	35	70	22	43	61.4%	2	35	70	25	46	65.7%	2	35	70	14	39	55.7%	
	製菓衛生学科	1	35	35	2	2	5.7%	1	35	35	3	3	8.6%	1	35	35	2	2	5.7%	1	35	35	2	2	5.7%							
	学 校 計		160	310	59	142	45.8%		160	310	67	127	41.0%		160	310	57	129	41.6%		195	345	66	132	38.3%		160	345	84	157	45.5%	
専門学校穴吹動物 看護カレッジ	動物看護総合学科	3	20	60	9	32	53.3%	3	20	60	18	39	65.0%	3	20	60	13	40	66.7%	3	20	60	18	47	78.3%	3	30	70	19	50	71.4%	
	動物衛生看護学科	2	30	60	9	16	26.7%	2	30	60	10	18	30.0%	2	30	60	8	18	30.0%	2	30	60	9	16	26.7%							
	動物健康管理学科	2	40	80	22	57	71.3%	2	40	80	30	53	66.3%	2	40	80	26	55	68.8%	2	40	80	29	55	68.8%	2	40	80	26	55	68.8%	
	学 校 計		90	200	40	105	52.5%		90	200	58	110	55.0%		90	200	47	113	56.5%		90	200	56	118	59.0%		70	150	45	105	70.0%	
穴吹医療大学校	看護学科	4	80	320	77	234	73.1%	4	80	320	65	249	77.8%	4	80	320	82	285	89.1%	4	80	320	79	283	88.4%	4	80	320	67	293	91.6%	
	病院事務・診療情報管理学科	3	40	120	6	27	22.5%	3	40	120	5	22	18.3%																			
	診療情報管理士専攻学科																									1	15	15	3	3	20.0%	
	医療事務・ドクター秘書学科	2	40	80	25	42	52.5%	2	40	80	23	47	58.8%	2	40	80	19															

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料8 観光教育の現状ニーズ調査～専門学校編～（抄）

2. 出典

国土交通省 観光庁 V 観光教育の現状とニーズ調査～専門学校編～

3. <https://www.mlit.go.jp/common/001184162.pdf>

P1, 3

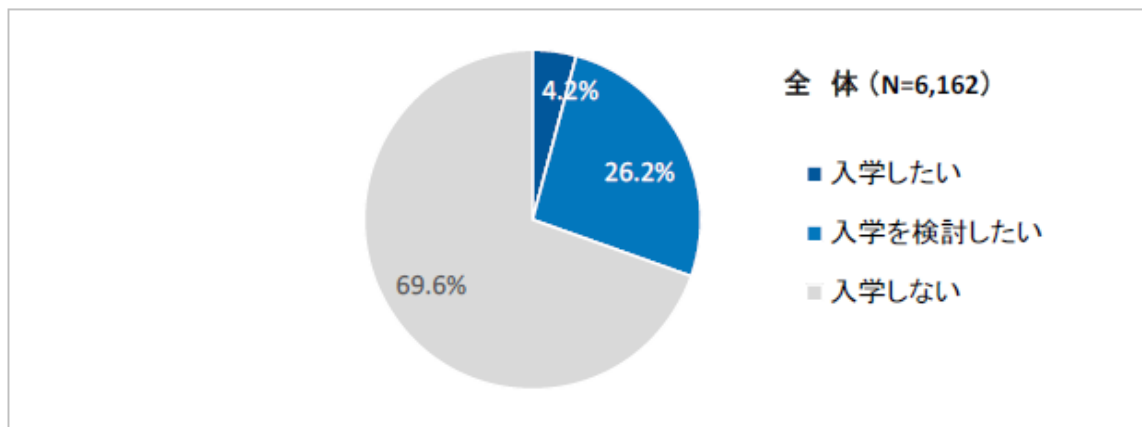
## 資料9 本学への入学希望者数

### (4) 観光振興学科（仮称）への入学意向（進学希望者）

進学希望者のうち、4.2%（260名）が「入学したい」、26.2%（1,616名）が「入学を検討したい」と回答した。

本学の観光振興学科が設置され、入試に合格した場合、入学したいですか。（○は1つ）

	件数	%
全 体	6,162	100.0
入学したい	260	4.2
入学を検討したい	1,616	26.2
入学しない	4,286	69.6



※受容性調査結果報告書(高校生)より抜粋



**学校法人穴吹学園  
せとうち観光専門職短期大学  
観光振興学科(仮称)  
受容性調査結果報告書  
【高校生】**

**株式会社日本ドリコム  
2019年10月**

## 目次

<b>1. 学生確保に関する調査概要</b> .....	<b>3</b>
(1) 調査目的 .....	3
(2) 調査期間 .....	3
(3) 調査対象・地域・方法.....	3
(4) 回収状況 .....	3
(5) 本報告書について.....	3
(6) 協力校一覧（103校） .....	4
<b>2. 回答者属性</b> .....	<b>5</b>
(1) 性別 .....	5
(2) 居住エリア .....	5
<b>3. 高校卒業後の進路選択</b> .....	<b>6</b>
(1) 専門職大学・専門職短期大学の認知度合い .....	6
(2) 高校卒業後の進路として検討しているもの .....	8
<b>4. 本学について</b> .....	<b>11</b>
(1) 本学の認知度合い.....	11
(2) 観光振興学科（仮称）の特色の中で興味があるもの（進学希望者） .....	13
(3) 観光振興学科（仮称）のオープンキャンパス参加意向（進学希望者） .....	15
(4) 観光振興学科（仮称）への入学意向（進学希望者） .....	17
(5) 入学後、目指したい職種（入学希望者） .....	20
(6) 入学しない理由 .....	22
(7) まとめ.....	24
<b>5. 設問票</b> .....	<b>25</b>

## 1. 学生確保に関する調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)の新規設置構想に伴い、具体的に受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志願者の分析を行い、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

### (2) 調査期間

2019年8月～2019年9月

### (3) 調査対象・地域・方法

中国・四国エリアの高等学校に在籍する現役高校2年生13,000名を対象に定量調査(留め置きアンケート調査)を実施。また、同エリアで開催した進学ガイダンスでも定量調査を実施し、現高校2年生75名から有効回答を得た。

なお、進学ガイダンスでは、在籍高校名を記入の上回収しており、留め置きアンケート調査で協力を得られた高等学校の場合及び高等学校の記載が無い場合は、重複のないよう除外した。

### (4) 回収状況

高校生8,775件(回収率約67.5%)。協力を得られた高等学校一覧は次頁の通り。なお、この中には職業訓練校も含む。

### (5) 本報告書について

次ページより、貴学の名称は穴吹学園もしくは「本学」と表記している。なお、無回答は集計対象外としている。

また、アンケート実施の際、学科名を「観光事業学科」としていたが、その後上記「観光振興学科」に変更した。本報告書では、設問文を含め全て「観光振興学科」と統一している。

(6) 協力校一覧 (103 校)

都道府県	高等学校名
香川県	高松工芸高等学校/高松商業高等学校/高松東高等学校/高松西高等学校/高松南高等学校/英明高等学校/高松中央高等学校/丸亀城西高等学校/大手前丸亀中学・高等学校/香川県藤井高等学校/坂出高等学校/坂出商業高等学校/坂出工業高等学校/尽誠学園高等学校/観音寺第一高等学校/観音寺総合高等学校/志度高等学校/三本松高等学校/石田高等学校/藤井学園寒川高等学校/飯山高等学校/農業経営高等学校/多度津高等学校/琴平高等学校/笠田高等学校/高瀬高等学校/高松北高等学校/香川中央高等学校/高松桜井高等学校/高松高等学校<定時制>/丸亀高等学校<定時制>/丸亀高等学校<通信制>/多度津工業高等学校<定時制>/クラーク記念国際高等学校<高松キャンパス>/村上学園高等学校<通信制>/松陰高等学校 高松校/善通寺養護学校/穴吹カレッジキャリアアップスクール高松校/香川誠陵高等学校/坂出第一高等学校
徳島県	城南高等学校/徳島商業高等学校/生光学園高等学校/鳴門渦潮高等学校/富岡東高等学校/城西高等学校<神山校>/小松島西高等学校<勝浦校>/海部高等学校/吉野川高等学校/穴吹高等学校/つるぎ高等学校/龍昇経理情報専門学校<高等課程>/穴吹カレッジキャリアアップスクール徳島校
愛媛県	松山商業高等学校/今治東中等教育学校/新居浜南高等学校/大洲高等学校/野村高等学校/小松高等学校/上浮穴高等学校/伊予高等学校/松山南高等学校/松山西中等教育学校/聖カタリナ学園高等学校/済美高等学校/松山中央高等学校/松山聖陵高等学校/東温高等学校/第一学院高等学校<松山キャンパス>
高知県	室戸高等学校/嶺北高等学校/清水高等学校<定時制>
岡山県	倉敷高等学校/玉野高等学校/岡山龍谷高等学校/井原高等学校<南校地>/おかやま山陽高等学校/岡山市立岡山後楽館高等学校/学校法人三友学園専修学校自由高等学院クラーク記念国際高等学校 連携校 岡山キャンパス/TAC 岡山校/東岡山工業高等学校/西大寺高等学校/山陽女子高等学校/就実高等学校/岡山理科大学附属高等学校/清心女子高等学校/倉敷翠松高等学校/総社南高等学校/高梁城南高等学校/瀬戸南高等学校/鹿島朝日高等学校<通信制>/KTC おおぞら高等学院<岡山キャンパス>
広島県	福山商業高等学校/福山葦陽高等学校/大門高等学校/福山明王台高等学校/府中東高等学校/沼南高等学校/神辺高等学校/戸手高等学校/芦品まなび学園高等学校/並木学院福山高等学校/穴吹カレッジキャリアアップスクール福山校

## 2. 回答者属性

### (1) 性別

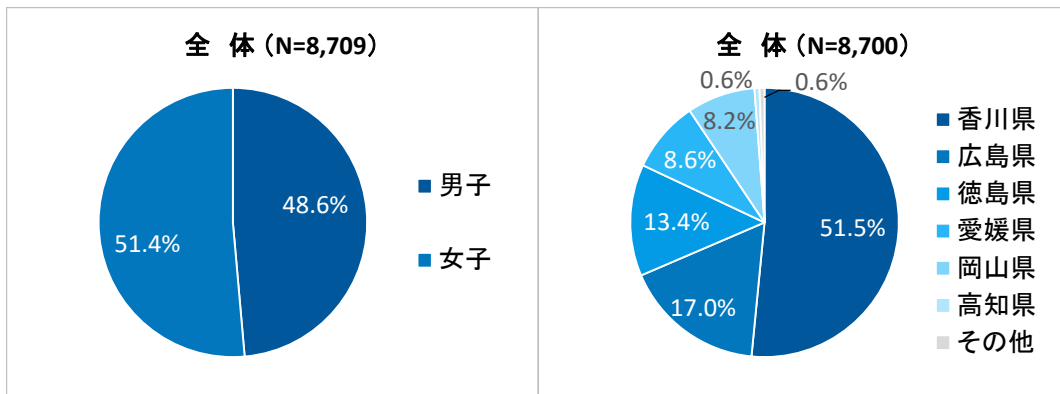
あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

	件数	%
全 体	8,709	100.0
男子	4,229	48.6
女子	4,480	51.4

### (2) 居住エリア

あなたの居住エリアをお答えください。(〇は1つ)

	件数	%
全 体	8,700	100.0
香川県	4,480	51.5
広島県	1,482	17.0
徳島県	1,168	13.4
愛媛県	751	8.6
岡山県	716	8.2
高知県	55	0.6
その他	48	0.6

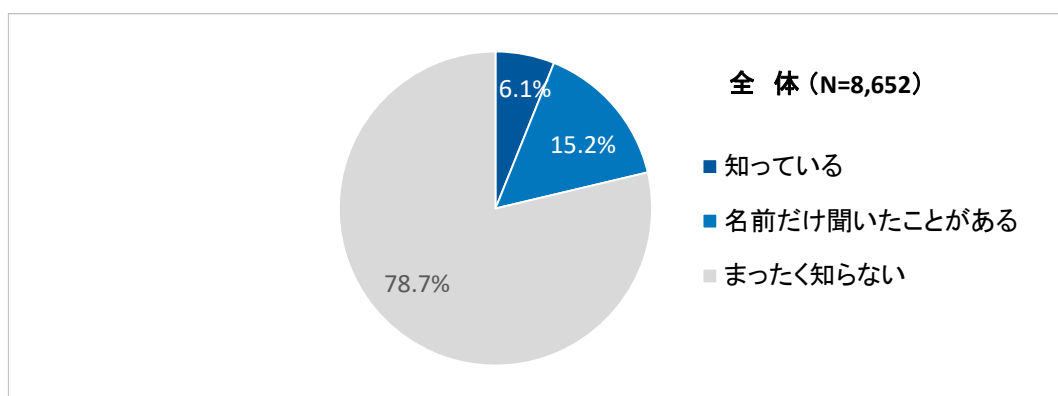


### 3. 高校卒業後の進路選択

#### (1) 専門職大学・専門職短期大学の認知度合い

2019年度より新たな高等教育機関として、専門職大学・専門職短期大学が創設されたが、それについて「知っている」割合は6.1%にとどまった。「名前だけ聞いたことがある」は15.2%で、「まったく知らない」が約8割という結果になった。

2019年度から専門職大学・専門職短期大学という新たな教育機関が創設されたことを知っていますか。(〇は1つ)	件数	%
全 体	8,652	100.0
知っている	532	6.1
名前だけ聞いたことがある	1,314	15.2
まったく知らない	6,806	78.7

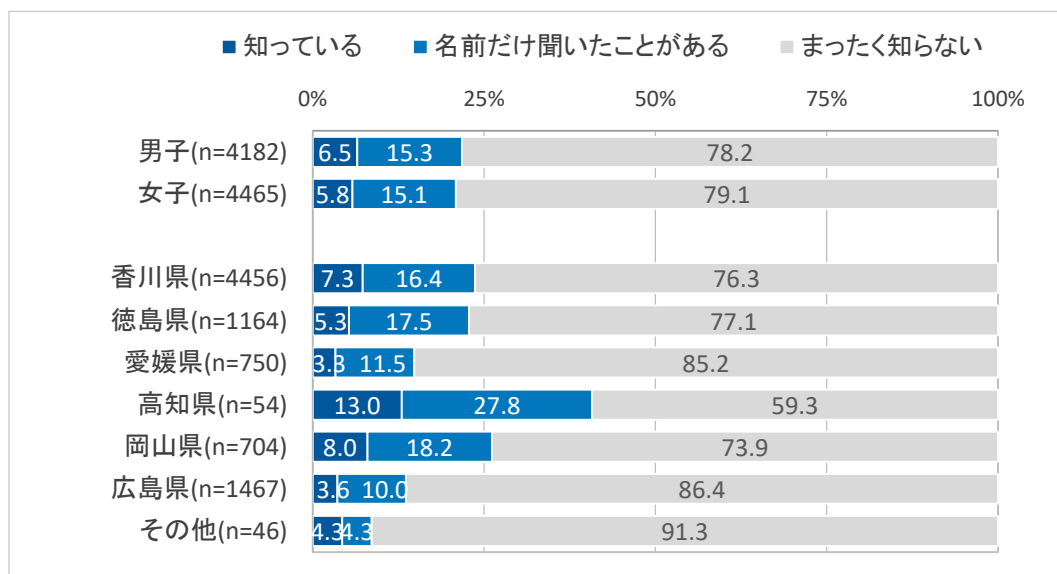


● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

男女別による認知割合の差はほとんどみられない。都道府県別では、高知県で認知割合が特に高い。

			全 体	知 っ て い る	あ る 名 前 だ け 聞 い た こ と が	ま っ た く 知 ら な い
男女別	男子	件	4,182	272	641	3,269
		%	100.0	6.5	15.3	78.2
	女子	件	4,465	259	673	3,533
		%	100.0	5.8	15.1	79.1
居住する都道府県別	香川県	件	4,456	325	729	3,402
		%	100.0	7.3	16.4	76.3
	徳島県	件	1,164	62	204	898
		%	100.0	5.3	17.5	77.1
	愛媛県	件	750	25	86	639
		%	100.0	3.3	11.5	85.2
	高知県	件	54	7	15	32
		%	100.0	13.0	27.8	59.3
岡山県	件	704	56	128	520	
	%	100.0	8.0	18.2	73.9	
広島県	件	1,467	53	147	1,267	
	%	100.0	3.6	10.0	86.4	
その他	件	46	2	2	42	
	%	100.0	4.3	4.3	91.3	

※なお、表側の無回答は集計から除外している(男女別では5件、居住する都道府県別では11件)。



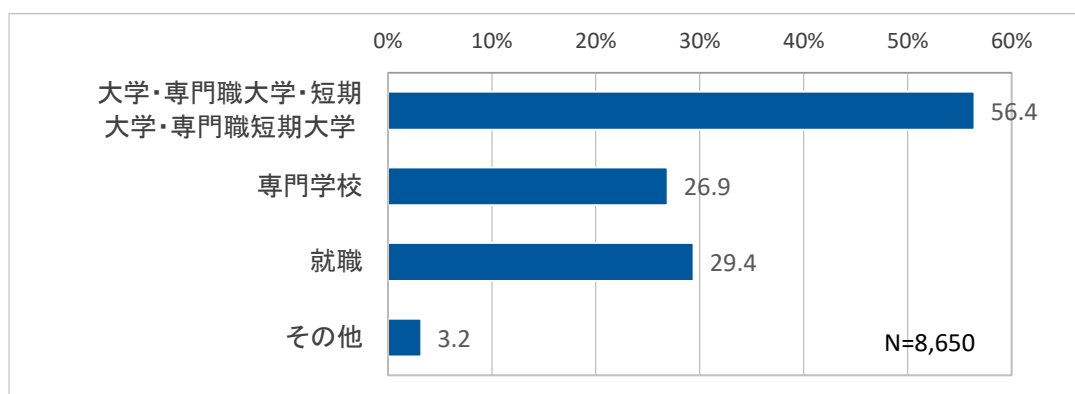
## (2) 高校卒業後の進路として検討しているもの

高校卒業後の進路希望としては、「大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学」が56.4%で最も高い。

なお、以下に文部科学省による「令和元年度学校基本調査」も参考までに掲載したが、本設問は専門職大学と専門職短期大学を含み、かつ複数回答であるため、比較することはできない。

卒業後の進路として検討している選択肢をお答えください。（○はいくつでも）

	件数	%
全 体	8,650	-
大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学	4,881	56.4
専門学校	2,323	26.9
就職	2,539	29.4
その他	279	3.2



### ● 参考：高等学校卒業者の進路状況 高等学校卒業後の状況 一部抜粋

令和元年度学校基本調査より

高等学校卒業者の進路状況 高等学校卒業後の状況（一部抜粋）

	人数	%
全 体	1,056,494	100.0
大学（学部）進学者	527,776	50.0
短期大学進学者	50,993	4.8
専門学校進学者	172,376	16.3
就職者	185,667	17.6

※短期大学入学者＝大学・短期大学進学者のうち大学(学部)進学者で算出した。いずれにも当てはまらない者がいるため、割合合計は100%にはならない。他結果は文部科学省「令和元年度学校基本調査」を参照のこと。



● 参考：出身高校の所在地県別 香川県内短期大学入学者数

令和元年度学校基本調査より  
出身高校の所在地県別 香川県内短期大学入学者数

	人数	%
全 体	358	100.0
香川県	316	88.3
愛媛県	8	2.2
高知県	8	2.2
徳島県	5	1.4
岡山県	3	0.8
滋賀県	1	0.3
奈良県	1	0.3
島根県	1	0.3
広島県	1	0.3
福岡県	1	0.3
熊本県	1	0.3
その他	12	3.4

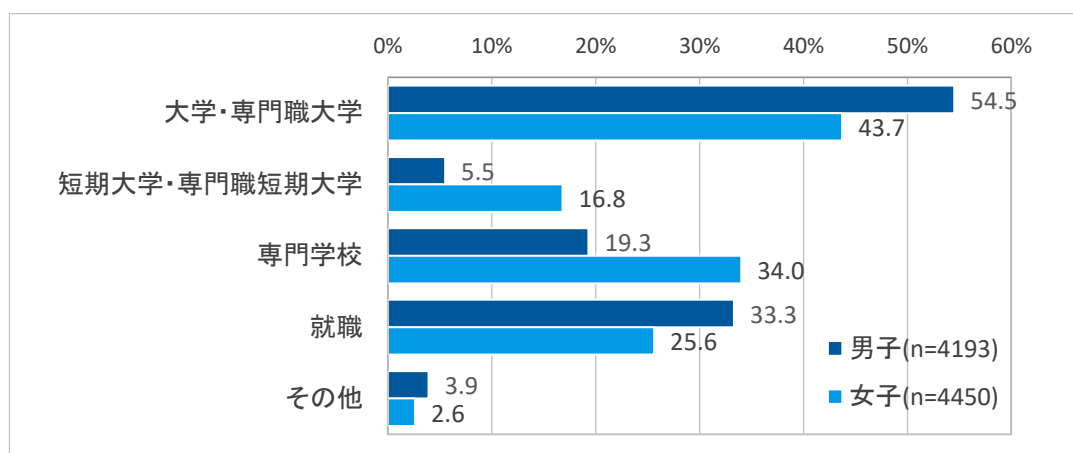
※「その他」とは、「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」、「専修学校高等課程を修了した者」及び「高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者」等である。(学校教育法施行規則第150条)

● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

男子は女子よりも「大学・専門職大学」「就職」割合が高く、女子は男子より「短期大学・専門職短期大学」「専門学校」割合が高い。

		全体	大学・ 専門職大学	短期大学・ 専門職短期大学	専門学校	就職	その他
男女別	男子	件 4,193	2,284	231	809	1396	162
		% -	54.5	5.5	19.3	33.3	3.9
	女子	件 4,450	1,945	748	1,512	1140	116
		% -	43.7	16.8	34.0	25.6	2.6
居住する都道府県別	香川県	件 4,442	2,290	536	1,111	1,319	115
		% -	51.6	12.1	25.0	29.7	2.6
	徳島県	件 1,165	461	92	259	526	30
		% -	39.6	7.9	22.2	45.2	2.6
	愛媛県	件 746	421	90	236	123	6
		% -	56.4	12.1	31.6	16.5	0.8
	高知県	件 55	25	4	15	17	2
		% -	45.5	7.3	27.3	30.9	3.6
	岡山県	件 712	299	90	267	201	47
		% -	42.0	12.6	37.5	28.2	6.6
	広島県	件 1,470	705	163	430	339	70
		% -	48.0	11.1	29.3	23.1	4.8
	その他	件 48	26	1	3	12	9
		% -	54.2	2.1	6.3	25.0	18.8

※なお、無回答は集計から除外している(男女別では7件、居住する都道府県別では12件)。

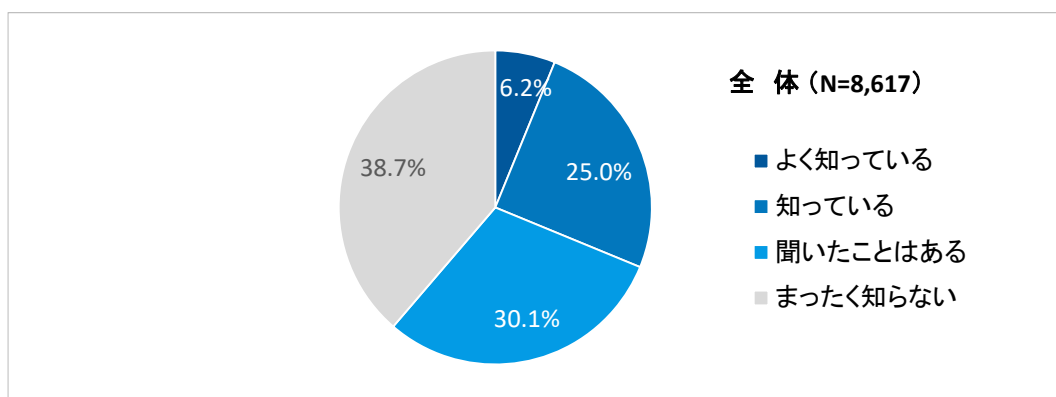


## 4. 本学について

### (1) 本学の認知度合い

学校法人穴吹学園（穴吹カレッジグループ）の認知については、「よく知っている」6.2%、「知っている」25.0%、「聞いたことはある」30.1%で、合わせると約6割に上る。

	件数	%
学校法人穴吹学園（穴吹カレッジグループ）を知っていますか。 （○は1つ）		
全 体	8,617	100.0
よく知っている	531	6.2
知っている	2,157	25.0
聞いたことはある	2,595	30.1
まったく知らない	3,334	38.7

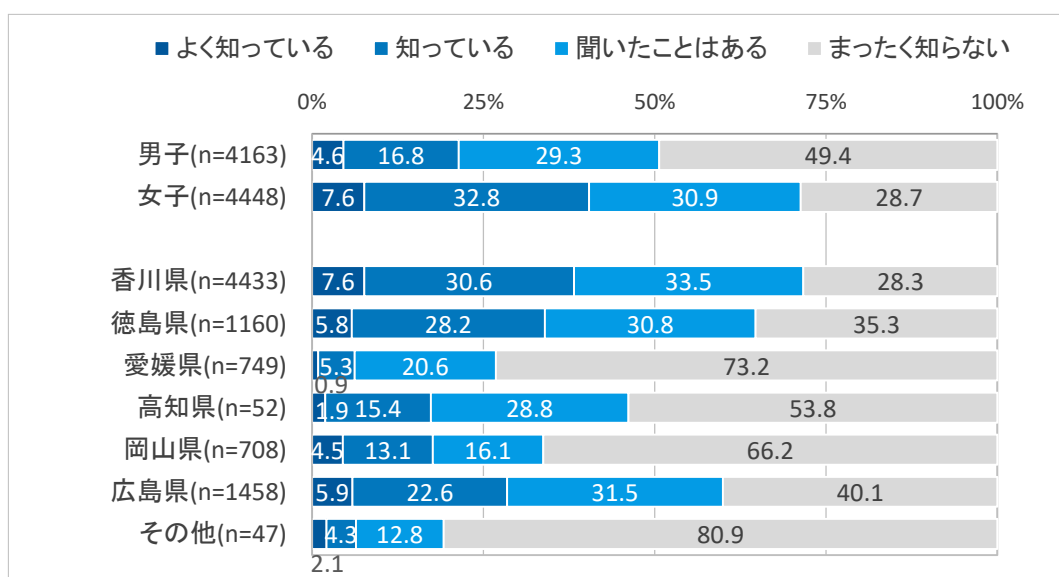


● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

男子よりも女子で本学認知度合いが高く、男子は約 5 割に対し、女子は 7 割以上。また、都道府県別でみると、本学が多くのカレッジを擁する香川県において特に高く認知されており、71.7%。さらに徳島県や広島県でも約 6 割。

		全 体	よ く 知 っ て い る	知 っ て い る	あ ら う こ と は あ る	ま った く 知 ら な い
男女別	男子	件 4,163	190	698	1,218	2,057
		% 100.0	4.6	16.8	29.3	49.4
男女別	女子	件 4,448	339	1,458	1,376	1,275
		% 100.0	7.6	32.8	30.9	28.7
居住する都道府県別	香川県	件 4,433	337	1,356	1,486	1,254
		% 100.0	7.6	30.6	33.5	28.3
	徳島県	件 1,160	67	327	357	409
		% 100.0	5.8	28.2	30.8	35.3
	愛媛県	件 749	7	40	154	548
		% 100.0	0.9	5.3	20.6	73.2
	高知県	件 52	1	8	15	28
		% 100.0	1.9	15.4	28.8	53.8
	岡山県	件 708	32	93	114	469
		% 100.0	4.5	13.1	16.1	66.2
広島県	件 1,458	86	329	459	584	
	% 100.0	5.9	22.6	31.5	40.1	
その他	件 47	1	2	6	38	
	% 100.0	2.1	4.3	12.8	80.9	

※なお、無回答は集計から除外している(男女別では 6 件、居住する都道府県別では 10 件)。



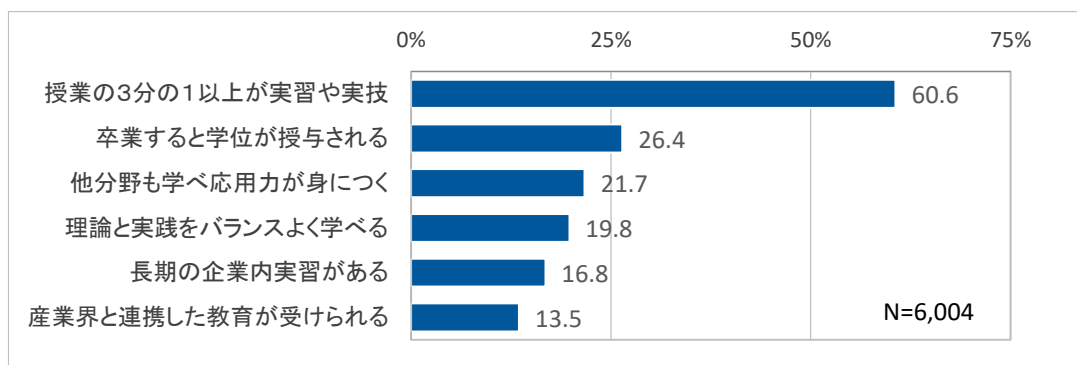
(2) 観光振興学科（仮称）の特色の中で興味があるもの（進学希望者）

高校卒業後進学を検討していると回答した学生（＝全体から「就職」「その他」のみの回答者を除外）に対し、計画中のせとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称）の特色のうち、興味があるものをたずねた。

すると、「授業の3分の1以上が実習や実技」が最も高く、約6割となった。他の項目は3割未満であり、特に実習・実技の多さに興味を持たれていることがわかる。

本学の観光振興学科の次のような特色の中で、興味があるものすべてを選んでください。（〇はいくつでも）

	件数	%
全 体	6,004	-
授業の3分の1以上が実習や実技	3,641	60.6
卒業すると学位が授与される	1,587	26.4
他分野も学べ応用力が身につく	1,302	21.7
理論と実践をバランスよく学べる	1,191	19.8
長期の企業内実習がある	1,011	16.8
産業界と連携した教育が受けられる	810	13.5

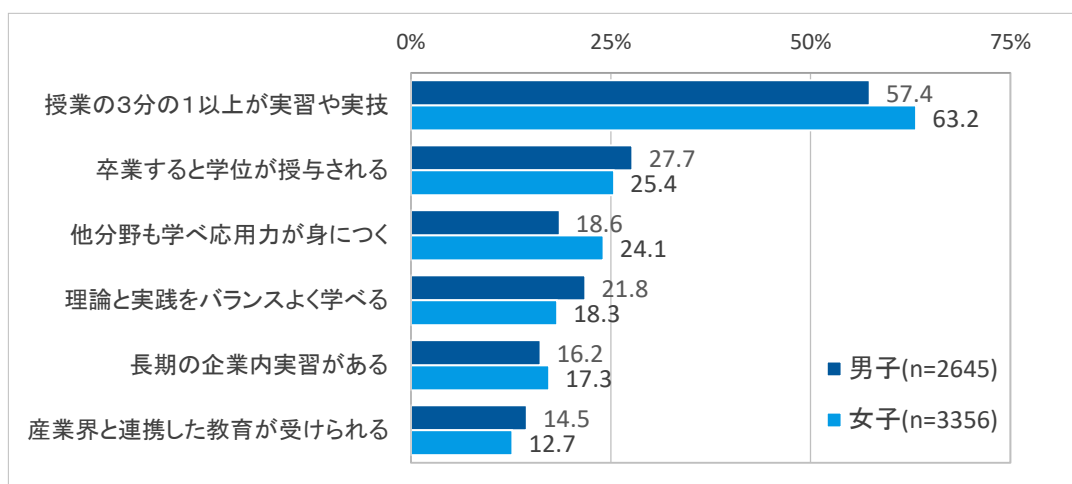


### ●クロス集計（男女別）

女子の方が、「授業の3分の1以上が実習や実技」割合がやや高い。また、「他分野も学べ応用力が身につく」も女子の方が高い。

		全体	授業の3分の1以上が実習や実技	卒業すると学位が授与される	他分野も学べ応用力が身につく	理論と実践をバランスよく学べる	長期の企業内実習がある	産業界と連携した教育が受けられる
男女別	男子	件 2,645	1,517	733	492	576	429	384
		% -	57.4	27.7	18.6	21.8	16.2	14.5
男女別	女子	件 3,356	2,121	853	808	614	581	426
		% -	63.2	25.4	24.1	18.3	17.3	12.7
居住する都道府県別	香川県	件 3,143	1,939	879	676	621	529	439
		% -	61.7	28.0	21.5	19.8	16.8	14.0
	徳島県	件 655	401	153	135	149	111	91
		% -	61.2	23.4	20.6	22.7	16.9	13.9
	愛媛県	件 598	352	159	122	114	97	75
		% -	58.9	26.6	20.4	19.1	16.2	12.5
	高知県	件 36	24	14	12	5	10	3
		% -	66.7	38.9	33.3	13.9	27.8	8.3
岡山県	件 488	277	134	135	101	85	73	
	% -	56.8	27.5	27.7	20.7	17.4	15.0	
広島県	件 1,059	634	246	217	192	176	125	
	% -	59.9	23.2	20.5	18.1	16.6	11.8	
その他	件 18	12	1	3	7	2	3	
	% -	66.7	5.6	16.7	38.9	11.1	16.7	

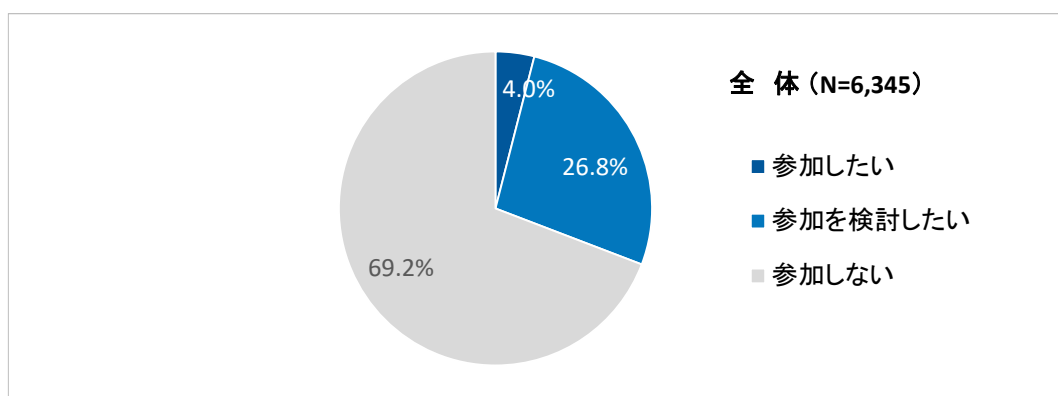
※無回答は集計から除外している(男女では3件、居住する都道府県では7件)。



### (3) 観光振興学科（仮称）のオープンキャンパス参加意向（進学希望者）

オープンキャンパスについては、進学希望者のうち 4.0%（252 名）が「参加したい」、26.8%（1,701 名）が「参加を検討したい」と回答した。

件数	%
本学の観光振興学科のオープンキャンパスに参加したいですか。 (○は1つ)	
全 体	6,345 100.0
参加したい	252 4.0
参加を検討したい	1,701 26.8
参加しない	4,392 69.2

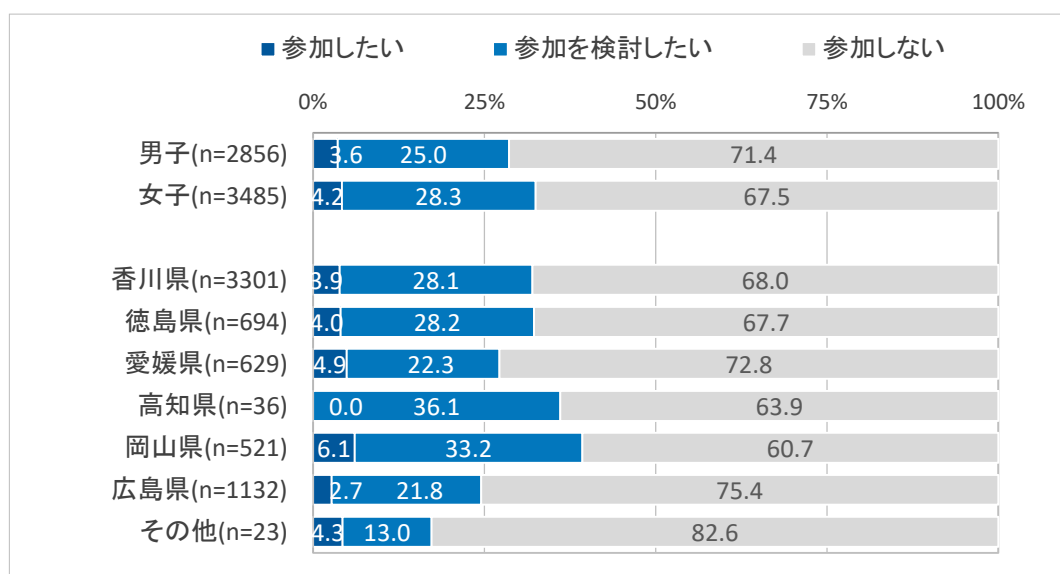


### ● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

男女別にみると、男子より女子で参加意向がやや高い。また、都道府県別では、香川県、徳島県、高知県、岡山県の4県で参加意向が30%超となった。

			全 体	参 加 し た い	参 加 を 検 討 し た い	参 加 し な い
男女別	男子	件	2,856	103	714	2,039
		%	100.0	3.6	25.0	71.4
	女子	件	3,485	148	986	2,351
		%	100.0	4.2	28.3	67.5
居住する都道府県別	香川県	件	3,301	129	927	2,245
		%	100.0	3.9	28.1	68.0
	徳島県	件	694	28	196	470
		%	100.0	4.0	28.2	67.7
	愛媛県	件	629	31	140	458
		%	100.0	4.9	22.3	72.8
	高知県	件	36	0	13	23
		%	100.0	0.0	36.1	63.9
岡山県	件	521	32	173	316	
	%	100.0	6.1	33.2	60.7	
広島県	件	1,132	31	247	854	
	%	100.0	2.7	21.8	75.4	
その他	件	23	1	3	19	
	%	100.0	4.3	13.0	82.6	

※なお、無回答は集計から除外している(男女別では4件、居住する都道府県では9件)。

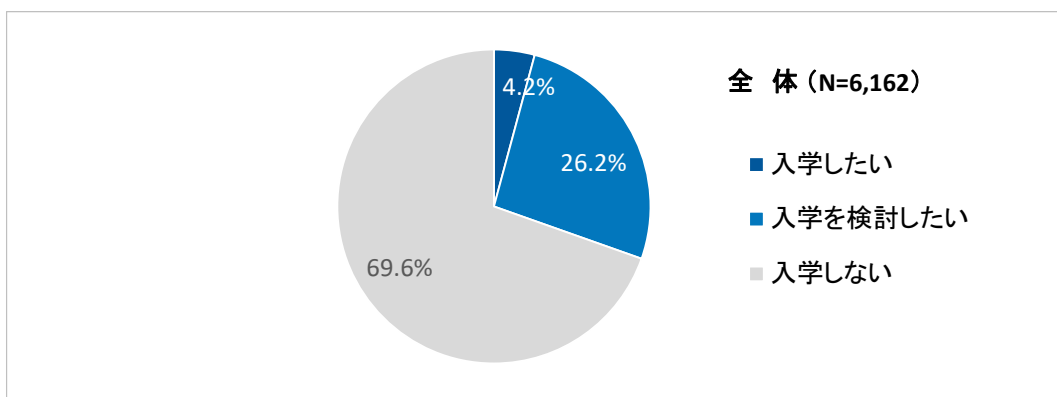




#### (4) 観光振興学科（仮称）への入学意向（進学希望者）

進学希望者のうち、4.2%（260名）が「入学したい」、26.2%（1,616名）が「入学を検討したい」と回答した。

	件数	%
全体	6,162	100.0
入学したい	260	4.2
入学を検討したい	1,616	26.2
入学しない	4,286	69.6

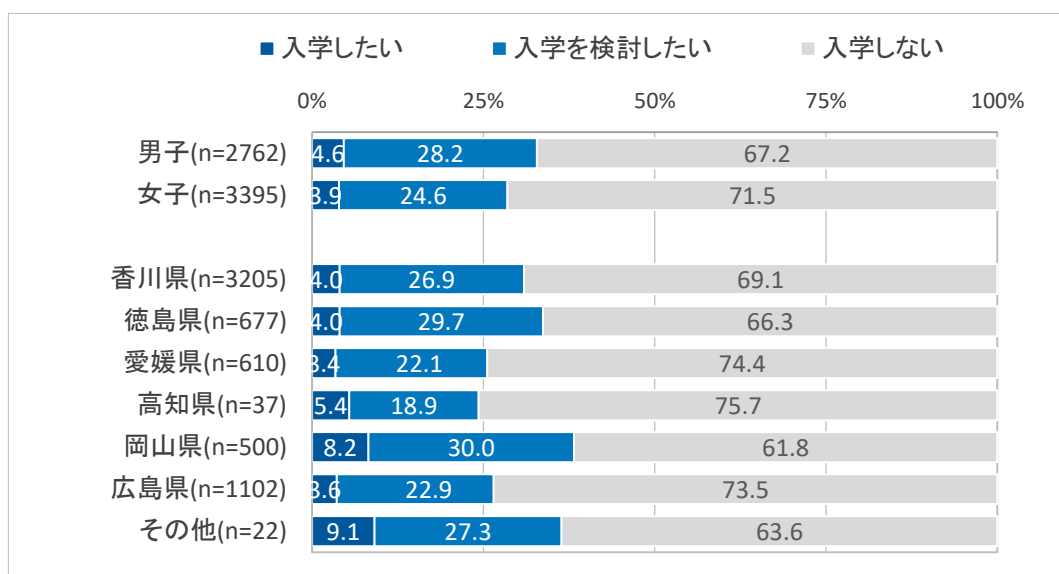


● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

入学意向については、女子よりも男子の方がやや高い。男子は 32.8%（907 名）、女子は 28.5%（968 名）。また、都道府県別では、香川県、徳島県、岡山県、その他で入学意向が 3 割超。

			全 体	い 入 学 し た	討 入 学 を 検 討 し た い	い 入 学 し な い
男女別	男子	件	2,762	127	780	1,855
		%	100.0	4.6	28.2	67.2
	女子	件	3,395	133	835	2,427
		%	100.0	3.9	24.6	71.5
居住する都道府県別	香川県	件	3,205	127	862	2,216
		%	100.0	4.0	26.9	69.1
	徳島県	件	677	27	201	449
		%	100.0	4.0	29.7	66.3
	愛媛県	件	610	21	135	454
		%	100.0	3.4	22.1	74.4
	高知県	件	37	2	7	28
		%	100.0	5.4	18.9	75.7
岡山県	件	500	41	150	309	
	%	100.0	8.2	30.0	61.8	
広島県	件	1,102	40	252	810	
	%	100.0	3.6	22.9	73.5	
その他	件	22	2	6	14	
	%	100.0	9.1	27.3	63.6	

※なお、無回答は集計から除外している(男女別では 5 件、居住する都道府県では 9 件)。

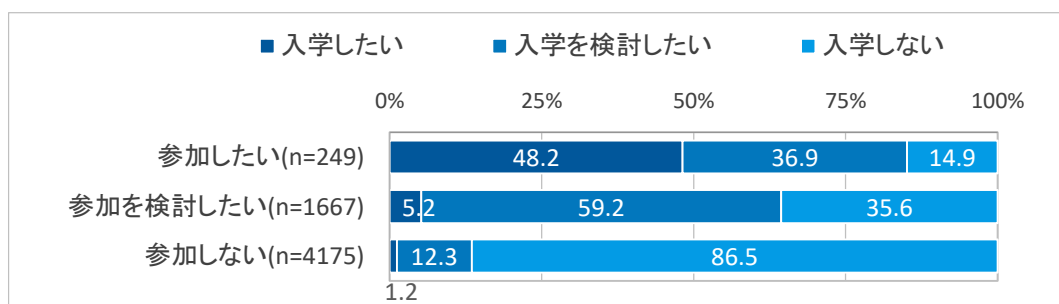


● クロス集計（オープンキャンパス参加意向度合い別）

オープンキャンパス参加意向と入学意向のクロス集計を行った。すると、本学へ「入学したい」との回答は、オープンキャンパス参加希望層では 48.2%（120 名）、参加検討層では 5.2%（87 名）、不参加層では 1.2%（49 名）となり、オープンキャンパスへの参加意向と比例する傾向がみられた。

			全 体	入 学 し た い	入 学 を 検 討 し た い	入 学 し な い
キ ャ ン パ ス	参加したい	件	249	120	92	37
	=参加希望層	%	100.0	48.2	36.9	14.9
	参加を検討したい	件	1,667	87	987	593
	=参加検討層	%	100.0	5.2	59.2	35.6
	参加しない	件	4,175	49	514	3,612
	=不参加層	%	100.0	1.2	12.3	86.5

※なお、無回答 71 件は集計から除外している。

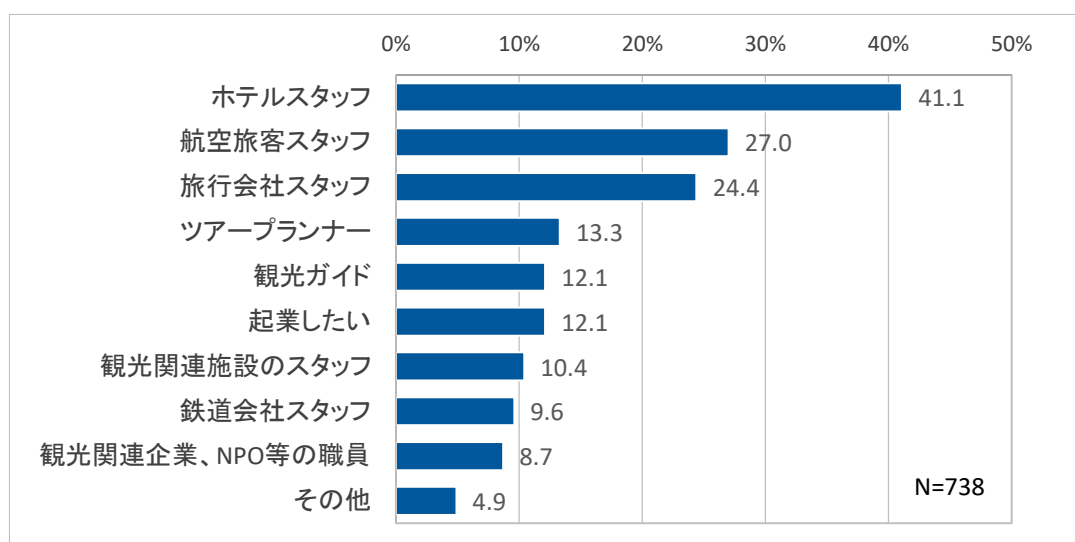


### (5) 入学後、目指したい職種（入学希望者）

前問で本学に「入学したい」「入学を検討したい」と回答した学生に対し、入学後に目指したい職種をたずねた。すると、最も割合が高いのは「ホテルスタッフ」で41.1%（303名）だった。次に「航空旅客スタッフ」「旅行会社スタッフ」が2割台で続く。

入学したいと答えた方に質問です。入学した場合に目指したい職種をお選びください。（〇はいくつでも）	件数	%
全 体	738	-
ホテルスタッフ	303	41.1
航空旅客スタッフ	199	27.0
旅行会社スタッフ	180	24.4
ツアープランナー	98	13.3
観光ガイド	89	12.1
起業したい	89	12.1
観光関連施設のスタッフ	77	10.4
鉄道会社スタッフ	71	9.6
観光関連企業、NPO等の職員	64	8.7
その他	36	4.9

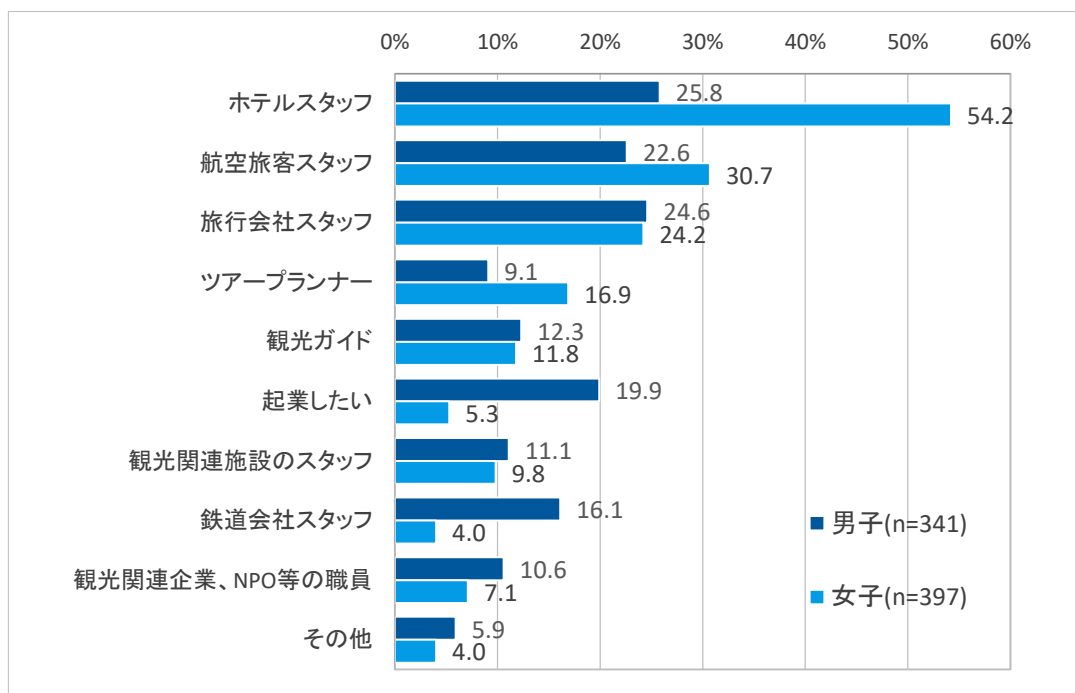
※その他の回答としては、「飲食系」「美容系」「農業」などがあつた。



● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

「ホテルスタッフ」は男子よりも女子の人气が高く、54.2%（215名）。また、他に「航空旅客スタッフ」「ツアープランナー」も女子の方が高い。一方、男子で特に高いのは「起業したい」「鉄道会社スタッフ」の2つ。

			全 体	ホ テ ル ス タ フ	航 空 旅 客 ス タ フ	旅 行 会 社 ス タ フ	ツ ア ー プ ラ ン ナ ー	観 光 ガ イ ド	起 業 し た い	タ ッ フ 観 光 関 連 施 設 の ス タ フ	鉄 道 会 社 ス タ フ	P O 等 の 職 員 観 光 関 連 企 業 、 N	そ の 他
男女別	男子	件	341	88	77	84	31	42	68	38	55	36	20
		%	-	25.8	22.6	24.6	9.1	12.3	19.9	11.1	16.1	10.6	5.9
	女子	件	397	215	122	96	67	47	21	39	16	28	16
		%	-	54.2	30.7	24.2	16.9	11.8	5.3	9.8	4.0	7.1	4.0
居住する都道府県別	香川県	件	353	138	94	90	50	48	43	33	38	33	17
		%	-	39.1	26.6	25.5	14.2	13.6	12.2	9.3	10.8	9.3	4.8
	徳島県	件	96	39	29	18	9	11	11	7	5	10	8
		%	-	40.6	30.2	18.8	9.4	11.5	11.5	7.3	5.2	10.4	8.3
	愛媛県	件	72	31	27	19	9	5	4	9	2	4	3
		%	-	43.1	37.5	26.4	12.5	6.9	5.6	12.5	2.8	5.6	4.2
	高知県	件	4	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
		%	-	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
岡山県	件	96	39	25	27	15	9	13	15	15	8	2	
	%	-	40.6	26.0	28.1	15.6	9.4	13.5	15.6	15.6	8.3	2.1	
広島県	件	114	54	23	25	15	16	16	12	11	9	6	
	%	-	47.4	20.2	21.9	13.2	14.0	14.0	10.5	9.6	7.9	5.3	
その他	件	3	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	
	%	-	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
入学意向別	入学 したい	件	245	99	81	70	47	34	28	29	34	27	12
		%	-	40.4	33.1	28.6	19.2	13.9	11.4	11.8	13.9	11.0	4.9
	入学を 検討 したい	件	493	204	118	110	51	55	61	48	37	37	24
		%	-	41.4	23.9	22.3	10.3	11.2	12.4	9.7	7.5	7.5	4.9



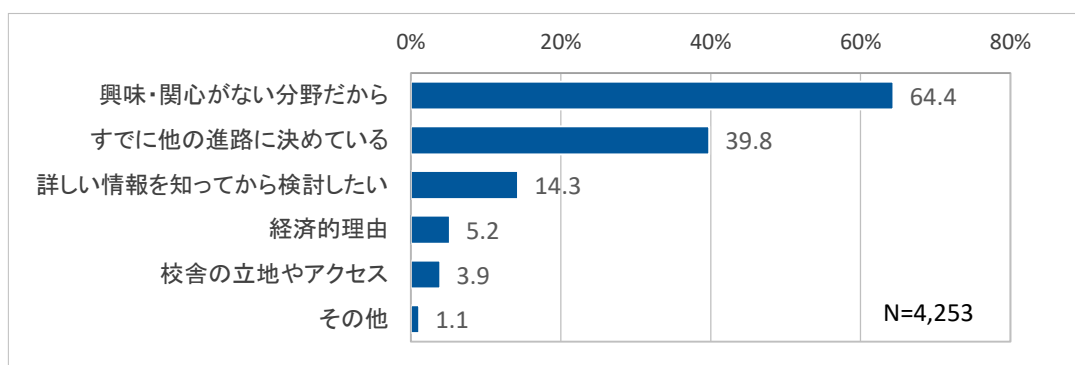
## (6) 入学しない理由

本学に「入学しない」と回答した学生に対しその理由をたずねた。すると、「興味・関心がない分野だから」が特に高く 64.4%。次が「すでに他の進路（進学先もしくは就職等）に決めている」で、39.8%である。

「入学しない」を選んだ方は、その理由をお答えください。（○はいくつでも）

	件数	%
全 体	4,253	-
興味・関心がない分野だから	2,738	64.4
すでに他の進路（進学先もしくは就職等）に決めている	1,694	39.8
詳しい情報を知ってから検討したい	610	14.3
経済的理由	221	5.2
校舎の立地やアクセス	165	3.9
その他	46	1.1

※その他の回答としては、「短期大学に行こうと思わないから」「何の学校がわかりにくいから」「部活動推薦を狙っているから」など。

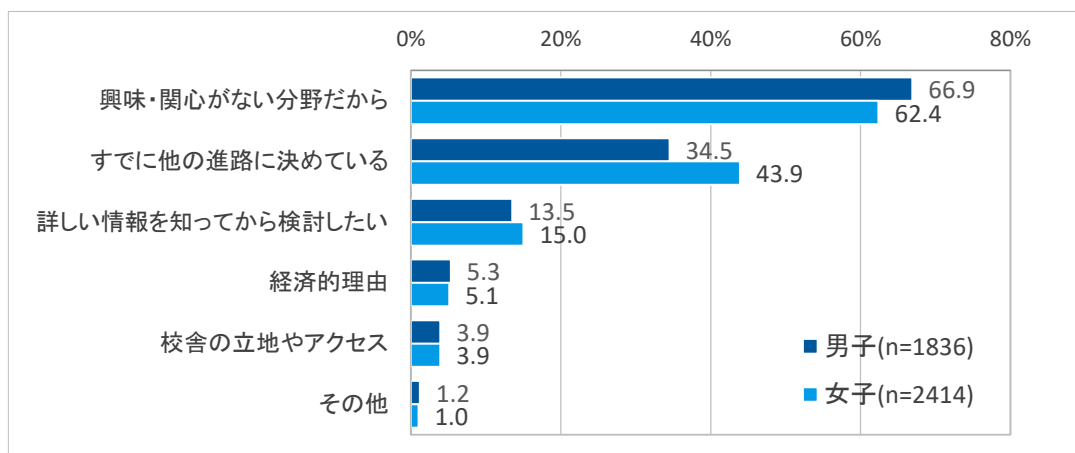


### ● クロス集計（男女別・居住する都道府県別）

「興味・関心がない分野だから」は男子で、「すでに他の進路（進学先もしくは就職等）に決めている」は女子で高い傾向にある。

		全体	興味・関心がない分野だから	すでに他の進路（進学先もしくは就職等）に決めている	詳しい情報を知ってから検討したい	経済的理由	校舎の立地やアクセス	その他
男女別	男子	件 1,836 % -	1,229 66.9	633 34.5	248 13.5	98 5.3	72 3.9	22 1.2
	女子	件 2,414 % -	1,507 62.4	1,060 43.9	362 15.0	123 5.1	93 3.9	24 1.0
居住する都道府県別	香川県	件 2,200 % -	1,428 64.9	884 40.2	324 14.7	104 4.7	56 2.5	24 1.1
	徳島県	件 445 % -	272 61.1	192 43.1	71 16.0	19 4.3	18 4.0	2 0.4
	愛媛県	件 452 % -	302 66.8	176 38.9	57 12.6	23 5.1	14 3.1	5 1.1
	高知県	件 28 % -	15 53.6	15 53.6	4 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	岡山県	件 305 % -	191 62.6	126 41.3	54 17.7	20 6.6	16 5.2	3 1.0
	広島県	件 803 % -	516 64.3	291 36.2	96 12.0	50 6.2	55 6.8	12 1.5
	その他	件 14 % -	11 78.6	8 57.1	3 21.4	5 35.7	5 35.7	0 0.0

※なお、無回答は集計から除外している（男女別では3件、居住する都道府県別では6件）。



### (7) まとめ

これまでのアンケート調査結果を統括し、せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称）に対する高校生の入学意向者数を算出し、以下にまとめた。

6,162名の大学・専門職大学、短期大学・専門職短期大学、専門学校進学希望者のうち、260名がせとうち観光専門職短期大学 観光振興学科（仮称）を「入学したい」と回答した。

進学希望者（4年制大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学・専門学校）	
6,162名	
↓	
入学したい	入学を検討したい
260名	1,616名



## 5. 設問票

### せとうち観光専門職短期大学 観光事業学科(仮称/3年制)設置構想に関するアンケート

学校法人穴吹学園は、2021年4月、香川県高松市にせとうち観光専門職短期大学(仮称)の開学を計画しています。

本アンケート調査は、せとうち観光専門職短期大学 観光事業学科(仮称)の設置について検討するために実施し、いただいたご回答はその設置構想に係る統計資料にのみ使用します。また、この調査の実施及び集計は株式会社日本ドリームに委託します。

質問の答えとなる番号に○をつけてください。

Q1) あなたの性別をお答えください。

1. 男                      2. 女

Q2) あなたの居住エリアをお答えください。

1. 香川県      2. 徳島県      3. 愛媛県      4. 高知県      5. 岡山県      6. 広島県      7. その他

Q3) 2019年度から専門職大学・専門職短期大学という新たな教育機関が創設されたことを知っていますか。

1. 知っている                      2. 名前だけ聞いたことがある                      3. まったく知らない

Q4) 卒業後の進路として検討している選択肢をお答えください。(複数回答可)

1. 大学・専門職大学                      2. 短期大学・専門職短期大学                      3. 専門学校                      4. 就職                      5. その他

Q5) 学校法人穴吹学園(穴吹カレッジグループ)を知っていますか。

1. よく知っている                      2. 知っている                      3. 聞いたことはある                      4. まったく知らない

以降の質問は、せとうち観光専門職短期大学(仮称、以下本学という)のリーフレットをよくお読みのうえ、お答えください。

Q6) 本学の観光事業学科の次のような特色の中で、興味があるものをすべて選んでください。(複数回答可)

1. 授業の3分の1以上が実習や実技                      2. 理論と実践をバランスよく学べる                      3. 長期の企業内実習がある  
4. 他分野も学べ応用力が身につく                      5. 産業界と連携した教育が受けられる                      6. 卒業すると学位が授与される

Q7) 本学の観光事業学科のオープンキャンパスに参加したいですか。

1. 参加したい                      2. 参加を検討したい                      3. 参加しない

Q8) 本学の観光事業学科が設置され、入試に合格した場合、入学したいですか。

1. 入学したい                      2. 入学を検討したい                      3. 入学しない

Q8-2) 「入学しない」を選んだ方は、その理由をお答えください。(複数回答可)

1. 興味・関心がない分野だから                      2. 校舎の立地やアクセス                      3. すでに他の進路(進学先もしくは就職等)に決めている  
4. 詳しい情報を知ってから検討したい                      5. 経済的理由                      6. その他(                      )

Q9) Q8で入学したいと答えた方に質問です。入学した場合に目指したい職種をお選びください。(複数回答可)

1. 航空旅客スタッフ                      2. 鉄道会社スタッフ                      3. ホテルスタッフ                      4. ツアープランナー  
5. 旅行会社スタッフ                      6. 観光関連団体、NPO等の職員                      7. 観光関連施設のスタッフ                      8. 観光ガイド  
9. 起業したい                      10. その他(                      )

参考資料: せとうち観光専門職短期大学および近隣大学・短期大学の初年度納入金 (円)

学校名	修業 年限	入学金	授業料	施設設備費	教育充実費	その他	初年度納入金(合計)
せとうち観光専門職短期大学 観光事業学科(仮称)	3	200,000	700,000	220,000	-	30,000	1,150,000
四国学院大学 社会学部 カルチュラル マネジメント学科	4	290,000	750,000	-	250,000	14,660	1,304,660
高松短期大学 秘書科	2	240,000	460,000	200,000	145,000	22,430	1,067,430
香川短期大学 経営情報科	2	240,000	460,000	220,000	140,000	33,000	1,093,000

※上記の費用の他、別途教科書代や実習費などが必要な場合があります。

※他大学の納入金は各大学のホームページ調べ。(2019年度入学生)

※せとうち観光専門職短期大学(仮称)の納入金は予定額であり、変更となる場合があります。

せとうち観光専門職短期大学(仮称)は設置構想中のため、設置計画は予定であり、内容が変更となる場合があります。



学長(就任予定)  
青木 義英

1972年日本航空(株)入社。宮崎支店長、マドリード支店長等として活躍。その後、鈴鹿国際大学国際人間科学部特任教授、和歌山大学観光学部客員教授を経て、2021年4月よりせとうち観光専門職短期大学(仮称)の学長に就任予定。

■所属学会

- ・観光学術学会 理事 副会長
- ・国際観光学会
- ・日本民俗学会
- ・日本クルーズ&フェリー学会

■社会活動等

- ・(公社)大阪タクシーセンター  
「国際観光タクシー創設検討委員会」委員長

校舎設置予定場所



車での通学可  
敷地内駐車場あり  
(約230台収容可能)



- JR高松駅/ことでん高松築港駅から路線バスで約20分  
高松駅バスターミナル(7番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ
- ことでん瓦町駅から路線バスで約30分  
ことでん瓦町駅バスターミナル(6番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ

住所 〒761-0113 香川県高松市屋島西町2366-1(旧:高松テルサ)

せとうち観光専門職短期大学(仮称)に関するお問い合わせ先

学校法人穴吹学園 新学校種設置準備室

〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23

tel. (087) 823-2266

せとうち観光専門職短期大学 Webサイト

<http://www.seto.ac.jp/>

せとうち観光専門職短期大学(仮称)

2021年4月  
高松市に  
開学構想中

観光事業学科(仮称)

(3年制/定員80名)

瀬戸内まるごと  
キャンパス宣言



せとうち観光専門職短期大学(仮称)

※開学構想中のため、設置計画は予定であり、名称・内容は変更となる場合があります。

2021年4月、香川県で新しい学校が開設を予定しています。それが「せとうち観光専門職短期大学」。  
せとうちで学び、日本で、世界で活躍できる観光人材を育成する学校です。  
でも、「専門職短期大学って、一体何?」「専門学校や、短期大学とは何が違うの?」と思っている方も多いのでは?  
専門職短期大学は、専門学校と大学、それぞれの良いところを取り入れて国が作った、全く新しい学校種。  
学びのポイントをご紹介します!

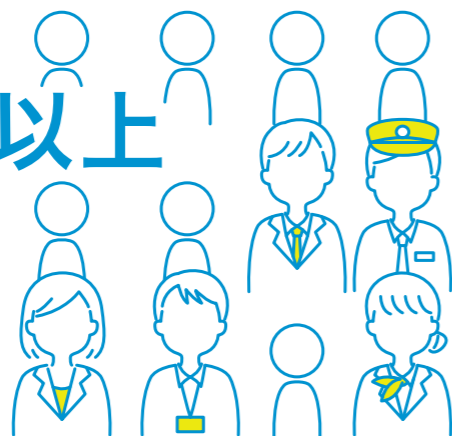
数字でわかる!

## 専門職短期大学とは?

実務家教員の割合

40%以上

実務家教員とは、実際にビジネスの現場で活躍してきた、実務の経験や能力を持つ先生のこと。専門職短期大学では、卒業後、即戦力となる知識・技術を身につけるために、こうした「実務家教員」を、専任教員数の40%以上配置することになっています。ビジネスの現場を知っている先生だからこそ受けられる、現場に即した指導や就職サポートが魅力です。



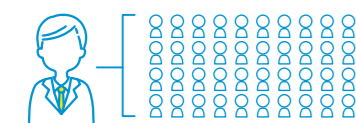
新しい学校種の誕生は  
55年ぶり



実習を中心とした専門学校の学びと、講義を中心とした大学・短期大学の学び、それぞれのメリットを掛け合わせ、新たに誕生したのが「専門職大学(短期大学)」。55年ぶりに生まれた新しい学校種として、今注目を集めています。

卒業まで  
2年または3年

専門職短期大学は2年制または3年制。卒業すると、「短期大学士(専門職)」の学位を取得できます。



原則40人以下  
の少人数授業

教員の目が行き届く少人数制授業で、一人ひとりにきめ細かな指導を実現。現場経験豊富な実務家教員と、理論に精通した教員それぞれから指導を受けることで、多角的な視点が身につきます。

実習・実技時間は  
授業全体の

1/3程度

専門職短期大学では、学んだ知識を現場で使ってみる「理論と実践」のサイクルを大切にしています。このため、学校内外での実習を充実。挑戦と失敗を繰り返しながら学ぶことで、即戦力となる人材をめざします。



知ってた?

## 世界から見た「せとうち」の実力。

香川県の訪日観光客数の  
対前年伸び率が、  
なんと  
日本国内で1位

※国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査報告」(2017年6月発表)

2016年1月~12月における、香川県の訪日観光客による対前年宿泊者数伸び率は70.3%(のべ宿泊者数358,360名)。アジアの空港から高松空港への直行便が増えたこともあり、台湾や中国をはじめ、アジア圏を中心に飛躍的に増加しました。

世界の旅行市場に影響をもつ6つの海外旅行メディアにおいて「SETOUCHI」が注目のデスティネーションとして選ばれました。今後、「SETOUCHI」への欧米市場における関心の高まりが期待されています。

海外メディアも注目!  
島々によって作られる  
眺望が魅力の  
“SETOUCHI”

はじまるよ!

## 2021年4月 せとうち観光専門職短期大学(仮称)

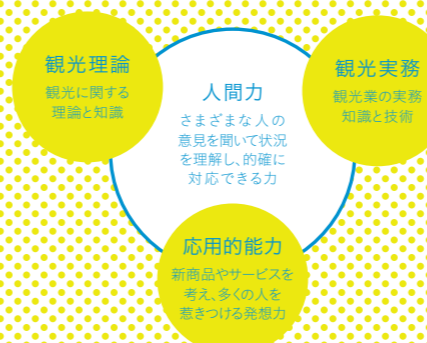
世界中から注目される「せとうち」。

でも、その魅力を広くアピールできる人材や、次の観光人材を引っ張っていくリーダーの育成など、まだまだ課題がたくさん残されています。

せとうち観光専門職短期大学は、「せとうち」をキャンパスにして、観光事業を「観光産業」「観光地域創生」などの領域から学び、瀬戸内だけでなく、日本中・世界中で活躍できる観光人材を養成します!

「せとうち」で学び、観光をとことん追求。  
地域の発展と人々の交流に貢献する「観光専門職」を養成

育てたい人物像



豊かな「人間力」を下地に、「観光の理論・知識」「観光実務の知識と技能」「新しいビジネスや商品、サービスを開発し、各地の観光ブランド化を推進できる応用的能力」を身につけます。

観光事業学科(仮称) 初年度納入金 2021年度(予定)1,150,000円(授業料等別添)

「あなたは、何になりたい?」

“なりたい職業”からつくる、「学びのプログラム」

「人と話すことが好き!」「自分のアイデアで人を楽しませたい!」という人にピッタリな観光のお仕事。飛行機や鉄道のスタッフやホテルスタッフ、ツアープランナーなど、「なりたい職業」から自分のための「学びのプログラム」を作成しよう!

めざせる職業

- ・航空旅客スタッフ
- ・ツアープランナー
- ・観光施設のスタッフ
- ・鉄道会社スタッフ
- ・旅行会社スタッフ
- ・伝統産業のスタッフ
- ・ホテルスタッフ
- ・観光関連団体
- ・観光ガイド
- ・NPO等の職員
- ・起業
- 等

資料11 四国地域の短期大学の学科系統及び定員充足率

	大学名	所在地	学科	入学定員	入学者数	定員充足率	競合校
1	今治明德短期大学	愛媛	ライフデザイン学科	100	89	89%	国際観光ビジネスコース
2			幼児教育学科	40	27	68%	
3	徳島工業短期大学	徳島	自動車工業学科	80	60	75%	
4	高知学園短期大学	高知	生活科学学科	80	45	56%	
5			幼児保育学科	80	76	95%	
6			医療衛生学科	120	75	63%	
7			看護学科	90	67	74%	
8	高松短期大学	香川	保育学科	80	67	84%	
9			秘書科	70	62	89%	
10	香川短期大学	香川	経営情報科	60	67	112%	
11			子ども学科Ⅰ	60	55	92%	
12			子ども学科Ⅲ	40	37	93%	
13			生活文化学科	90	70	78%	
14	松山短期大学	愛媛	商科第2部	100	111	111%	
15	徳島文理大学短期大学部	徳島	商科	40	32	80%	
16			言語コミュニケーション学科	20	17	85%	観光ビジネスコース
17			生活科学科	80	47	59%	
18			保育科	70	40	57%	
19			音楽科	20	12	60%	
20	四国大学短期大学部	徳島	ビジネスコミュニケーション学科	60	58	97%	地域ビジネスコース
21			人間健康科	80	43	54%	
22			幼児教育保育科	80	73	91%	
23			音楽科	40	22	55%	
24	松山東雲短期大学	愛媛	保育科	100	100	100%	
25			現代ビジネス学科	70	79	113%	
26			食物栄養学科	80	71	89%	
27	聖カタリナ短期大学	愛媛	保育学科	100	79	79%	
28	IPU環太平洋大学短期大学部	愛媛	人間発達学科	100	80	80%	

資料 12 近隣の短期大学及び他県の短期大学同系統学科の学生納付金

近隣短期大学の学生納付金

校名	学科名	入学金	授業料	施設費等	実習費	諸会費	初年度納入
せとうち観光専門職短期大学	観光振興学科	200,000	700,000	220,000	0	30,000	1,150,000
高松短期大学	秘書科	240,000	460,000	200,000	145,000	22,430	1,067,430
香川短期大学	経営情報科	240,000	460,000	200,000	140,000	33,000	1,093,000
徳島文理大学短期大学部	言語コミュニケーション学科	200,000	630,000	200,000	100,000	36,640	1,166,640

他県の短期大学同系統学科の学生納付金

仙台青葉学院短期大学	観光ビジネス学科	250,000	920,000	0	30,000	0	1,200,000
埼玉女子短期大学	国際コミュニケーション学科	350,000	710,000	350,000	10,000	12,170	1,432,170
青山学院女子短期大学	現代教養（国際）	300,000	826,000	200,000	5,000	31,500	1,362,500
戸板女子短期大学	国際コミュニケーション学科	250,000	660,000	360,000	0	28,000	1,298,000
実践女子大学短期大学部	英語コミュニケーション学科	240,000	720,000	320,000	0	35,080	1,315,080
国際短期大学	国際コミュニケーション学科	250,000	720,000	380,000	22,000	14,000	1,386,000
名古屋経営短期大学	未来キャリア学科	280,000	640,000	320,000	0	58,000	1,298,000
華頂短期大学	歴史学科	200,000	860,000	200,000	0	35,000	1,295,000
京都外国語短期大学	キャリア英語科	130,000	452,000	152,000	0	18,000	752,000
大阪成蹊短期大学	観光学科	250,000	960,000	0	60,000	21,930	1,291,930
大阪国際大学短期大学部	ライフデザイン総合	250,000	790,000	200,000	17,000	45,000	1,302,000
四天王寺大学短期大学部	生活ナビゲーション学科	280,000	1,090,000	0	0	24,460	1,394,460

資料13 都道府県別大学と短期大学数と人口

	都道府県名	大学数	短大数	大学と短大 合計	人口 (単位:千人)	100万人当り の学校数
1	京 都	34	12	46	2,610	17.62
2	石 川	13	5	18	1,156	15.57
3	岡 山	17	9	26	1,924	13.51
4	東 京	138	37	175	13,390	13.06
5	山 梨	7	3	10	841	11.89
6	青 森	10	5	15	1,321	11.35
7	岐 阜	12	11	23	2,041	11.26
8	群 馬	14	8	22	1,976	11.13
9	奈 良	11	4	15	1,376	10.9
10	山 口	10	5	15	1,408	10.65
11	秋 田	7	4	11	1,037	10.6
12	福 岡	34	19	53	5,091	10.41
13	新 潟	19	5	24	2,313	10.37
14	福 井	6	2	8	790	10.12
15	北 海 道	38	16	54	5,400	10.00
16	兵 庫	37	17	54	5,541	9.74
17	愛 知	51	21	72	7,455	9.65
18	徳 島	4	3	7	764	9.16
19	長 野	10	9	19	2,109	9.00
20	大 阪	55	24	79	8,836	8.94
21	広 島	20	5	25	2,833	8.82
22	岩 手	6	5	11	1,284	8.56
23	大 分	5	5	10	1,171	8.53
24	宮 城	14	5	19	2,328	8.16
25	宮 崎	7	2	9	1,114	8.07
26	山 形	6	3	9	1,131	7.95
27	滋 賀	8	3	11	1,416	7.76
28	栃 木	9	6	15	1,980	7.57
29	長 崎	8	2	10	1,386	7.21
30	愛 媛	5	5	10	1,395	7.16
31	沖 縄	8	2	10	1,421	7.03
32	鳥 取	3	1	4	574	6.96
33	高 知	3	2	5	738	6.77
34	福 島	8	5	13	1,935	6.71
35	富 山	5	2	7	1,070	6.54
36	熊 本	9	2	11	1,794	6.13
37	香 川	4	2	6	981	6.11
38	三 重	7	4	11	1,825	6.02
39	鹿 児 島	6	4	10	1,668	5.99
40	佐 賀	2	3	5	835	5.98
41	千 葉	27	8	35	6,197	5.64
42	埼 玉	28	12	40	7,239	5.52
43	神 奈 川	30	14	44	9,096	4.83
44	静 岡	12	5	17	3,705	4.58
45	茨 城	10	3	13	2,919	4.45
46	島 根	2	1	3	697	4.30
47	和 歌 山	3	1	4	971	4.11
	合 計	782	331	1,113	127,082	8.75

資料:政府の統計総合窓口2018をもとに作成

資料14 出身高校の所在地県別県内進学率

	都道府県名	高等学校 (全日定時制) 卒業生数	高等学校 (通信制) 卒業生数	卒業生数計 ①	県内大学 入学者数	県内短大 入学者数	県内大学県内 短大入学者数 ②	県内大学県内 短大進学率 (②÷①)
1	東 京	102,326	3,904	106,230	50,296	1,769	52,065	49.0%
2	愛 知	65,204	2,240	67,444	27,941	2,525	30,466	45.1%
3	福 岡	42,435	804	43,239	14,652	2,141	16,793	38.8%
4	大 阪	75,858	5,233	81,091	26,860	3,253	30,113	37.1%
5	京 都	23,480	600	24,080	8,059	764	8,823	36.6%
6	広 島	23,780	730	24,510	7,790	567	8,357	34.0%
7	宮 城	19,806	342	20,148	5,914	749	6,663	33.0%
8	北 海 道	42,484	6,968	49,452	13,836	2,112	15,948	32.2%
9	兵 庫	47,201	1,412	48,613	13,864	1,634	15,498	31.8%
10	石 川	10,550	141	10,691	2,674	536	3,210	30.0%
11	神 奈 川	66,400	1,172	67,572	17,631	1,976	19,607	29.0%
12	岡 山	17,762	375	18,137	3,952	653	4,605	25.3%
13	沖 縄	14,607	1,625	16,232	3,329	440	3,769	23.2%
14	熊 本	15,622	831	16,453	3,426	349	3,775	22.9%
15	徳 島	6,443	44	6,487	1,193	258	1,451	22.3%
16	千 葉	49,330	1,700	51,030	9,941	1,119	11,060	21.6%
17	愛 媛	11,480	970	12,450	2,076	531	2,607	20.9%
18	福 井	7,564	59	7,623	1,321	261	1,582	20.7%
19	群 馬	17,056	395	17,451	2,783	762	3,545	20.3%
20	埼 玉	57,262	1,008	58,270	10,664	1,107	11,771	20.2%
21	青 森	12,094	284	12,378	2,037	450	2,487	20.0%
22	新 潟	19,427	586	20,013	3,358	581	3,939	19.6%
23	静 岡	32,825	354	33,179	5,069	880	5,949	17.9%
24	山 梨	8,229	1,220	9,449	1,361	328	1,689	17.8%
25	長 崎	12,977	274	13,251	1,896	336	2,232	16.8%
26	鹿 児 島	14,765	3,390	18,155	1,956	988	2,944	16.2%
27	大 分	10,102	245	10,347	1,041	625	1,666	16.1%
28	栃 木	17,493	613	18,106	2,184	601	2,785	15.3%
29	岐 阜	18,379	632	19,011	1,952	962	2,914	15.3%
30	高 知	6,081	138	6,219	605	283	888	14.2%
31	岩 手	11,558	260	11,818	1,350	320	1,670	14.1%
32	山 口	11,321	911	12,232	1,339	361	1,700	13.8%
33	長 野	18,898	894	19,792	1,577	1,141	2,718	13.7%
34	宮 崎	10,329	259	10,588	1,109	344	1,453	13.7%
35	滋 賀	12,884	333	13,217	1,426	376	1,802	13.6%
36	富 山	9,115	54	9,169	820	426	1,246	13.5%
37	香 川	8,662	194	8,856	837	362	1,199	13.5%
38	秋 田	8,524	90	8,614	872	280	1,152	13.3%
39	三 重	16,212	906	17,118	1,720	562	2,282	13.3%
40	山 形	10,073	134	10,207	900	381	1,281	12.5%
41	福 島	17,607	806	18,413	1,528	715	2,243	12.1%
42	鳥 取	4,881	62	4,943	310	248	558	11.2%
43	奈 良	12,061	1,728	13,789	1,268	215	1,483	10.7%
44	茨 城	25,284	6,807	32,091	3,034	375	3,409	10.6%
45	佐 賀	8,106	140	8,246	605	268	873	10.5%
46	島 根	6,045	233	6,278	501	61	562	8.9%
47	和 歌 山	8,986	166	9,152	522	180	702	7.6%
	合 計	1,069,568	52,266	1,121,834	269,379	36,155	305,534	27.2%

資料: 学校基本調査資料をもとに作成

1. 入学者数には5月1日現在在籍しない者は含まない。
2. 大学・短期大学の所在地は、入学した学科の所在地による。
3. 平成29年度高等学校状況別卒業生数

資料15 既設専門学校の資料請求数、体験入学動員と出願状況

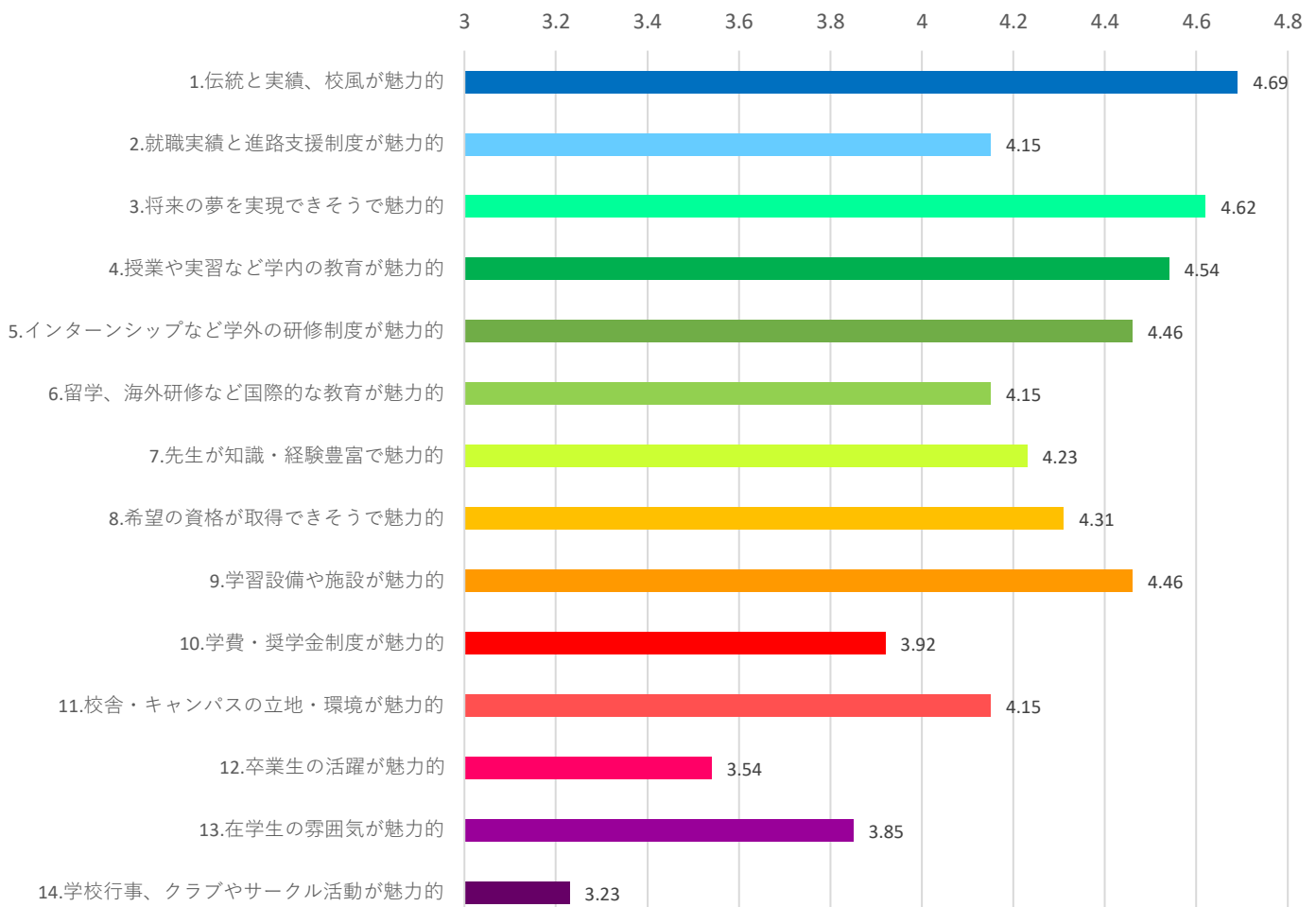
年度	資料 請求数	体験入学動員		出 願				資料請求数 に対する 出願割合
		参加者数	誘導率	体験入学 参加者	捕捉率	体験入学 未参加者	合 計	
	a	b	b/a	d	d/b	e	d+e	(d+e)/a
2018年度	10,274	1,400	14%	542	39%	158	700	7%
2017年度	10,010	1,512	15%	559	37%	113	672	7%
2016年度	9,226	1,512	16%	569	38%	114	683	7%
<b>3年平均</b>	<b>9,837</b>	<b>1,475</b>	<b>15%</b>	<b>557</b>	<b>38%</b>	<b>128</b>	<b>685</b>	<b>7%</b>



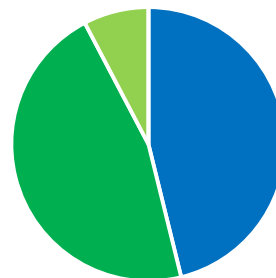
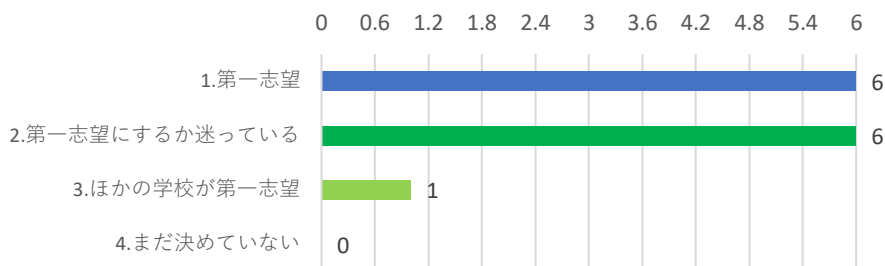
## オープンキャンパスアンケート

【2018/12/23開催】学校説明会アンケート

### 事後魅力（平均点）



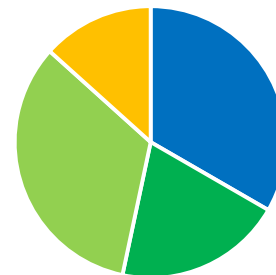
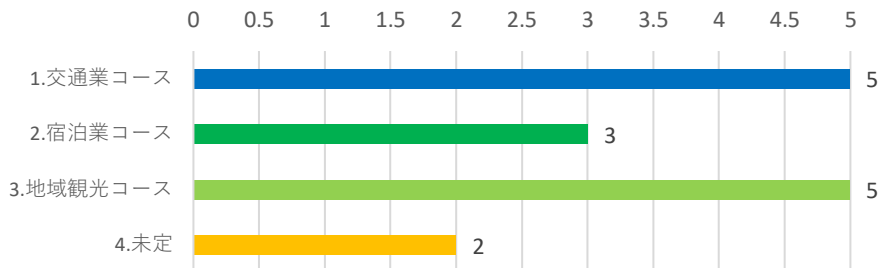
## 入学志望度



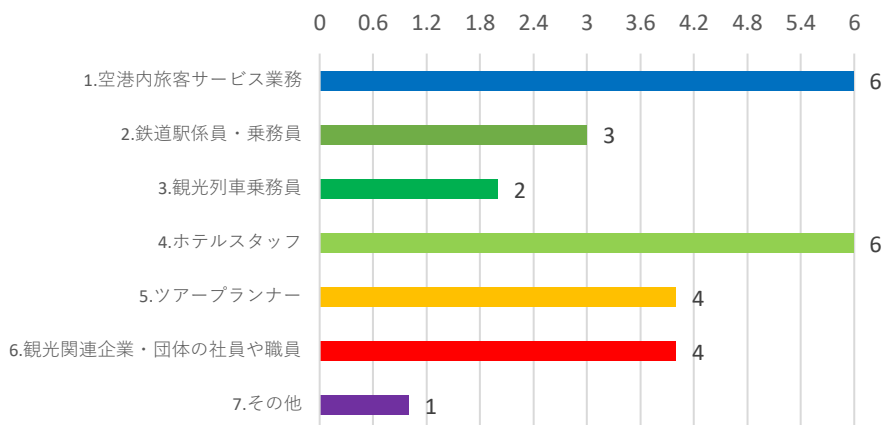
	回答	件数 (件)	割合 (%)
■	1.第一志望	6	46
■	2.第一志望にするか迷っている	6	46
■	3.ほかの学校が第一志望	1	8
■	4.まだ決めていない	0	0
	合計	13	100

## 【2018/12/23開催】 学校説明会アンケート

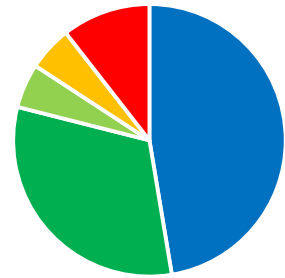
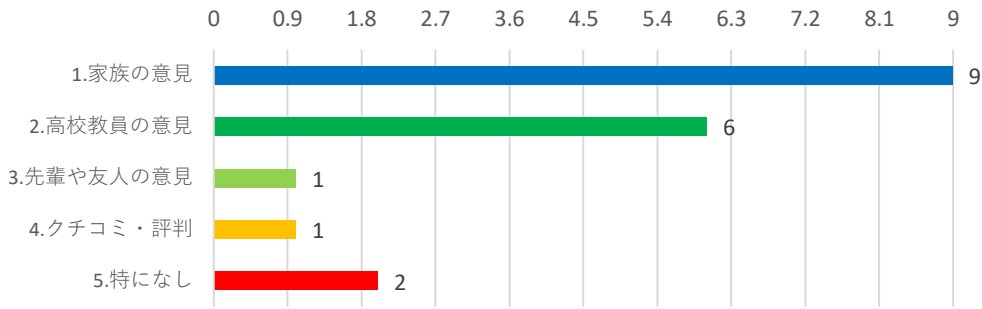
### 地域観光学科に設置予定のコースのうち、検討しているコースは？



### 興味のある職業は？



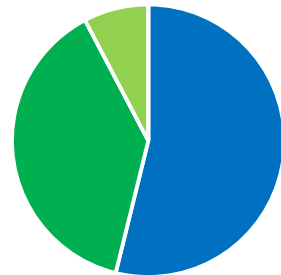
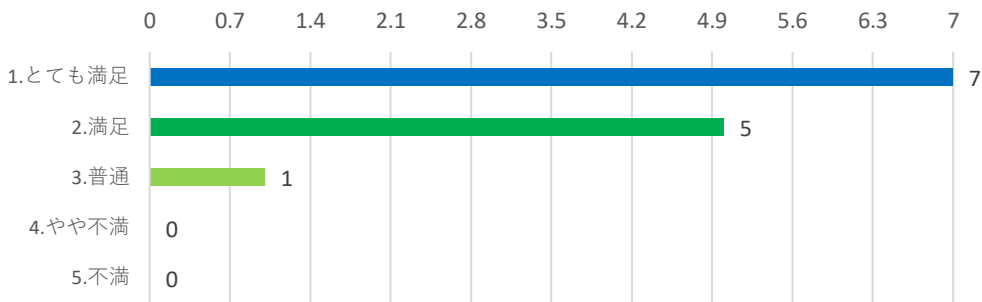
### 進路選びで誰の意見を参考にしますか？



### 現在、進路として興味のある分野は？

個人ID	回答
<a href="#">00000021</a>	観光・教育
<a href="#">00000022</a>	ホテルスタッフ 空港内旅客サービス業務
<a href="#">00000023</a>	航空関係
<a href="#">00000024</a>	ウエディング
<a href="#">00000026</a>	宿泊
<a href="#">00000027</a>	空港グランドスタッフ
<a href="#">00000029</a>	観光
<a href="#">00000030</a>	観光
<a href="#">00000035</a>	英語系

### 本日の学校説明会の満足度は？



### その他メッセージがあればお書きください。

個人ID	回答
<a href="#">00000029</a>	本日はとてもいい説明ありがとうございました。次回の学校説明会もいく予定です。よろしくお願ひします。

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類  
資料17 明日の日本を支える観光ビジョン（抄）
  
2. 出典  
明日の日本を支える観光ビジョン構想会議
  
3. <https://www.mlit.go.jp/common/001126598.pdf>  
p1-5

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料 18 米国ニューヨークタイムズ誌の「2019年に行くべき 52 か所」

2. 出典

New York Times, TRAVEL 52 Places to Go in 2019

3. <https://www.nytimes.com/interactive/2019/travel/places-to-visit.html>

## 資料19 日本遺産リスト

### 日本遺産とは

「日本遺産 (Japan Heritage)」は地域の歴史的魅惑や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。

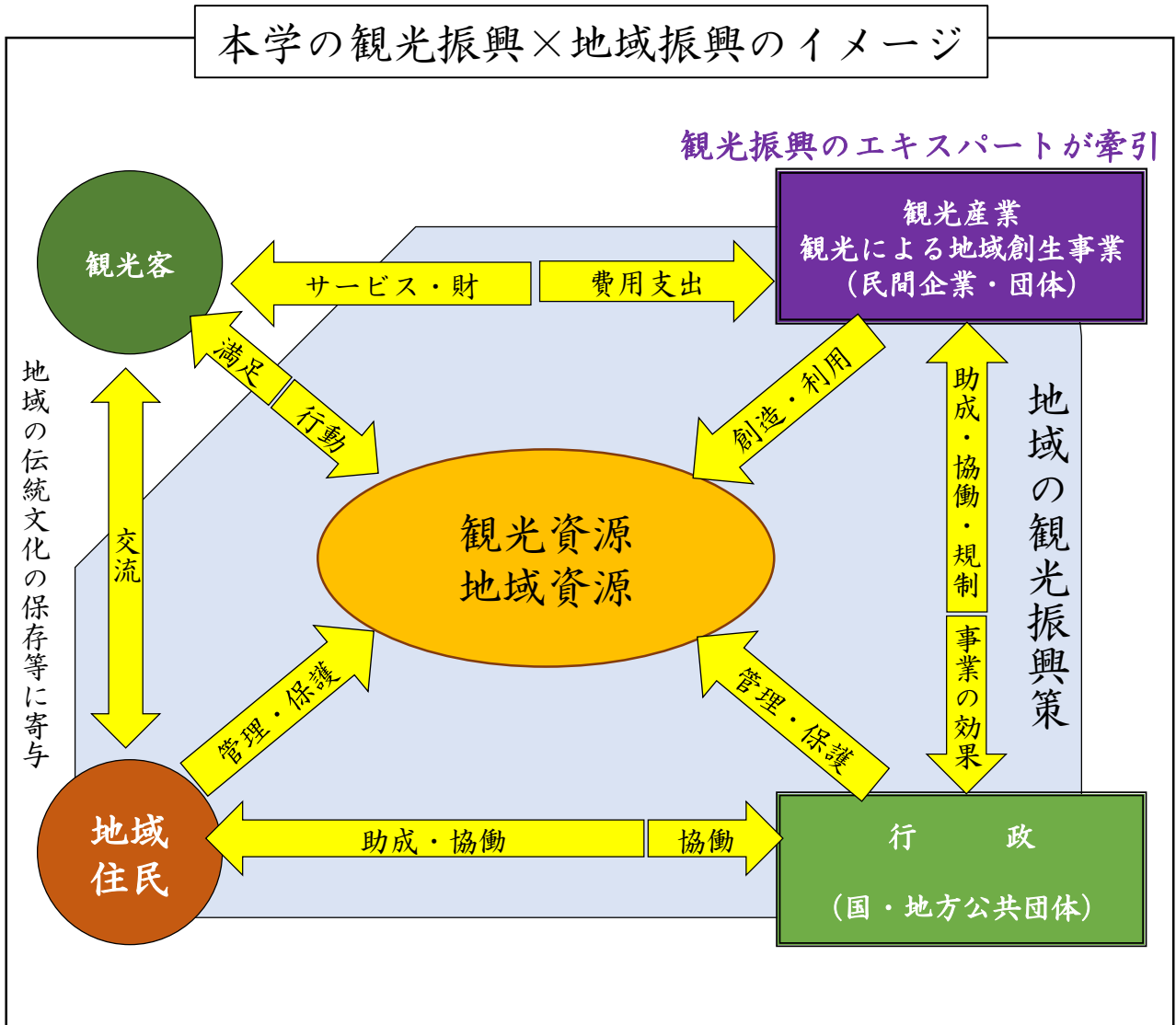
ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

これまで67件を認定し、2020年までに100件程度認定していく予定です。

### 日本遺産一覧

- ストーリー1 茨城県・栃木県・岡山県・大分県 近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—
- ストーリー2 群馬県 かかあ天下—ぐんまの絹物語—
- ストーリー3 富山県 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡—人、技、心—
- ストーリー4 石川県 灯(あか)り舞う半島 能登 ~熱狂のキリコ祭り~
- ストーリー5 福井県 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群—御食国(みけつくに) 若狭と鯖街道—
- ストーリー6 岐阜県 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
- ストーリー7 三重県 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
- ストーリー8 滋賀県 琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産
- ストーリー9 京都府 日本茶800年の歴史散歩
- ストーリー10 兵庫県 丹波篠山 デカンショ節 -民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶
- ストーリー11 奈良県 「日本国創成のとき—飛鳥を翔(かけ)た女性たち—」
- ストーリー12 鳥取県 六根清浄と六感治癒の地—日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉—
- ストーリー13 鳥根県 津和野今昔—百景園を歩く—
- ストーリー14 広島県 尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
- ストーリー15 愛媛県・高知県・徳島県・香川県「四国通路」—回遊型巡礼路と独自の巡礼文化—
- ストーリー16 福岡県 太宰府市 古代日本の「西の都」—東アジアとの交流拠点—
- ストーリー17 長崎県 国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~
- ストーリー18 熊本県 相良700年が生んだ保守と進取の文化 ~日本でもっとも豊かな隠れ里-人吉球磨~
- ストーリー19 宮城県 政宗が育んだ“伊達”な文化
- ストーリー20 山形県 自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』  
~樹齢300年を超える杉並木にまつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山~
- ストーリー21 福島県 会津の三十三観音めぐり—巡礼を通して親た往時の会津の文化—
- ストーリー22 福島県 未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—
- ストーリー23 千葉県 「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」  
—佐倉・成田・佐原・銚子:百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群—
- ストーリー24 神奈川県 江戸庶民の信仰と行楽の地—巨大な木太刀を担いで「大山詣り」—
- ストーリー25 神奈川県 「いざ、鎌倉」—歴史と文化が描くモザイク画のまちへ—
- ストーリー26 新潟県 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
- ストーリー27 石川県 『珠玉と歩む物語』小松 ~時の流れの中で磨き上げた石の文化~
- ストーリー28 長野県 木曾路はずべて山の中—山を守り山に生きる—
- ストーリー29 岐阜県 飛騨匠の技・こころ —木とともに、今に引き継ぐ1300年—
- ストーリー30 兵庫県 『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」—古代国家を支えた海人の営み
- ストーリー31 奈良県 森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ—美林連なる造林発祥の地“吉野”—
- ストーリー32 和歌山県 鯨とともに生きる
- ストーリー33 鳥取県 地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
- ストーリー34 鳥根県 出雲國たたら風土記 ~鉄づくり千年が生んだ物語~

- ストーリー35 広島県・神奈川県・長崎県・京都府 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～
- ストーリー36 愛媛県・広島県 “日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島  
—よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—
- ストーリー37 佐賀県・長崎県 日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～
- ストーリー38 北海道 江差の五月は江戸にもない —ニシンの繁栄が息づく町—
- ストーリー39 北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・京都府・大阪府・兵庫県・  
鳥取県・島根県・岡山県・広島県  
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～
- ストーリー40 山形県 サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
- ストーリー41 埼玉県 和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田
- ストーリー42 滋賀県・三重県 忍びの里 伊賀・甲賀—リアル忍者を求めて—
- ストーリー43 京都府 300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊
- ストーリー44 大阪府・奈良県 1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～
- ストーリー45 兵庫県 播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
- ストーリー46 和歌山県 絶景の宝庫 和歌の浦
- ストーリー47 和歌山県 「最初一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅
- ストーリー48 島根県 日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～
- ストーリー49 岡山県 一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～和と洋が織りなす繊維のまち～
- ストーリー50 岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県  
きっと恋する六古窯 —日本生まれ日本育ちのやきもの産地—
- ストーリー51 高知県 森林鉄道から日本一のゆずロードへ —ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化—
- ストーリー52 福岡県・山口県 関門“ノスタルジック”海峽 ～時の停車場、近代化の記憶～
- ストーリー53 熊本県 米作り、二千年にわたる大地の記憶 ～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～
- ストーリー54 大分県 やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～
- ストーリー55 北海道 カムイと共に生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
- ストーリー56 山形県 山寺が支えた紅花文化
- ストーリー57 栃木県 地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～
- ストーリー58 栃木県 明治貴族が描いた未来 ～那須野が原開拓浪漫譚～
- ストーリー59 富山県 宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
- ストーリー60 山梨県 葡萄畑が織りなす風景—山梨県映東地域—
- ストーリー61 長野県・山梨県 星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—
- ストーリー62 静岡県・神奈川県 旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 —箱根八里で辿る遙かな江戸の旅路
- ストーリー63 和歌山県 「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
- ストーリー64 岡山県 「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～
- ストーリー65 広島県 瀬戸の夕風が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～
- ストーリー66 大分県 鬼が仏になった里「くにさき」
- ストーリー67 宮崎県 古代人のモニュメント —台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—





# 社説

2019. 7. 30

## オーバーツーリズムの芽を早めに摘もう

外国人観光客の増加で起きている騒音や交通渋滞で、地域住民の日常生活が潤なわれる「オーバーツーリズム」が深刻化している。地域を元気にするはずの観光によって、逆に生活の質が低下するのは本末転倒だ。全国に問題が広がる前に、持続可能な観光のあり方を考える必要がある。

オーバーツーリズムは、2000年代に入って多数のアジアの中間層が世界を旅するようになり各地で目立ち始めた現象だ。スペインのバルセロナでは住民が観光客排斥デモを起し、イタリアのベネチアでは市外に転居する住民が

続出した。海外の事例を他山の石としたい。日本でも外国人観光客が都市の生活圏に押し寄せ、バスや電車が混雑して住民が乗れないなどの苦情が出始めている。

外資者を惹きつける感情の広がりには成算がない。おもてなしからほど遠い違和感は来訪者に伝わるものだ。もう一度訪れたいとは思わなくなるだろう。これでは観光を経済成長の柱に育てることなどできない。

住民にとって「住んでよし」、観光客にとって「訪れてよし」でなければ地域振興にはならない。

岐阜県白川郷など面積の狭い観光地では、来訪者の人数そのものを抑制する手法が有効だろう。交通規制やマナー指導など、最低限の対策はやむを得ない。

だが規制の前に、観光客の受け入れについて、時間、季節、場所の3つの観点で分散化を促さるのが先だ。京都市は混み合う日中を避け朝や夜の間断帯に楽しむ旅を提案。春の桜や秋の紅葉だけでなく「青もみじ」と名付けて初夏を楽しむ観光を勧めている。アイデア次第で集中は和らげられる。

企業が果たす役割は大きい。神奈川県鎌倉市はシステム開発の子

シタルガレッジなど組む。スマートフォンアプリから観光客の動きを可視化し、人の流れを分散させる具体策を練る。こうした官民連携の取り組みを促したい。

18年の訪日客は3千万人を超えた。だが、政府が掲げる30年に6千万人という大胆な目標の達成に、観光客に知られていない地域の魅力を掘り起こしてツアーを提案するのは旅行会社の腕の見せどころだろう。社会問題の解決はビジネスの好機でもある。

民連携の取り組みを促したい。

18年の訪日客は3千万人を超えた。だが、政府が掲げる30年に6千万人という大胆な目標の達成に、観光客に知られていない地域の魅力を掘り起こしてツアーを提案するのは旅行会社の腕の見せどころだろう。社会問題の解決はビジネスの好機でもある。

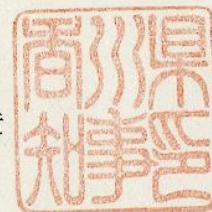
元地域第39738号

令和元年 9月25日

文部科学大臣 萩生田 光一 様

せとうち観光専門職短期大学（仮称）の設置について（要望書）

香川県知事 浜田 恵造



人口減少、少子化、超高齢化に加え、グローバル化の一層の進展やAIに代表される技術の革新など、内外の情勢が著しく急速に変化する中、時代の変化に即応できる実践的な知識と高度な技術を有した若い人材を育てることが、一層重要となっています。

こうした中、香川県では、「信頼・安心の香川」、「成長する香川」、「笑顔で暮らせる香川」の三つの基本方針のもと、特に地震から濁水まで災害に耐えられる県土づくりや人口減少の克服、地域活力の向上に全力で取り組んでいます。

なかでも、「笑顔で暮らせる香川」では、大学等への進学や就職などを機に若者が県外に流出していることや、既存の県内大学・短期大学の入学定員も本県出身の大学・短期大学進学者に比べると少ない状況にあることなどから、若者の県外流出に歯止めをかけるため、県内大学等の魅力づくりなど、若者の県内定着に向け、積極的に取組みを進めています。

また、「成長する香川」では、県内を周遊する滞在型観光の推進や観光客の満足度を高めるための受け入れ環境の充実、強化を図るとともに、国内外からの観光客に向けた戦略的な情報発信や誘客活動を行うことにより、観光かがわの推進に取り組んでいます。

学校法人穴吹学園におかれては、専門学校としてコンピュータや医療、福祉など様々な分野の専門知識や技術を修得した地域を支える人材を多数輩出されており、地域の教育機関として重要な役割を担っております。

同法人では、令和3年4月の開学を目指し、「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置に向けた取組みを進められているところであり、本県における若者の県内定着促進や地域に根差した観光分野での人材育成が図られることに期待を寄せているところです。

ついては、同法人による「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置について、ご高配いただきますようお願い申し上げます。

文部科学大臣

萩生田 光一 様

せとうち観光専門職短期大学（仮称）の設置について（要望）

近年、人口減少、少子・超高齢社会の本格的な到来を迎える中、本市のまちづくりの最上位計画に位置付けております第6次高松市総合計画や、平成27年10月に策定した「たかまつ創生総合戦略」において、施策の基本的方向の一つに「大学等高等教育の充実」を掲げ、大学等の機能を強化し、魅力を向上させることで、高等学校卒業後の人材の流出を抑制し、若者の定着を図るとともに、地方への新たな人の流れをつくろうとしております。

また、近年、新規国際定期路線の誘致活動などが功を奏し、高松空港では定期路線利用者数が5年連続で過去最多を更新しているほか、県や関係団体と連携しての瀬戸内国際芸術祭の開催などによる知名度の向上などにより、県内における外国人延べ宿泊者数も増加を続けております。

本年1月には、ニューヨークタイムズで「2019年に訪れるべき52か所」の第7位に「瀬戸内の島々」が日本で唯一選ばれるなど、世界的にも注目が集まっているエリアとなっております。

今後、本市を訪れた人々に、再び訪れてもらうとともに、本市の観光都市としてのブランドイメージを向上させ、観光客の更なる誘致を実現していくためには、満足度の高いサービスを提供できる、受入環境の整備が重要であり、地域の特性をいかした観光や四国が誇るべき要素である「おもてなしの心」を将来にわたって創造・実践できる人材の育成が課題となっております。

この度の穴吹学園による「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置構想は、そうした観光産業分野における創造力と実践力を有する人材の育成が期待され、また、本市が進める政策や施策など取組方針とも合致するもので、地元自治体といたしまして、一早くその構想推進に賛同の意思を表明し、現時点で行政として出来得る支援として、市議会の承認を得た上で、本年4月から市有施設の貸付けを行うとともに、今後20年以上にわたる貸付けを確実に保証するための確認書も交わさせていただいております。

本市では、地域課題の解決に向けて、地元大学等と包括協定を締結し、調査研究・共同研究なども実施しており、穴吹学園による専門職短期大学には、地元高等教育機関として、特に観光分野における専門的立場から本市まちづくりに将来にわたり参画いただきたいとも考えており、その設置の早期実現を強く望むものでございます。

令和元年10月4日

高松市長 大西 秀人



資料24 香川県交通機関別県外観光客入込数

(単位:千人)

		平成29年	平成28年	前年比増減率
J	R 利 用	1,359	1,341	1.3%
船	船 利 用	541	630	△14.0%
航	空 機 利 用	306	278	10.0%
自動車利用	瀬戸中央自動車道	3,377	3,283	2.8%
	神戸淡路鳴門自動車道	1,990	1,993	△0.2%
	西瀬戸自動車道	116	116	△0.1%
	四国3県より	1,775	1,727	2.8%
	小 計	7,258	7,119	1.9%
合 計		9,464	9,368	1.0%

※前年比増減率は千人単位ではなく、人単位で計算した数値

資料:香川県作成

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料 25 UNWTO(2018) Tourism Highlights p.2

2. 出典

UNWTO Tourism Highlights 2018 Edition 日本語版

3. <https://www.e-unwto.org/doi/epdf/10.18111/9789284419951>

1. 学生の確保の見通し等を記載した書類

資料 26 訪日外国人旅行者数の推移

2. 出典

国土交通省 観光庁 「訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移」

3. [https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in\\_out.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in_out.html)

## 資料27 本学の観光振興専門職教育への企業ニーズ

### (3) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。（〇は1つ）	件数	%
全 体	254	100.0
極めて高い	61	24.0
ある程度高い	150	59.1
どちらともいえない	36	14.2
高くない	7	2.8

## 資料28 本学が養成する人材の採用予定

### (4) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用意向

本学の観光振興学科（仮称）」が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。（○は1つ）

	件数	%
全 体	258	100.0
採用したい	48	18.6
採用を検討したい	88	34.1
どちらともいえない	101	39.1
採用しない	21	8.1



**学校法人穴吹学園  
せとうち観光専門職短期大学  
観光振興学科(仮称)  
受容性調査結果報告書  
【企業】**

**株式会社日本ドリコム  
2019年10月**

## 目 次

<b>1. 学生確保に関する調査概要</b> .....	<b>3</b>
(1) 調査目的 .....	3
(2) 調査期間 .....	3
(3) 調査対象・地域・方法.....	3
(4) 回収状況 .....	3
(5) 本報告書について.....	3
<b>2. 回答社・団体属性</b> .....	<b>4</b>
(1) 所在する都道府県.....	4
(2) 業種 .....	4
<b>3. 新卒採用・人材充足状況</b> .....	<b>7</b>
(1) 新卒者を採用する際に重視する能力.....	7
(2) 現在の人材の過不足状況 .....	10
<b>4. 本学 観光振興学科（仮称）について</b> .....	<b>20</b>
(1) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ .....	20
(2) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用意向.....	23
(3) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用想定人数（採用希望・検討者） .....	26
(4) 本学への意見・要望.....	28
(5) まとめ.....	29
<b>5. 設問票</b> .....	<b>30</b>

## 1. 学生確保に関する調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、学校法人穴吹学園 せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科(仮称)の新規設置構想に伴い、該当学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体へ本構想に対する関心度及び現在の採用状況を尋ね社会的ニーズを把握し、新設構想の基礎資料とすることを目的とする。

### (2) 調査期間

2019年8月～2019年9月

### (3) 調査対象・地域・方法

企業・団体 200社・団体を対象に郵送もしくは持参でアンケート調査を実施。

### (4) 回収状況

182件(回収率約91.0%)。

### (5) 本報告書について

次ページより、貴学の名称は穴吹学園もしくは「本学」と表記している。なお、無回答は集計対象外とした。

また、アンケート実施の際、学科名を「観光事業学科」としていたが、その後上記「観光振興学科」に変更した。本報告書では、設問文を含め全て「観光振興学科」と統一している。

## 2. 回答社・団体属性

### (1) 所在する都道府県

所在する都道府県（主たる事業所・本社等）をお答えください。  
（○は1つ）

	件数	%
全 体	182	100.0
香川県	62	34.1
愛媛県	37	20.3
徳島県	26	14.3
高知県	21	11.5
岡山県	15	8.2
広島県	9	4.9
大阪府	4	2.2
沖縄県	3	1.6
東京都	2	1.1
兵庫県	2	1.1
京都府	1	0.5

### (2) 業種

業種をお答えください。（○はいくつでも）

	件数	%
全 体	182	100.0
宿泊業	59	32.4
旅行代理店	27	14.8
バス・観光バス関連業	20	11.0
印刷・広告業	20	11.0
卸売業・小売業	17	9.3
旅客輸送サービス業	16	8.8
イベント企画・運営業	15	8.2
観光関連団体・NPO 法人	13	7.1
放送業	9	4.9
不動産業	6	3.3
鉄道業	4	2.2
その他	31	17.0

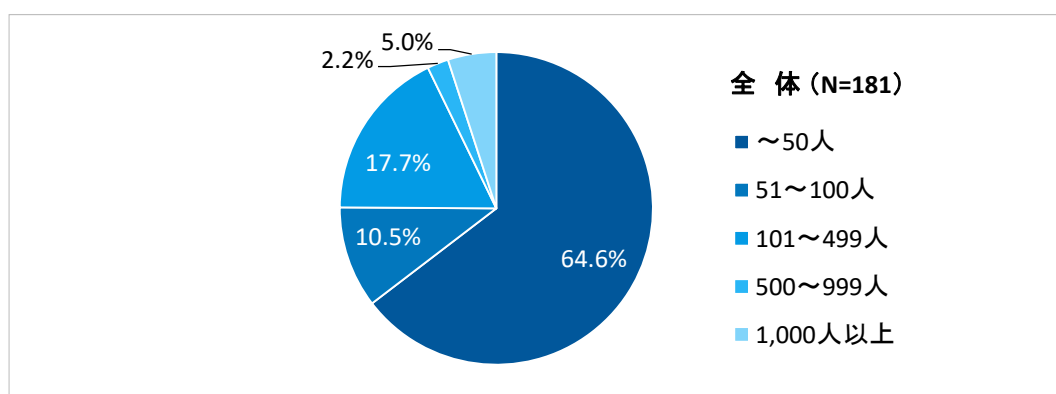
※「その他」の回答として、「介護・福祉」「情報サービス」「飲食業」「運送業」などがあつた。

### (3) 従業員数・職員数

従業員数・職員数が「50人以下」の会社・団体が全体の64.6%を占めている。次に高いのは「101～499人」で、17.7%である。また、「1,000人以上」の規模の大きな会社・団体は5.0%にとどまる。

従業員数、職員数の規模をお答えください。（支店や支社を含めた数）（〇は1つ）

	件数	%
全 体	181	100.0
50人以下	117	64.6
51～100人	19	10.5
101～499人	32	17.7
500～999人	4	2.2
1,000人以上	9	5.0

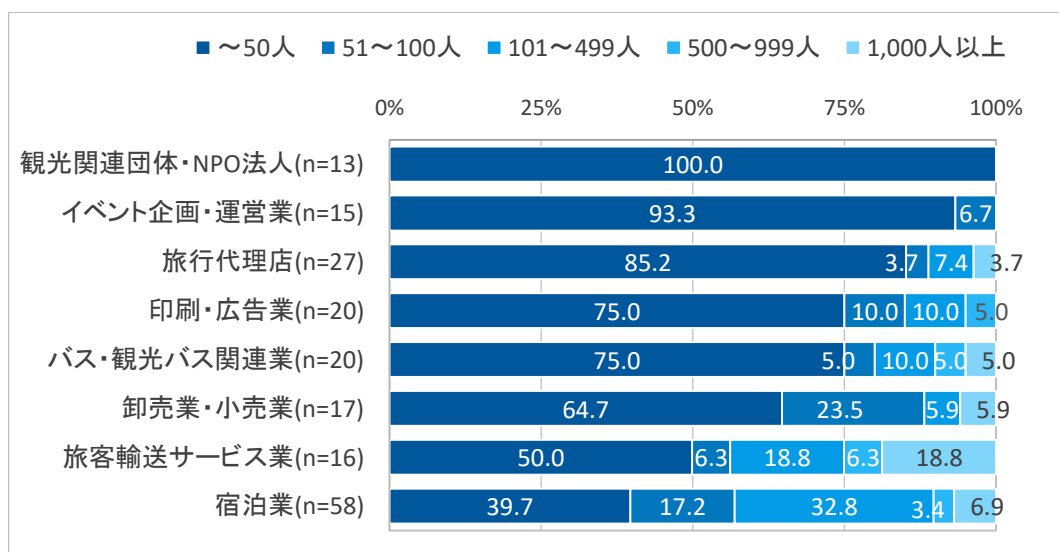


### ● クロス集計（業種別）

観光関連団体・NPO 法人、イベント企画・運営業、旅行代理店、印刷・広告業、バス・観光バス関連業は 75%以上が「50 人以下」の規模。一方、宿泊業は「50 人以下」の割合が 4 割未満、101 人以上が 4 割超と、このなかでは比較的規模が大きい。なお、グラフは「50 人以下」の値を降順に並び替えている。

		全 体	5 0 人 以 下	5 1 1 0 0 人	1 4 0 9 1 人	5 9 0 9 0 人	1 , 0 0 0 人 以 上
宿泊業	件	58	23	10	19	2	4
	%	100.0	39.7	17.2	32.8	3.4	6.9
旅行代理店	件	27	23	1	2	0	1
	%	100.0	85.2	3.7	7.4	0.0	3.7
バス・観光バス関連業	件	20	15	1	2	1	1
	%	100.0	75.0	5.0	10.0	5.0	5.0
印刷・広告業	件	20	15	2	2	1	0
	%	100.0	75.0	10.0	10.0	5.0	0.0
卸売業・小売業	件	17	11	4	1	0	1
	%	100.0	64.7	23.5	5.9	0.0	5.9
旅客輸送サービス業	件	16	8	1	3	1	3
	%	100.0	50.0	6.3	18.8	6.3	18.8
イベント企画・運営業	件	15	14	1	0	0	0
	%	100.0	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0
観光関連団体・ NPO 法人	件	13	13	0	0	0	0
	%	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※業種別は母数が 10 以上の業種のみ掲載。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。



### 3. 新卒採用・人材充足状況

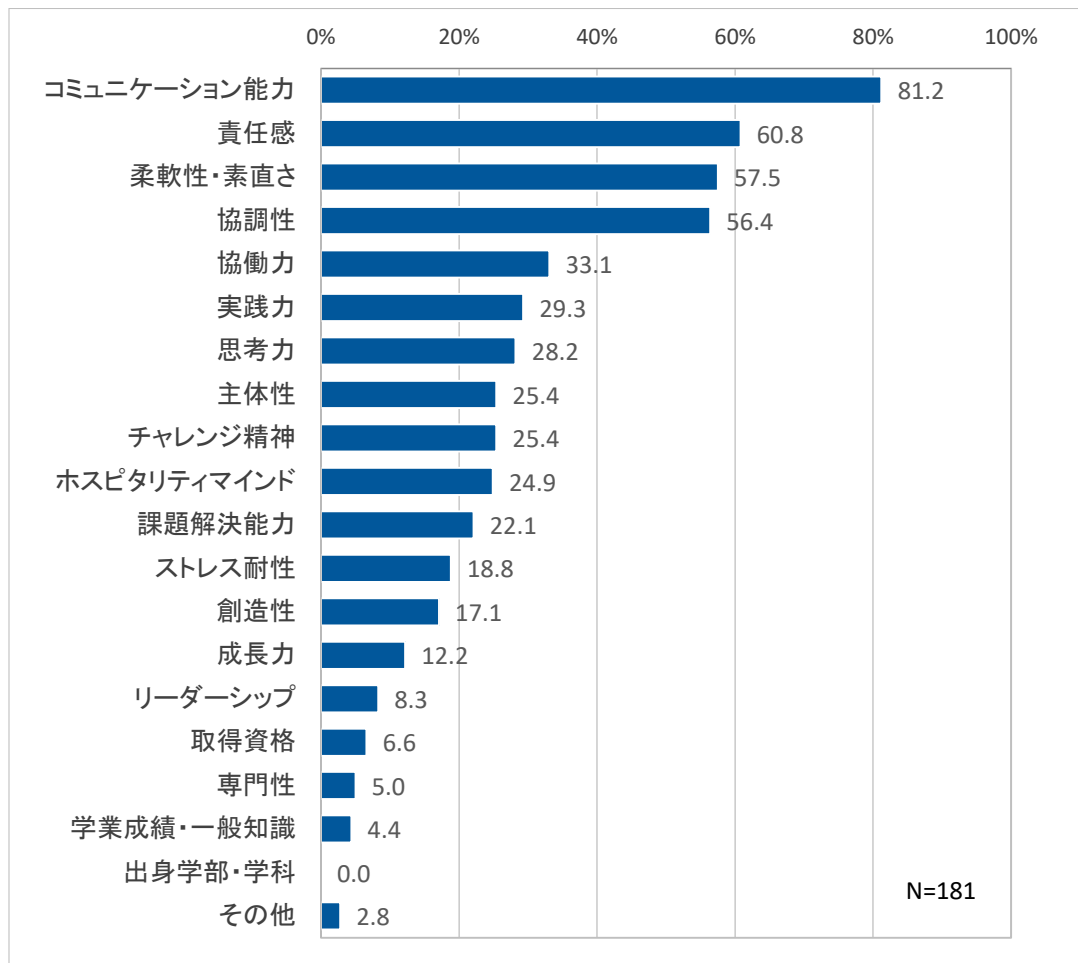
#### (1) 新卒者を採用する際に重視する能力

新卒採用の際に重視する能力としては「コミュニケーション能力」が8割超であり、特に高い。次に「責任感」「柔軟性・素直さ」「協調性」が6割弱と続き、この4つが特に重視されていることがうかがえる。

なお、本設問の選択肢20個のうちいくつ回答したかを集計すると、平均値5.2個、中央値5個の結果になり、複数の能力を重視する傾向がみられた。

新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。(〇はいくつでも)	件数	%
全 体	181	100.0
コミュニケーション能力	147	81.2
責任感	110	60.8
柔軟性・素直さ	104	57.5
協調性	102	56.4
協働力	60	33.1
実践力	53	29.3
思考力	51	28.2
主体性	46	25.4
チャレンジ精神	46	25.4
ホスピタリティマインド	45	24.9
課題解決能力	40	22.1
ストレス耐性	34	18.8
創造性	31	17.1
成長力	22	12.2
リーダーシップ	15	8.3
取得資格	12	6.6
専門性	9	5.0
学業成績・一般知識	8	4.4
出身学部・学科	0	0.0
その他	5	2.8

※「その他」の回答として、「語学力」「忍耐力」「PC操作力」などがあつた。



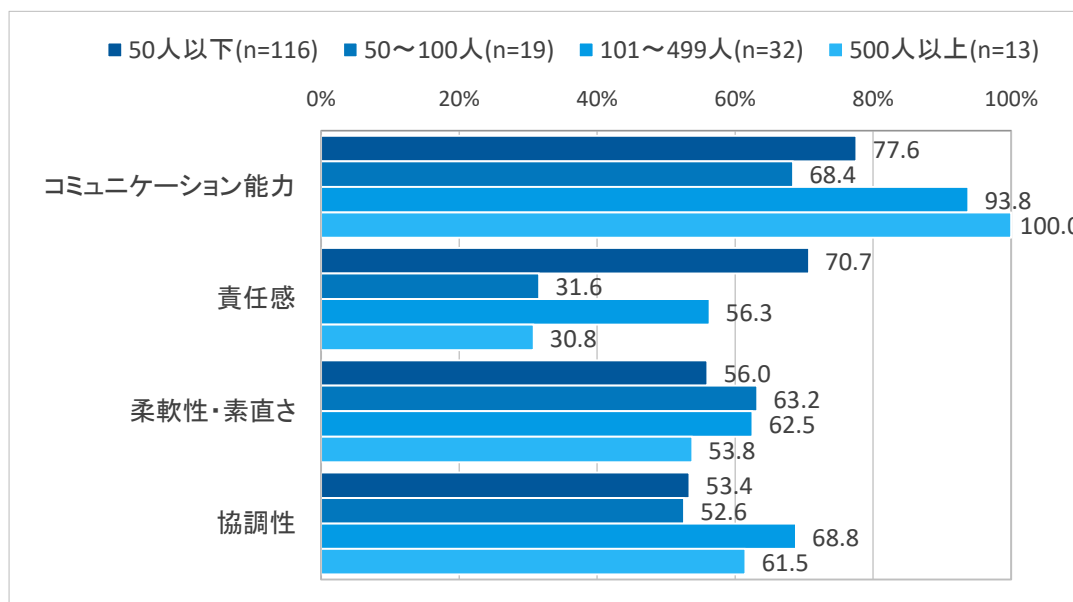


● クロス集計（従業員数・職員数別）

特に重視されている「コミュニケーション能力」「責任感」「柔軟性・素直さ」「協調性」を従業員数・職員数別にクロス集計すると、従業員数・職員数が増えるにつれ、「コミュニケーション能力」の割合が高くなる傾向にあった。また、50人以下の会社・団体では「責任感」の割合が約7割と高い。

		全体	コミュニケーション能力	責任感	柔軟性・素直さ	協調性
50人以下	件	116	90	82	65	62
	%	100.0	77.6	70.7	56.0	53.4
51～100人	件	19	13	6	12	10
	%	100.0	68.4	31.6	63.2	52.6
101～499人	件	32	30	18	20	22
	%	100.0	93.8	56.3	62.5	68.8
500人以上	件	13	13	4	7	8
	%	100.0	100.0	30.8	53.8	61.5

※上位4項目のみ抜粋。

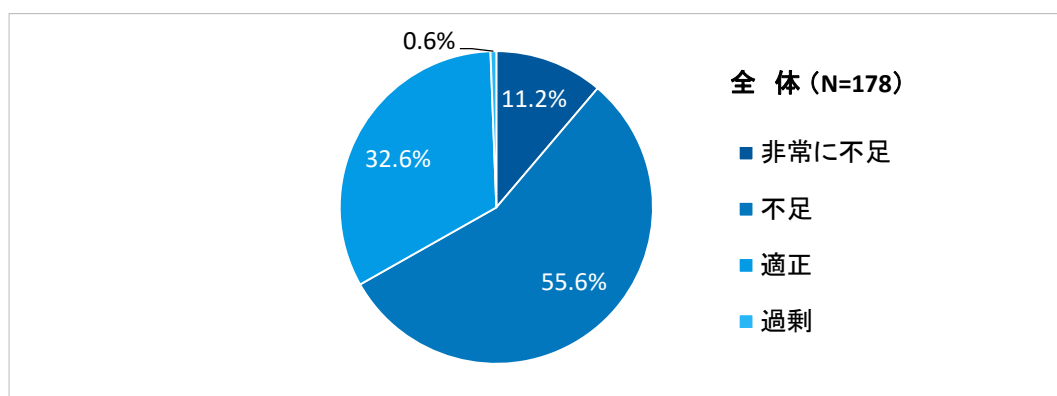


## (2) 現在の人材の過不足状況

人材の過不足状況としては「非常に不足」が11.2%、「不足」が55.6%であり、合わせると約7割弱にも上る。一方で、「過剰」が0.6%、「非常に過剰」は回答なしと、人材不足の現状が強く出る結果となった。

現在の人材の過不足状況をお答えください。（○は1つ）

	件数	%
全 体	178	100.0
非常に不足	20	11.2
不足	99	55.6
適正	58	32.6
過剰	1	0.6
非常に過剰	0	0.0



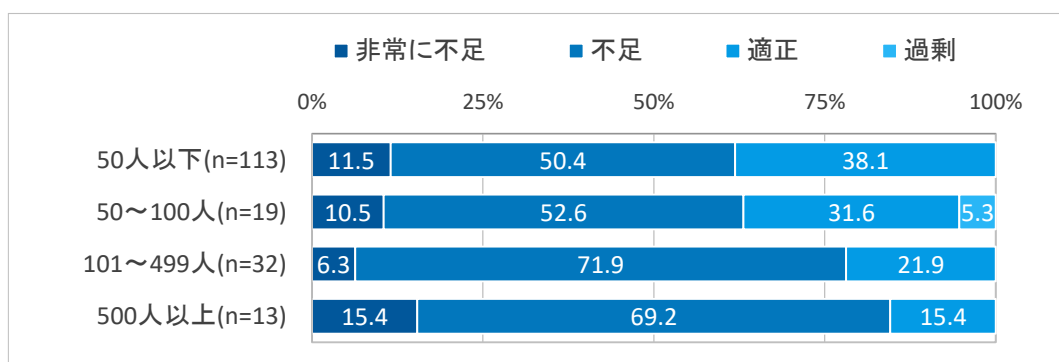
※「非常に過剰」は回答なしのため割愛。

● クロス集計（従業員数・職員数別、業種別）

従業員数・職員数規模が大きくなるにつれ、「非常に不足」+「不足」の割合が高くなる傾向にある。

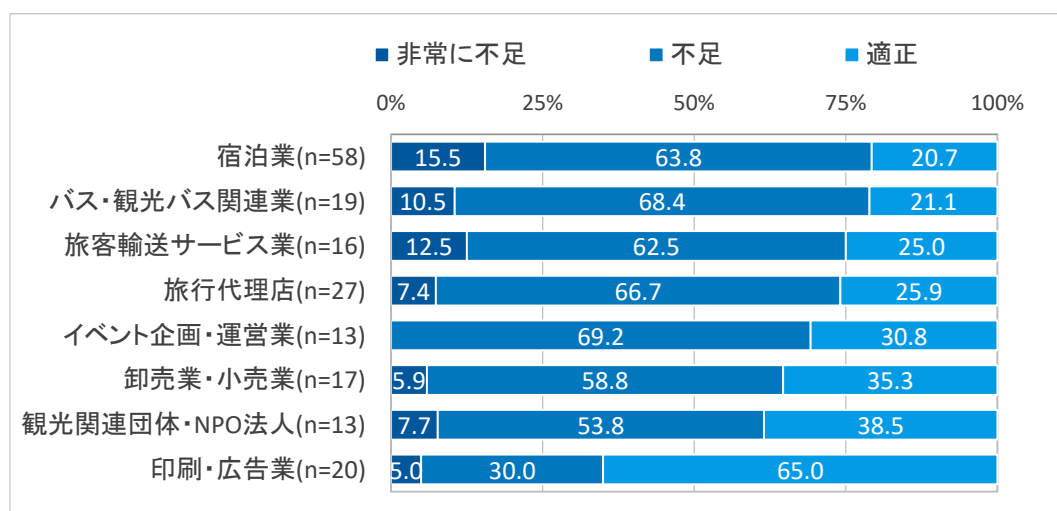
		全 体	非 常 に 不 足	不 足	適 正	過 剰	
従業員数・職員数別	50人以下	件	113	13	57	43	0
		%	100.0	11.5	50.4	38.1	0.0
	51～100人	件	19	2	10	6	1
		%	100.0	10.5	52.6	31.6	5.3
	101～499人	件	32	2	23	7	0
		%	100.0	6.3	71.9	21.9	0.0
	500人以上	件	13	2	9	2	0
		%	100.0	15.4	69.2	15.4	0.0
業種別	宿泊業	件	58	9	37	12	0
		%	100.0	15.5	63.8	20.7	0.0
	旅行代理店	件	27	2	18	7	0
		%	100.0	7.4	66.7	25.9	0.0
	印刷・広告業	件	20	1	6	13	0
		%	100.0	5.0	30.0	65.0	0.0
	バス・観光バス関連業	件	19	2	13	4	0
		%	100.0	10.5	68.4	21.1	0.0
	卸売業・小売業	件	17	1	10	6	0
		%	100.0	5.9	58.8	35.3	0.0
旅客輸送サービス業	件	16	2	10	4	0	
	%	100.0	12.5	62.5	25.0	0.0	
イベント企画・運営業	件	13	0	9	4	0	
	%	100.0	0.0	69.2	30.8	0.0	
観光関連団体・NPO法人	件	13	1	7	5	0	
	%	100.0	7.7	53.8	38.5	0.0	

※「非常に過剰」は回答なしのため割愛。また、業種別は母数が10以上の業種のみ掲載。業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。



業種別での「非常に不足」「不足」の合計値を降順に並び替えたところ、その値が高いのは、宿泊業とバス・観光バス関連業で、約8割。

一方、その値が最も低いのは、印刷・広告業で35.0%。「適正」が65.0%であった。

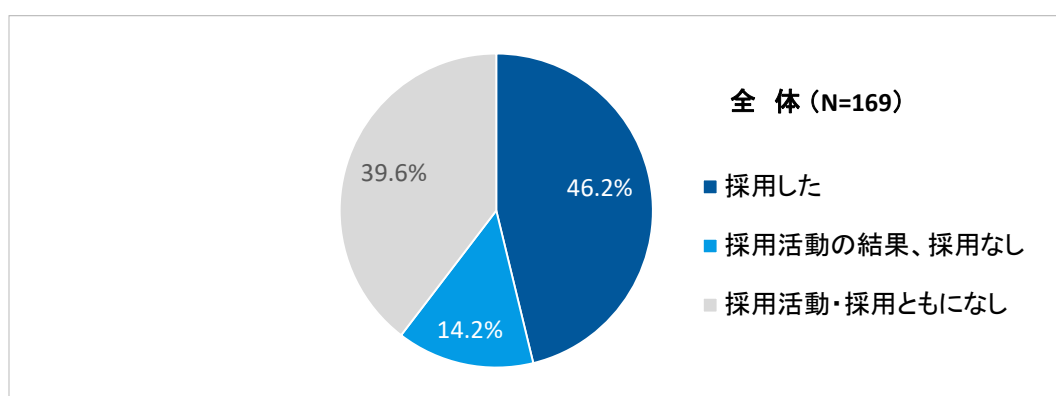


### (3) 直近（2019年4月）の新卒採用状況

直近の結果として2019年4月の新卒採用状況について尋ねたところ、約半数が「採用した」との回答だった。しかし一方で「採用活動・採用ともになし」も約4割であり、新卒採用については二分化している模様。

直近（2019年4月）の新卒採用の状況についてお答えください。  
(○は1つ)

	件数	%
全 体	169	100.0
採用した	78	46.2
採用活動の結果、採用なし	24	14.2
採用活動・採用ともになし	67	39.6



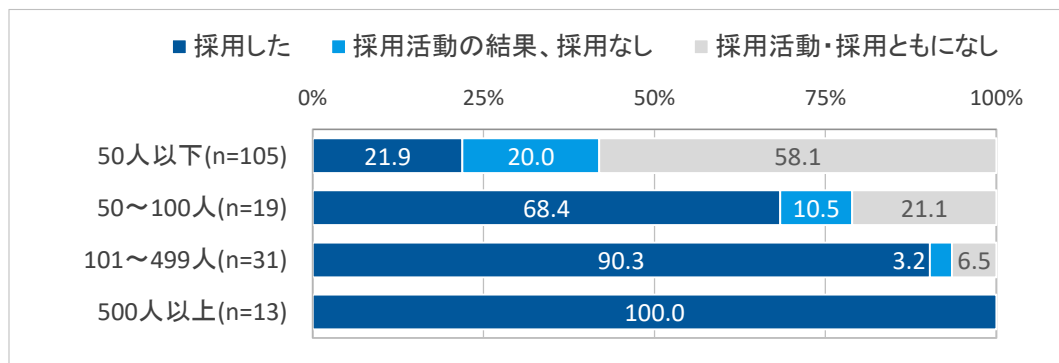
● クロス集計（従業員数・職員数別、業種別）

従業員数・職員数規模が大きくなるにつれ、「採用した」割合が高くなる。

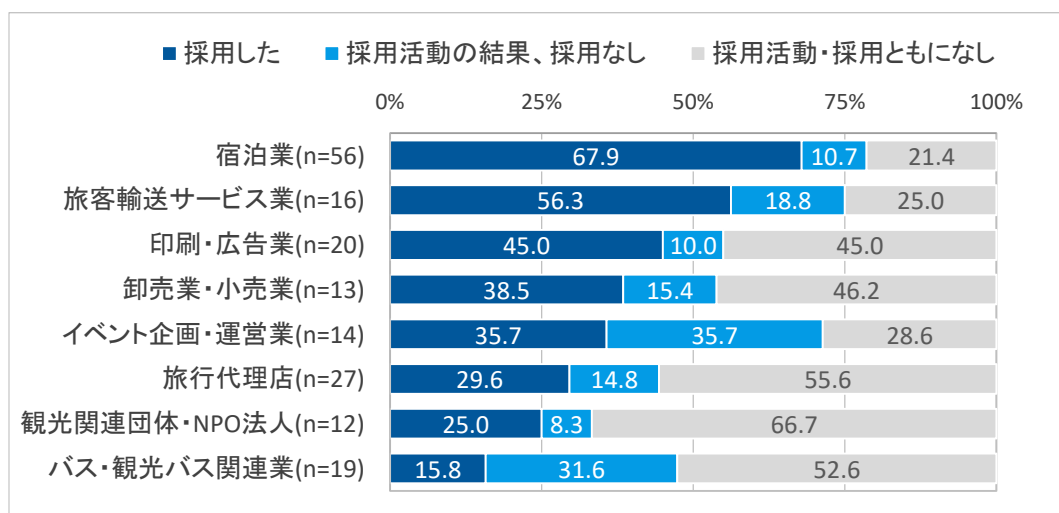
50 人以下では、「採用活動の結果、採用なし」が 2 割、「採用活動・採用ともになし」が約 6 割だった。

		全 体	採 用 し た	採 用 活 動 の 結 果 、 採 用 な し	採 用 活 動 ・ 採 用 と も に な し
従業員数・職員数別	50 人以下	件 105	23	21	61
		% 100.0	21.9	20.0	58.1
	51～100 人	件 19	13	2	4
		% 100.0	68.4	10.5	21.1
	101～499 人	件 31	28	1	2
		% 100.0	90.3	3.2	6.5
	500 人以上	件 13	13	0	0
		% 100.0	100.0	0.0	0.0
業種別	宿泊業	件 56	38	6	12
		% 100.0	67.9	10.7	21.4
	旅行代理店	件 27	8	4	15
		% 100.0	29.6	14.8	55.6
	印刷・広告業	件 20	9	2	9
		% 100.0	45.0	10.0	45.0
	バス・観光バス関連業	件 19	3	6	10
		% 100.0	15.8	31.6	52.6
	旅客輸送サービス業	件 16	9	3	4
	% 100.0	56.3	18.8	25.0	
イベント企画・運営業	件 14	5	5	4	
	% 100.0	35.7	35.7	28.6	
卸売業・小売業	件 13	5	2	6	
	% 100.0	38.5	15.4	46.2	
観光関連団体・NPO 法人	件 12	3	1	8	
	% 100.0	25.0	8.3	66.7	

※業種別は母数が 10 以上の業種のみ掲載。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。



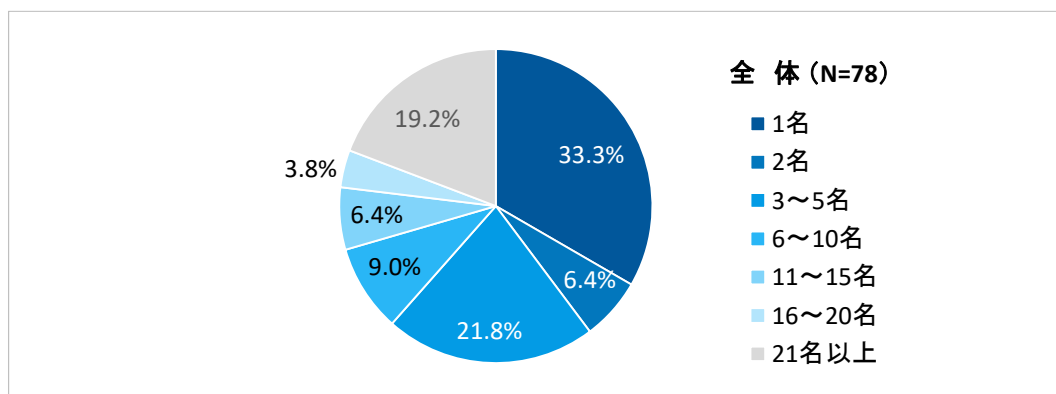
業種別で「採用した」割合を降順に並び替えたところ、規模の大きな宿泊業で「採用した」割合が高く、約7割。次に高いのは旅客輸送サービス業であった。また、イベント企画・運営業とバス・観光バス関連業では「採用活動の結果、採用なし」が高く、3割以上。



(4) 直近（2019年4月）の新卒採用人数（採用した会社・団体のみ）

前問で2019年4月に新卒者を採用したと回答した78の会社・団体に対し、採用人数を尋ねた。すると、3割超が「1名」と回答。次が「3～5名」で21.8%。一方で「100名以上」との回答もあり、平均値は20.4人、中央値は3人となった。

直近（2019年4月）の新卒採用人数についてお答えください。		件数	%	
全 体		78	100.0	平均値
1名		26	33.3	20.4人
2名		5	6.4	
3～5名		17	21.8	中央値
6～10名		7	9.0	3人
11～15名		5	6.4	
16～20名		3	3.8	
21～25名		2	2.6	
26～30名		2	2.6	
31～50名		3	3.8	
51～100名		4	5.1	
100名以上		4	5.1	

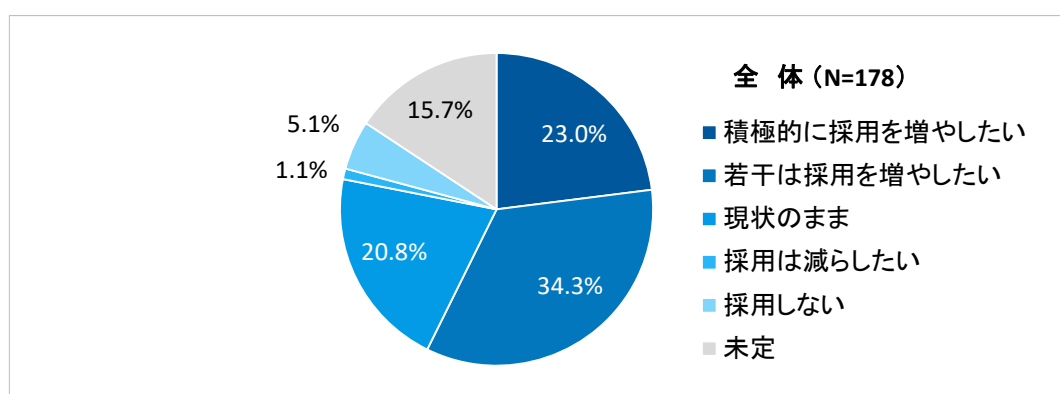




### (5) 今後の新卒採用計画

今後の新卒採用計画で最も高いのは「若干は採用を増やしたい」で、34.3%。次が「積極的に採用を増やしたい」23.0%。この結果から、約6割の企業・団体が新卒採用人数を増やす意向であることがわかる。一方、「採用は減らしたい」「採用しない」は合わせて6.2%にとどまった。

今後の新卒採用の見通しについてお答えください。(〇は1つ)	件数	%
全 体	178	100.0
積極的に採用を増やしたい	41	23.0
若干は採用を増やしたい	61	34.3
現状のまま	37	20.8
採用は減らしたい	2	1.1
採用しない	9	5.1
未定	28	15.7

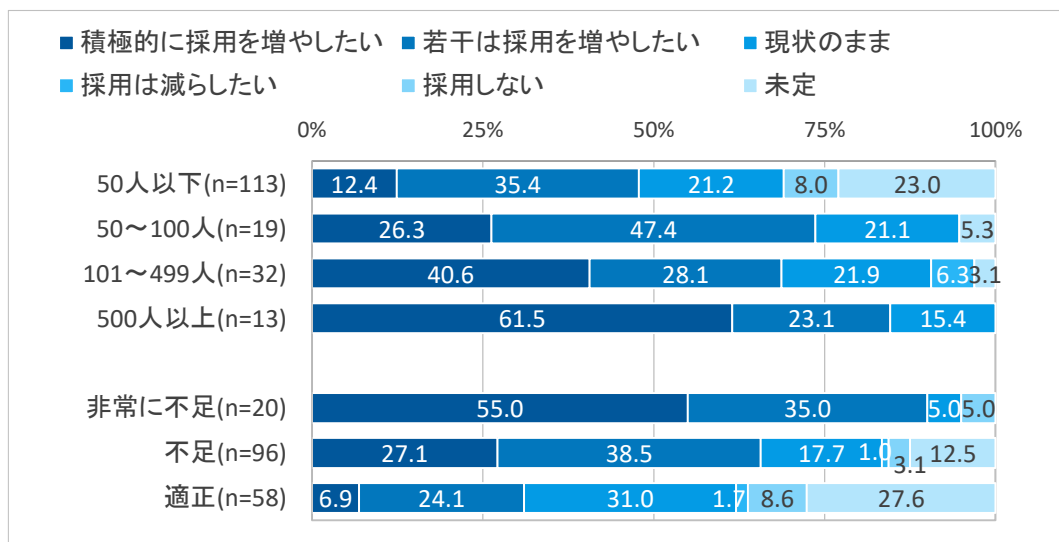


● クロス集計（従業員数・職員数別、人材不足状況別、業種別）

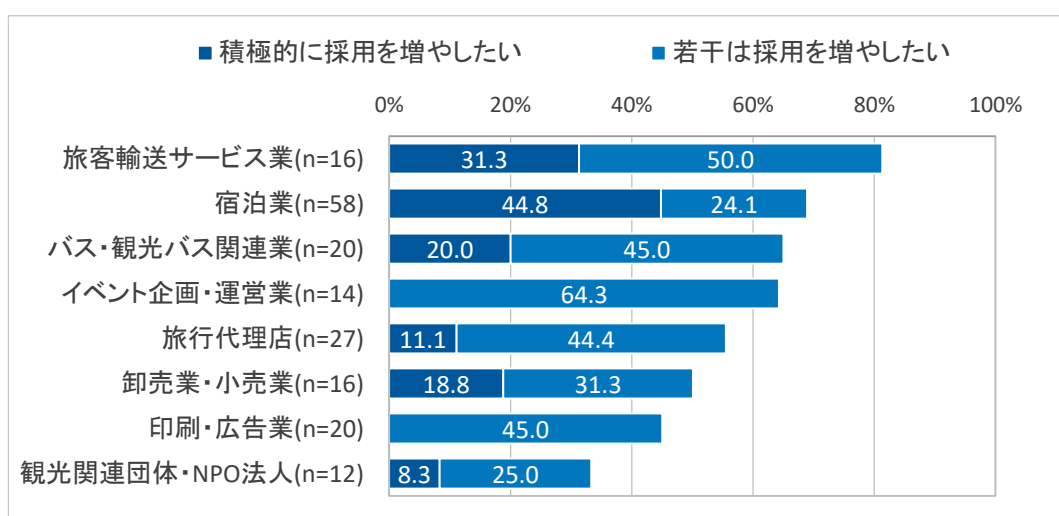
従業員数・職員数規模が大きくなるにつれ、「積極的に採用を増やしたい」割合が高くなる。また、人材不足状況別にみると、非常に不足と回答した会社・団体において採用を増やす意向が特に高く、9割に上る。また、人材不足状況が適正と回答した会社・団体においても、約3割は採用を増やす意向であることがわかる。

			全 体	積 極 的 に 採 用 を 増 や し た い	若 干 は 採 用 を 増 や し た い	現 状 の ま ま	採 用 は 減 ら し た い	採 用 し な い	未 定
従業員数・職員数別	50人以下	件	113	14	40	24	0	9	26
		%	100.0	12.4	35.4	21.2	0.0	8.0	23.0
	51～100人	件	19	5	9	4	0	0	1
		%	100.0	26.3	47.4	21.1	0.0	0.0	5.3
	101～499人	件	32	13	9	7	2	0	1
		%	100.0	40.6	28.1	21.9	6.3	0.0	3.1
	500人以上	件	13	8	3	2	0	0	0
		%	100.0	61.5	23.1	15.4	0.0	0.0	0.0
人材不足状況別	非常に不足	件	20	11	7	1	0	1	0
		%	100.0	55.0	35.0	5.0	0.0	5.0	0.0
	不足	件	96	26	37	17	1	3	12
		%	100.0	27.1	38.5	17.7	1.0	3.1	12.5
	適正	件	58	4	14	18	1	5	16
		%	100.0	6.9	24.1	31.0	1.7	8.6	27.6
業種別	宿泊業	件	58	26	14	10	2	2	4
		%	100.0	44.8	24.1	17.2	3.4	3.4	6.9
	旅行代理店	件	27	3	12	3	0	4	5
		%	100.0	11.1	44.4	11.1	0.0	14.8	18.5
	バス・観光バス 関連業	件	20	4	9	2	0	1	4
		%	100.0	20.0	45.0	10.0	0.0	5.0	20.0
	印刷・広告業	件	20	0	9	8	0	0	3
		%	100.0	0.0	45.0	40.0	0.0	0.0	15.0
	旅客輸送 サービス業	件	16	5	8	2	0	0	1
		%	100.0	31.3	50.0	12.5	0.0	0.0	6.3
卸売業・小売業	件	16	3	5	4	0	0	4	
	%	100.0	18.8	31.3	25.0	0.0	0.0	25.0	
イベント企画・ 運営業	件	14	0	9	1	0	1	3	
	%	100.0	0.0	64.3	7.1	0.0	7.1	21.4	
観光関連団体・ NPO法人	件	12	1	3	2	0	1	5	
	%	100.0	8.3	25.0	16.7	0.0	8.3	41.7	

※人材不足状況別、業種別は母数が10以上の業種のみ掲載。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。



業種別で「積極的に採用を増やしたい」「若干は採用を増やしたい」の合計値を降順に並び替えたところ、旅客輸送サービス業で特に高く、8割超。また、宿泊業では「積極的に採用を増やしたい」割合が特に高く、44.8%に上った。

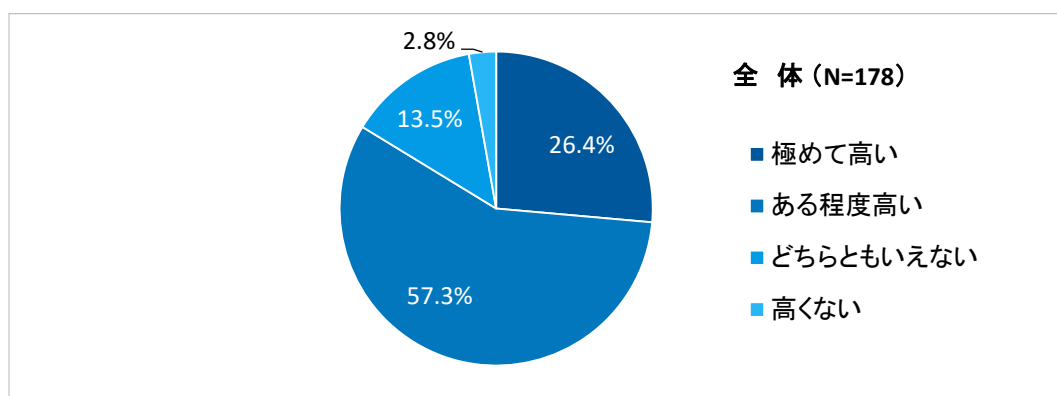


## 4. 本学 観光振興学科（仮称）について

### (1) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ

本学で計画中の観光振興学科（仮称）が養成する人材について、「極めて高い」との回答が26.4%、「ある程度高い」が57.3%。8割以上の会社・団体が、本学の社会的ニーズが高いとする結果となった。

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。（○は1つ）	件数	%
全 体	178	100.0
極めて高い	47	26.4
ある程度高い	102	57.3
どちらともいえない	24	13.5
高くない	5	2.8

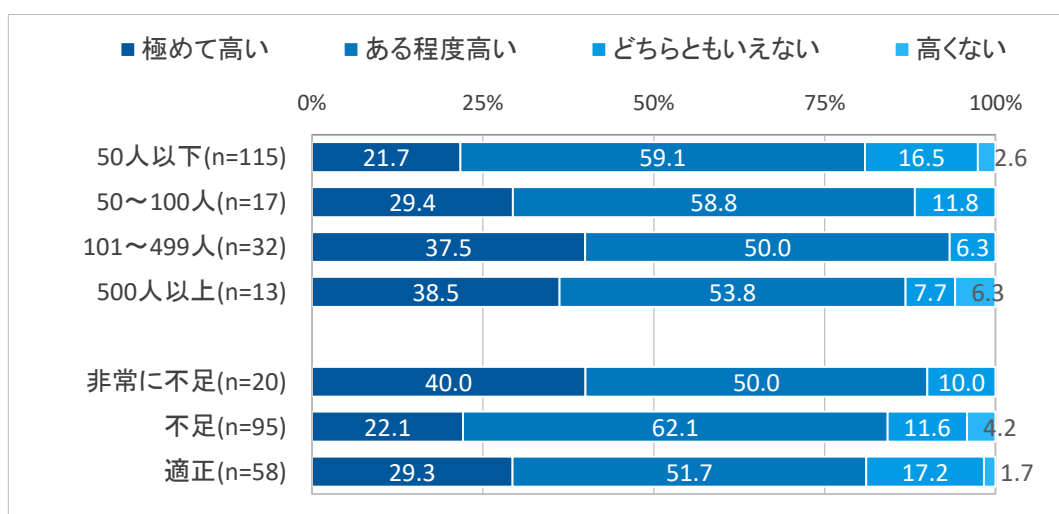


● クロス集計（従業員数・職員数別、人材不足状況別、業種別）

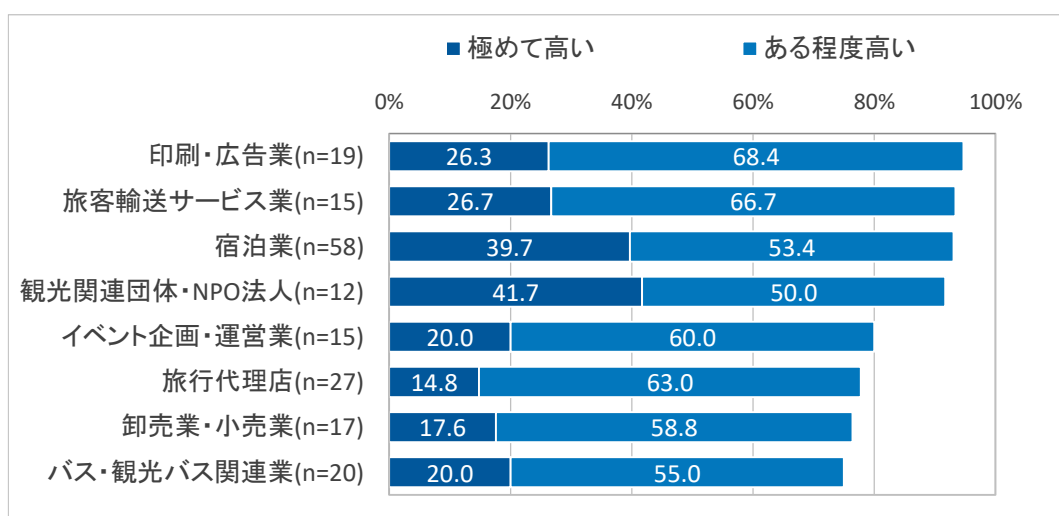
従業員数・職員数規模にかかわらず、ニーズが高いとの回答が8割以上。また、人材不足状況が適正との企業・団体においても、ニーズが高いとの割合が約8割だった。

			全 体	極 め て 高 い	い あ る 程 度 高 い	い ど ち ら も い え な い	高 く な い
従業員数・職員数別	50人以下	件	115	25	68	19	3
		%	100.0	21.7	59.1	16.5	2.6
	51～100人	件	17	5	10	2	0
		%	100.0	29.4	58.8	11.8	0.0
	101～499人	件	32	12	16	2	2
		%	100.0	37.5	50.0	6.3	6.3
	500人以上	件	13	5	7	1	0
		%	100.0	38.5	53.8	7.7	0.0
人材不足状況別	非常に不足	件	20	8	10	2	0
		%	100.0	40.0	50.0	10.0	0.0
	不足	件	95	21	59	11	4
		%	100.0	22.1	62.1	11.6	4.2
	適正	件	58	17	30	10	1
		%	100.0	29.3	51.7	17.2	1.7
業種別	宿泊業	件	58	23	31	4	0
		%	100.0	39.7	53.4	6.9	0.0
	旅行代理店	件	27	4	17	4	2
		%	100.0	14.8	63.0	14.8	7.4
	バス・観光バス 関連業	件	20	4	11	4	1
		%	100.0	20.0	55.0	20.0	5.0
	印刷・広告業	件	19	5	13	1	0
		%	100.0	26.3	68.4	5.3	0.0
	卸売業・小売業	件	17	3	10	4	0
		%	100.0	17.6	58.8	23.5	0.0
	旅客輸送サービス業	件	15	4	10	1	0
		%	100.0	26.7	66.7	6.7	0.0
イベント企画・ 運営業	件	15	3	9	3	0	
	%	100.0	20.0	60.0	20.0	0.0	
観光関連団体・ NPO法人	件	12	5	6	1	0	
	%	100.0	41.7	50.0	8.3	0.0	

※人材不足状況別、業種別は母数が10以上の業種のみ掲載。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。



業種別に「極めて高い」「ある程度高い」の合計値を降順に並び替えたところ、どの業種でも75%を超えた。中でも印刷・広告業、旅客輸送サービス業、宿泊業、観光関連団体・NPO法人で特に高く、9割以上だった。

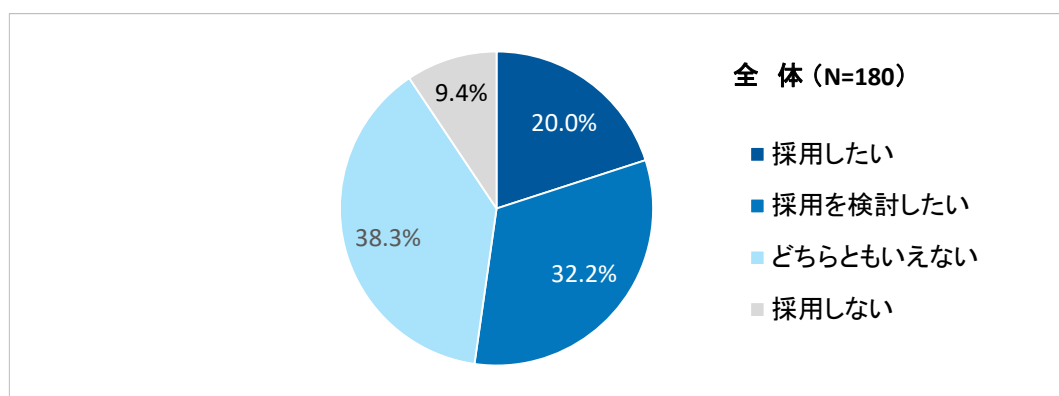


## (2) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用意向

観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用意向について、「採用したい」が2割、「採用を検討したい」が3割強との結果。5割以上の会社・団体において、本学で養成した人材の採用に前向きであることがわかる。

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。（○は1つ）

	件数	%
全 体	180	100.0
採用したい	36	20.0
採用を検討したい	58	32.2
どちらともいえない	69	38.3
採用しない	17	9.4



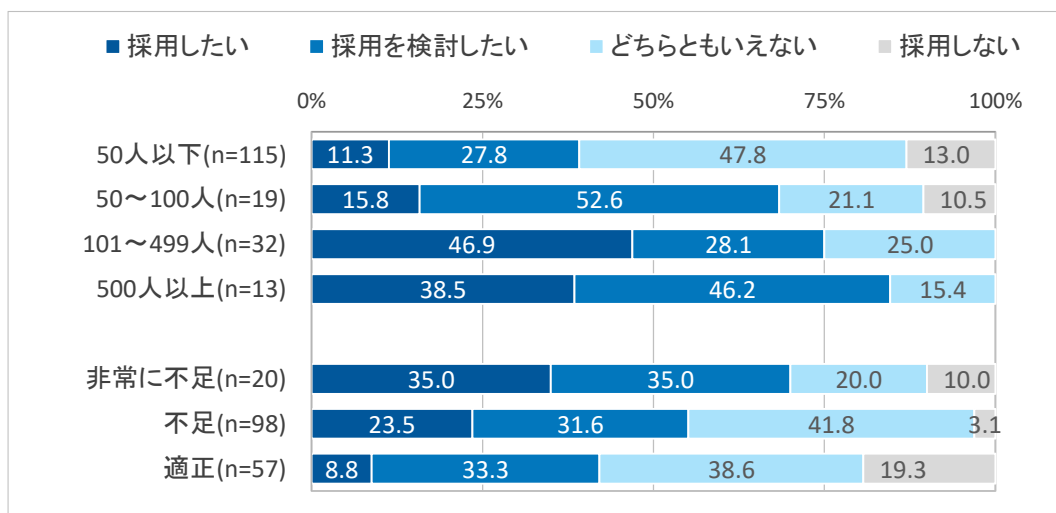
● クロス集計（従業員数・職員数別、人材不足状況別、業種別）

従業員数・職員数規模が大きくなるほど、また人材が不足しているほど、「採用したい」割合が高くなる傾向がみられた。

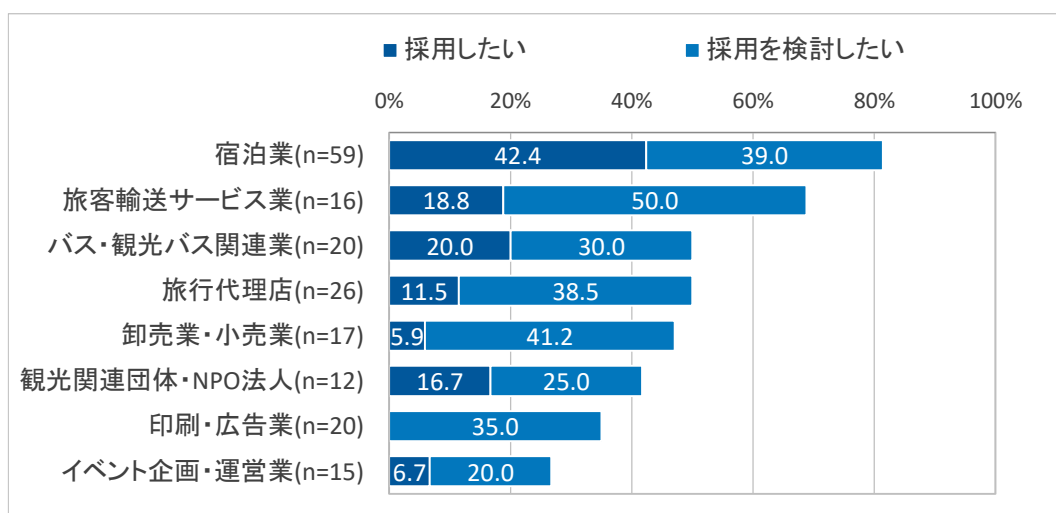
			全 体	採 用 し た い	採 用 を 検 討 し た い	ど ち ら と も い え な い	採 用 し な い
従業員数・職員数別	50人以下	件	115	13	32	55	15
		%	100.0	11.3	27.8	47.8	13.0
	51～100人	件	19	3	10	4	2
		%	100.0	15.8	52.6	21.1	10.5
	101～499人	件	32	15	9	8	0
		%	100.0	46.9	28.1	25.0	0.0
	500人以上	件	13	5	6	2	0
		%	100.0	38.5	46.2	15.4	0.0
人材不足状況別	非常に不足	件	20	7	7	4	2
		%	100.0	35.0	35.0	20.0	10.0
	不足	件	98	23	31	41	3
		%	100.0	23.5	31.6	41.8	3.1
	適正	件	57	5	19	22	11
		%	100.0	8.8	33.3	38.6	19.3
業種別	宿泊業	件	59	25	23	10	1
		%	100.0	42.4	39.0	16.9	1.7
	旅行代理店	件	26	3	10	11	2
		%	100.0	11.5	38.5	42.3	7.7
	バス・観光バス関連業	件	20	4	6	9	1
		%	100.0	20.0	30.0	45.0	5.0
	印刷・広告業	件	20	0	7	9	4
		%	100.0	0.0	35.0	45.0	20.0
	卸売業・小売業	件	17	1	7	8	1
		%	100.0	5.9	41.2	47.1	5.9
	旅客輸送サービス業	件	16	3	8	4	1
		%	100.0	18.8	50.0	25.0	6.3
	イベント企画・運営業	件	15	1	3	10	1
		%	100.0	6.7	20.0	66.7	6.7
観光関連団体・NPO法人	件	12	2	3	6	1	
	%	100.0	16.7	25.0	50.0	8.3	

※人材不足状況別、業種別は母数が10以上の業種のみ掲載。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。





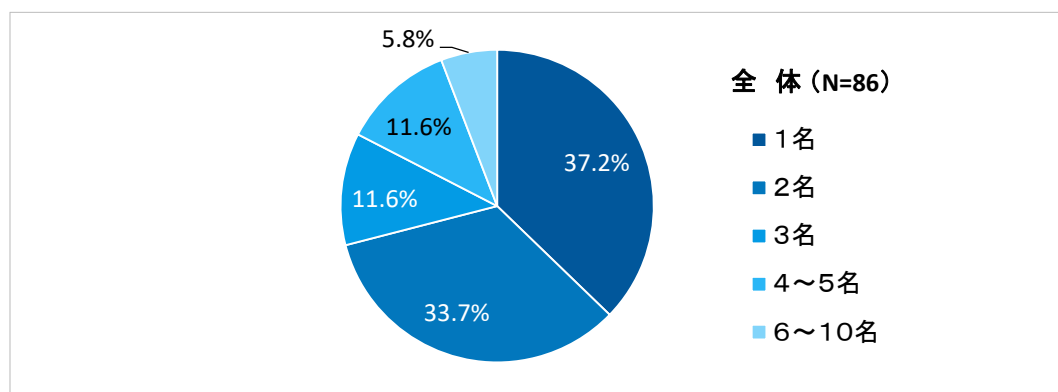
業種別で「採用したい」「採用を検討したい」の合計値を降順に並び替えたところ、宿泊業で採用意向が8割を超えた。次が旅客輸送サービス業で、約7割。



### (3) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用想定人数（採用希望・検討者）

前問で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した会社・団体に対し、採用する場合の想定人数を尋ねた。すると、「1名」が最も高く、37.2%、次が「2名」が33.7%であった。

前問で「採用したい」「採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で採用を想定いただける人数をご記入ください。		件数	%	
全 体		86	100.0	平均値
1名		32	37.2	2.5人
2名		29	33.7	
3名		10	11.6	中央値
4～5名		10	11.6	2人
6～10名		5	5.8	
11名以上		0	0.0	



※「11名以上」は回答なしのため割愛。

● クロス集計（従業員数・職員数別、業種別）

以下、参考までに従業員数・職員数と業種別クロス集計結果を示す。

			全 体	1 名	2 名	3 名	4 ～ 5 名	6 ～ 10 名
従業員数・職員数別	50人以下	件	43	22	13	4	3	1
		%	100.0	51.2	30.2	9.3	7.0	2.3
	51～100人	件	12	4	6	0	2	0
		%	100.0	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0
	101～499人	件	23	4	10	4	2	3
		%	100.0	17.4	43.5	17.4	8.7	13.0
	500人以上	件	7	2	0	2	2	1
		%	100.0	28.6	0.0	28.6	28.6	14.3
業種別	宿泊業	件	44	12	17	5	6	4
		%	100.0	27.3	38.6	11.4	13.6	9.1
	旅行代理店	件	12	6	2	3	1	0
		%	100.0	50.0	16.7	25.0	8.3	0.0
	旅客輸送 サービス業	件	8	3	2	1	2	0
		%	100.0	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0
	バス・観光バス 関連業	件	8	5	2	1	0	0
		%	100.0	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0
	卸売業・小売業	件	7	1	5	0	1	0
		%	100.0	14.3	71.4	0.0	14.3	0.0
	観光関連団体・ NPO法人	件	5	3	2	0	0	0
		%	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	印刷・広告業	件	5	3	2	0	0	0
		%	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	イベント企画・ 運営業	件	4	2	2	0	0	0
		%	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	不動産業	件	3	0	2	0	1	0
		%	100.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0
	鉄道業	件	1	0	0	0	0	1
		%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
放送業	件	0	0	0	0	0	0	
	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	件	13	6	2	2	2	1	
	%	100.0	46.2	15.4	15.4	15.4	7.7	

※「非常に過剰」は回答なしのため割愛。また業種は複数回答可のため、他の選択肢を回答している場合がある。

#### (4) 本学への意見・要望

本学の開校に期待する声が多く寄せられた。以下、一覧にて記載する。

本学にご意見、ご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。(自由回答)

・香川県における「瀬戸内芸術祭」のイベントが世界的にも注目されている現状で、観光に特化した学校が地元を開学するのは望ましく、ぜひ香川出身の学生が増えていくことを願っている。
・是非とも地元で活躍できる人材の育成をお願いしたい。
・当社は観光の島、小豆島にあるため、専門性の高い観光振興学科で養成された人材は即戦力として期待している。
・四国において観光専門の学校設立を大いに期待している。観光、特に宿泊業界は人員・人材不足の為、観光学を学んだ実践力のある人を輩出してほしい。
・四国にはこうした特色ある大学はないと思うので独自性と先見性に期待している。重要なのは「志」のある優秀な人材が集中するかどうか。
・穴吹グループからの採用実績もあり、期待している。
・人口が減少する中、瀬戸内エリアの観光業は今後も伸びる見込みがあり、この分野に特化した人材は今後必要とする企業が増えると思う。
・観光立国推進していく過程において、観光業にたずさわる人材の育成は必要不可欠であり、専門性の高い人材の発掘養成は今後その重要度が必ず高くなると考える。
・四国を盛り上げたいという意識のある方、想いのある方を輩出してほしい。
・高いレベルでの観光・サービス産業に従事する人材育成を期待する。
・四国内各地の観光地での研修などを通じ、四国内の観光地に精通する人材を育ててほしい。
・我々宿泊業は、お客様からは華やかに見えますが、その実「準備・段取り」期間の方が長い。その現実をしっかりと理解した上で希望してくれる人材を期待している。
・学歴などよりはやる気が一番だと思う。失敗を生かして人間的に大きくなれる方が企業にとっては宝となる。
・開校を心待ちにしている。学びと実践で、バランスのとれた教育を受けた学年に大いに期待。
・授業の中に、小豆島の観光についてを是非入れてほしい。
・学校で学ぶことを現場での実践力に生かせるかが重要な課題と思う。
・外国人ゲストの増加に伴い、スタッフの語学力が必須となりつつある。学生様の語学力への取り組み、また留学生の受け入れ(ならびに日本語力向上)に注力いただきたい。
・外国語能力が求められます。
・外国人観光客の伸びは順調で、今後もオリンピック、カジノなど大型な行事や施設が増え、ますます日本インバウンドは伸びると予定される。(外国語の勉強も取り入れるとなおよいと思う。)

(5) まとめ

全 182 社・団体のうち、観光振興学科（仮称）卒業生を「採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは 94 社・団体。各社・団体の採用想定人数から学科全体の最低採用想定人数（見込み）を算出すると 217 名以上となる。

採用意向あり（社・団体数）	94 件
---------------	------



地域観光学科	
採用想定人数 1 名以上（社・団体数）	無回答
86 件	8 件



想定人数	回答件数（社・団体数）
1 名	32 件
2 名	29 件
3 名	10 件
4 名	3 件
5 名	7 件
10 名	5 件



※回答のない想定人数は掲載していない。

最低採用想定人数	217 名
----------	-------

## 5. 設問票

### せとうち観光専門職短期大学 観光事業学科 (3年制/仮称・設置構想中) 設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査

お手数ですが、ご回答後、下記までFAXでお送りください。

**FAX送信先：06-6399-0666** (株式会社日本ドコモ 関西支社 担当：金)

選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお訊ねします。

Q 1. 所在する都道府県（主たる事業所・本社等）をお答えください。

( ) 都・道・府・県

Q 2. 業種をお答えください。(複数回答可)

- |               |               |                 |            |
|---------------|---------------|-----------------|------------|
| 1. 宿泊業        | 2. 旅行代理店      | 3. 旅客輸送サービス業    | 4. 鉄道業     |
| 5. バス・観光バス関連業 | 6. イベント企画・運営業 | 7. 観光関連団体・NPO法人 | 8. 卸売業・小売業 |
| 9. 放送業        | 10. 印刷・広告業    | 11. 不動産業        | 12. その他( ) |

Q 3. 従業員数、職員数の規模をお答えください。(支店や支社を含めた数)

- |          |            |             |             |             |
|----------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 50人以下 | 2. 51～100人 | 3. 101～499人 | 4. 500～999人 | 5. 1,000人以上 |
|----------|------------|-------------|-------------|-------------|

Q 4. 新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。(複数回答可)

- |                |             |               |            |
|----------------|-------------|---------------|------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 思考力      | 3. 実践力        | 4. 協働力     |
| 5. ホスピタリティマインド | 6. 課題解決能力   | 7. 主体性        | 8. 協調性     |
| 9. 責任感         | 10. リーダーシップ | 11. 専門性       | 12. 成長力    |
| 13. 柔軟性・素直さ    | 14. 創造性     | 15. チャレンジ精神   | 16. ストレス耐性 |
| 17. 取得資格       | 18. 出身学部・学科 | 19. 学業成績・一般知識 | 20. その他( ) |

Q 5. 現在の人材の過不足状況をお答えください。

- |          |       |       |       |          |
|----------|-------|-------|-------|----------|
| 1. 非常に不足 | 2. 不足 | 3. 適正 | 4. 過剰 | 5. 非常に過剰 |
|----------|-------|-------|-------|----------|

Q 6. 2019年4月の新卒採用の状況、採用人数についてお答えください。

- |                    |                 |                 |
|--------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 採用した 人数 _____ 名 | 2. 採用活動の結果、採用なし | 3. 採用活動、採用ともになし |
|--------------------|-----------------|-----------------|

Q 7. 今後の新卒採用の見通しについてお答えください。

- |                 |                |          |
|-----------------|----------------|----------|
| 1. 積極的に採用を増やしたい | 2. 若干は採用を増やしたい | 3. 現状のまま |
| 4. 採用を減らしたい     | 5. 採用しない       | 6. 未定    |

以降の質問は、同封のせとうち観光専門職短期大学(仮称、以下本学という)のリーフレットをご覧ください。

Q 8. 本学の観光事業学科(仮称)が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。

- |          |           |         |              |
|----------|-----------|---------|--------------|
| 1. 極めて高い | 2. ある程度高い | 3. 高くない | 4. どちらともいえない |
|----------|-----------|---------|--------------|

Q 9. 本学の観光事業学科(仮称)が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。

- |          |             |              |          |
|----------|-------------|--------------|----------|
| 1. 採用したい | 2. 採用を検討したい | 3. どちらとも言えない | 4. 採用しない |
|----------|-------------|--------------|----------|

Q 10. Q9で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で想定いただける採用人数をご記入ください。

\_\_\_\_\_ 名

Q 11. 本学にご意見やご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。



学長(就任予定)  
青木 義英

1972年日本航空(株)入社。宮崎支店長、マドリード支店長等として活躍。その後、鈴鹿国際大学国際人間科学部特任教授、和歌山大学観光学部客員教授を経て、2021年4月よりせとうち観光専門職短期大学(仮称)の学長に就任予定。

■所属学会

- ・観光学術学会 理事 副会長
- ・国際観光学会
- ・日本民俗学会
- ・日本クルーズ&フェリー学会

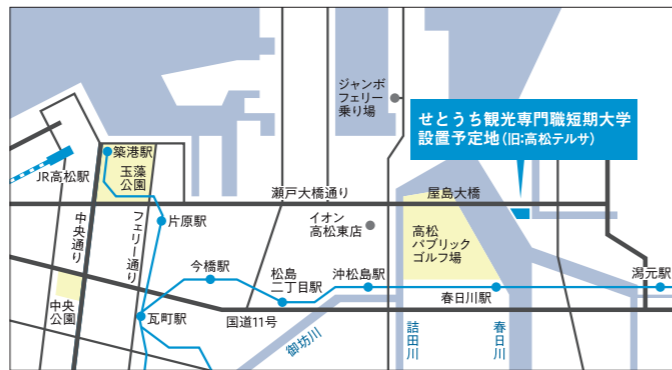
■社会活動等

- ・(公社)大阪タクシーセンター  
「国際観光タクシー創設検討委員会」委員長

校舎設置予定場所



車での通学可  
敷地内駐車場あり  
(約230台収容可能)



- JR高松駅/ことでん高松築港駅から路線バスで約20分  
高松駅バスターミナル(7番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ
- ことでん瓦町駅から路線バスで約30分  
ことでん瓦町駅バスターミナル(6番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ

住所 〒761-0113 香川県高松市屋島西町2366-1(旧:高松テルサ)

せとうち観光専門職短期大学(仮称)に関するお問い合わせ先

学校法人穴吹学園 新学校種設置準備室

〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23

tel. (087) 823-2266

せとうち観光専門職短期大学 Webサイト

<http://www.seto.ac.jp/>

せとうち観光専門職短期大学(仮称)

2021年4月  
高松市に  
開学構想中

観光事業学科(仮称)

(3年制/定員80名)

瀬戸内まるごと  
キャンパス宣言



せとうち観光専門職短期大学(仮称)

2021年4月、香川県で新しい学校が開設を予定しています。それが「せとうち観光専門職短期大学」。  
せとうちで学び、日本で、世界で活躍できる観光人材を育成する学校です。  
でも、「専門職短期大学って、一体何?」「専門学校や、短期大学とは何が違うの?」と思っている方も多いのでは?  
専門職短期大学は、専門学校と大学、それぞれの良いところを取り入れて国が作った、全く新しい学校種。  
学びのポイントをご紹介します!

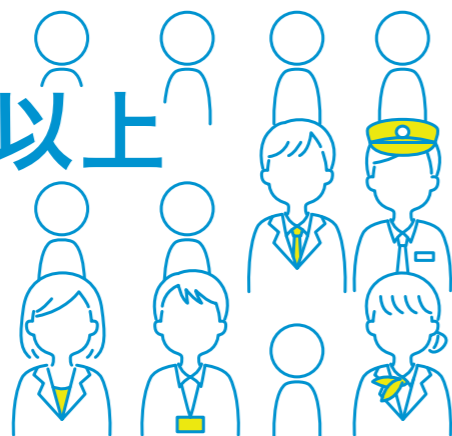
数字でわかる!

## 専門職短期大学とは?

実務家教員の割合

40%以上

実務家教員とは、実際にビジネスの現場で活躍してきた、実務の経験や能力を持つ先生のこと。専門職短期大学では、卒業後、即戦力となる知識・技術を身につけるために、こうした「実務家教員」を、専任教員数の40%以上配置することになっています。ビジネスの現場を知っている先生だからこそ受けられる、現場に即した指導や就職サポートが魅力です。



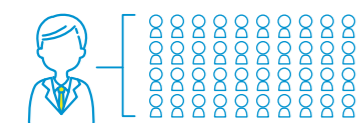
新しい学校種の誕生は  
55年ぶり



実習を中心とした専門学校の学びと、講義を中心とした大学・短期大学の学び、それぞれのメリットを掛け合わせ、新たに誕生したのが「専門職大学(短期大学)」。55年ぶりに生まれた新しい学校種として、今注目を集めています。

卒業まで  
2年または3年

専門職短期大学は2年制または3年制。卒業すると、「短期大学士(専門職)」の学位を取得できます。



原則40人以下  
の少人数授業

教員の目が行き届く少人数制授業で、一人ひとりにきめ細かな指導を実現。現場経験豊富な実務家教員と、理論に精通した教員それぞれから指導を受けることで、多角的な視点が身につきます。

実習・実技時間は  
授業全体の

1/3程度

専門職短期大学では、学んだ知識を現場で使ってみる「理論と実践」のサイクルを大切にしています。このため、学校内外での実習を充実。挑戦と失敗を繰り返しながら学ぶことで、即戦力となる人材をめざします。



知ってた?

## 世界から見た「せとうち」の実力。

香川県の訪日観光客数の  
対前年伸び率が、  
なんと  
日本国内で1位

※国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査報告」(2017年6月発表)

2016年1月~12月における、香川県の訪日観光客による対前年宿泊者数伸び率は70.3%(のべ宿泊者数358,360名)。アジアの空港から高松空港への直行便が増えたこともあり、台湾や中国をはじめ、アジア圏を中心に飛躍的に増加しました。

世界の旅行市場に影響をもつ6つの海外旅行メディアにおいて「SETOUCHI」が注目のデスティネーションとして選ばれました。今後、「SETOUCHI」への欧米市場における関心の高まりが期待されています。

海外メディアも注目!  
島々によって作られる  
眺望が魅力の  
“SETOUCHI”

はじまるよ!

## 2021年4月 せとうち観光専門職短期大学(仮称)

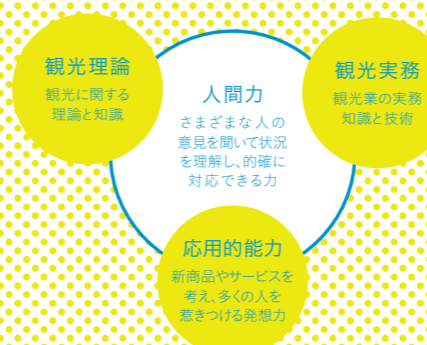
世界中から注目される「せとうち」。

でも、その魅力を広くアピールできる人材や、次の観光人材を引っ張っていくリーダーの育成など、まだまだ課題がたくさん残されています。

せとうち観光専門職短期大学は、「せとうち」をキャンパスにして、観光事業を「観光産業」「観光地域創生」などの領域から学び、瀬戸内だけでなく、日本中・世界中で活躍できる観光人材を養成します!

「せとうち」で学び、観光をとことん追求。  
地域の発展と人々の交流に貢献する「観光専門職」を養成

育てたい人物像



豊かな「人間力」を下地に、「観光の理論・知識」「観光実務の知識と技能」「新しいビジネスや商品、サービスを開発し、各地の観光ブランド化を推進できる応用的能力」を身につけます。

観光事業学科(仮称) 初年度納入金 2021年度(予定)1,150,000円(授業料等別添)

「あなたは、何になりたい?」

“なりたい職業”からつくる、「学びのプログラム」

「人と話すことが好き!」「自分のアイデアで人を楽しませたい!」という人にピッタリな観光のお仕事。飛行機や鉄道のスタッフやホテルスタッフ、ツアープランナーなど、「なりたい職業」から自分のための「学びのプログラム」を作成しよう!

めざせる職業

- ・航空旅客スタッフ
- ・ツアープランナー
- ・観光施設のスタッフ
- ・鉄道会社スタッフ
- ・旅行会社スタッフ
- ・伝統産業のスタッフ
- ・ホテルスタッフ
- ・観光関連団体
- ・観光ガイド
- ・NPO等の職員
- ・起業
- 等



**学校法人穴吹学園  
せとうち観光専門職短期大学  
観光振興学科(仮称)  
受容性調査結果報告書  
【企業】**

**株式会社日本ドリコム  
2020年2月**

## 1. 調査概要

### (1) 調査対象・方法・回収状況

企業・団体 700 社へ郵送もしくは持参でアンケート調査を実施し、261 件の回収があった（回収率 37.3%）。

## 2. 調査結果

### (1) 業種

業種をお答えください。（〇はいくつでも）

	件数	%
全 体	261	-
宿泊業	100	38.3
旅行代理店	44	16.9
バス・観光バス関連業	37	14.2
旅客輸送サービス業	22	8.4
卸売業・小売業	21	8.0
印刷・広告業	21	8.0
観光関連団体・NPO法人	20	7.7
イベント企画・運営業	18	6.9
放送業	9	3.4
不動産業	8	3.1
鉄道業	4	1.5
その他	36	13.8

※「その他」の回答として、「介護・福祉」「情報サービス」「飲食業」「運送業」「出版」「観光農園」「公園運営管理」などがあった。

### (2) 現在の人材の過不足状況

現在の人材の過不足状況をお答えください。（〇は1つ）

	件数	%
全 体	254	100.0
非常に不足	31	12.2
不足	139	54.7
適正	83	32.7
過剰	1	0.4
非常に過剰	0	0.0

**(3) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズ**

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。（〇は1つ）	件数	%
全 体	254	100.0
極めて高い	61	24.0
ある程度高い	150	59.1
どちらともいえない	36	14.2
高くない	7	2.8

**(4) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用意向**

本学の観光振興学科（仮称）」が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。（〇は1つ）	件数	%
全 体	258	100.0
採用したい	48	18.6
採用を検討したい	88	34.1
どちらともいえない	101	39.1
採用しない	21	8.1

**(5) 観光振興学科（仮称）が養成する人材の採用想定人数（採用希望・検討者）**

前問で「採用したい」「採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で採用を想定いただける人数をご記入ください。	件数	%
全 体	125	100.0
1名	50	40.0
2名	39	31.2
3名	15	12.0
4～5名	14	11.2
6～10名	7	5.6
11名以上	0	0.0

平均値
2.5人

中央値
2人

## (6) 本学への意見・要望

本学にご意見、ご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。(自由回答)

・香川県における「瀬戸内芸術祭」のイベントが世界的にも注目されている現状で、観光に特化した学校が地元を開学するのは望ましく、ぜひ香川出身の学生が増えていくことを願っている。
・是非とも地元で活躍できる人材の育成をお願いしたい。
・当社は観光の島、小豆島にあるため、専門性の高い観光振興学科で養成された人材は即戦力として期待している。
・四国において観光専門の学校設立を大いに期待している。観光、特に宿泊業界は人員・人材不足の為、観光学を学んだ実践力のある人を輩出してほしい。
・地方の人材不足が進む中、特にサービス業の人材不足は深刻だが、利用客は質の高いサービスと安い料金を求めてくる。このような業界において求められる人材は、見返りを求めないおもてなしの心を持ち、お客様の「ありがとう」の言葉で報われる、そんな基本を芯に持てる若者である。サービス業でのやりがいを伝え、そのような人材の輩出を心待ちにしている。
・四国にはこうした特色ある大学はないと思うので独自性と先見性に期待している。重要なのは「志」のある優秀な人材が集中するかどうか。
・穴吹グループからの採用実績もあり、期待している。
・人口が減少する中、瀬戸内エリアの観光業は今後も伸びる見込みがあり、この分野に特化した人材は今後必要とする企業が増えると思う。
・観光立国推進していく過程において、観光業にたずさわる人材の育成は必要不可欠であり、専門性の高い人材の発掘養成は今後その重要度が必ず高くなると考える。
・これからのインバウンド、高齢者のアウトバウンドに注視した対応、教育を期待している。
・四国を盛り上げたいという意識のある方、想いのある方を輩出してほしい。
・高いレベルでの観光・サービス産業に従事する人材育成を期待する。
・四国内各地の観光地での研修などを通じ、四国内の観光地に精通する人材を育ててほしい。
・我々宿泊業は、お客様からは華やかに見えますが、その実「準備・段取り」期間の方が長い。その現実をしっかりと理解した上で希望してくれる人材を期待している。
・学歴などよりはやる気が一番だと思う。失敗を生かして人間的に大きくなれる方が企業にとっては宝となる。
・開校を心待ちにしている。学びと実践で、バランスのとれた教育を受けた学年に大いに期待。
・授業の中に、小豆島の観光についてを是非入れてほしい。
・学校で学ぶことを現場での実践力に生かせるかが重要な課題と思う。
・実践力として働ける人が欲しい。
・職場体験の教育実習を積むことが必要だと思う。
・外国人ゲストの増加に伴い、スタッフの語学力が必須となりつつある。学生様の語学力への取り組み、また留学生の受け入れ(ならびに日本語力向上)に注力いただきたい。
・外国語能力が求められます。
・外国人観光客の伸びは順調で、今後もオリンピック、カジノなど大型な行事や施設が増え、ますます日本インバウンドは伸びると予定される。(外国語の勉強も取り入れるとなおよいと思う。)

(7) まとめ

有効回答 261 件のうち、観光振興学科（仮称）卒業生について「採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは 136 件。各社・団体の採用想定人数から学科全体の最低採用想定人数（見込み）を算出すると 309 名以上となる。

採用意向あり（社・団体数）	136 件
---------------	-------



観光振興学科（仮称）	
採用想定人数 1 名以上（社・団体数）	無回答
125 件	11 件



想定人数	回答件数（社・団体数）
1 名	50 件
2 名	39 件
3 名	15 件
4 名	4 件
5 名	10 件
10 名	7 件



※回答のない想定人数は掲載していない。

最低採用想定人数	309 名
----------	-------

### 3. 設問票

**せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科 (3年制/仮称・設置認可申請中)  
設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査**

お手数ですが、ご回答後、下記までFAXでお送りください。

**FAX送信先：06-6399-0666** (株式会社日本ドリコム 関西支社 担当：金)

**選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。**

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお訊ねします。

Q 1. 業種をお答えください。(複数回答可)

- |               |               |                 |            |
|---------------|---------------|-----------------|------------|
| 1. 宿泊業        | 2. 旅行代理店      | 3. 旅客輸送サービス業    | 4. 鉄道業     |
| 5. バス・観光バス関連業 | 6. イベント企画・運営業 | 7. 観光関連団体・NPO法人 | 8. 卸売業・小売業 |
| 9. 放送業        | 10. 印刷・広告業    | 11. 不動産業        | 12. その他( ) |

Q 2. 現在の人材の過不足状況をお答えください。

- |          |       |       |       |          |
|----------|-------|-------|-------|----------|
| 1. 非常に不足 | 2. 不足 | 3. 適正 | 4. 過剰 | 5. 非常に過剰 |
|----------|-------|-------|-------|----------|

以降の質問は、同封のせとうち観光専門職短期大学(仮称、以下本学という)のリーフレットをご覧くださいお答えください。

Q 3. 本学の観光振興学科(仮称)が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。

- |          |           |         |              |
|----------|-----------|---------|--------------|
| 1. 極めて高い | 2. ある程度高い | 3. 高くない | 4. どちらともいえない |
|----------|-----------|---------|--------------|

Q 4. 本学の観光振興学科(仮称)が養成する人材の、貴事業所での採用意向についてお答えください。

- |          |             |              |          |
|----------|-------------|--------------|----------|
| 1. 採用したい | 2. 採用を検討したい | 3. どちらとも言えない | 4. 採用しない |
|----------|-------------|--------------|----------|

Q 5. Q4で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選んだ方は、現時点で想定いただける採用人数をご記入ください。

\_\_\_\_\_名

Q 6. 本学にご意見やご要望等ございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。



学長(就任予定)  
青木 義英

1972年日本航空(株)入社。宮崎支店長、マドリード支店長等として活躍。その後、鈴鹿国際大学国際人間科学部特任教授、和歌山大学観光学部客員教授を経て、2021年4月よりせとうち観光専門職短期大学(仮称)の学長に就任予定。

■所属学会

- ・観光学術学会 理事 副会長
- ・国際観光学会
- ・日本民俗学会
- ・日本クルーズ&フェリー学会

■社会活動等

- ・(公社)大阪タクシーセンター  
「国際観光タクシー創設検討委員会」委員長

校舎設置予定場所



車での通学可  
敷地内駐車場あり  
(約230台収容可能)



- JR高松駅/ことでん高松築港駅から路線バスで約20分  
高松駅バスターミナル(7番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ
- ことでん瓦町駅から路線バスで約30分  
ことでん瓦町駅バスターミナル(6番)より屋島大橋線「高松テルサ」下車すぐ

住所 〒761-0113 香川県高松市屋島西町2366-1(旧:高松テルサ)

せとうち観光専門職短期大学(仮称)に関するお問い合わせ先

学校法人穴吹学園 新学校種設置準備室

〒760-0020 香川県高松市錦町1-22-23

tel. (087) 823-2266

せとうち観光専門職短期大学 Webサイト

<http://www.seto.ac.jp/>

せとうち観光専門職短期大学(仮称)

2021年4月  
高松市に  
開学構想中

観光事業学科(仮称)

(3年制/定員80名)

瀬戸内まるごと  
キャンパス宣言



せとうち観光専門職短期大学(仮称)

※開学構想中のため、設置計画は予定であり、名称・内容は変更となる場合があります。

2021年4月、香川県で新しい学校が開設を予定しています。それが「せとうち観光専門職短期大学」。  
せとうちで学び、日本で、世界で活躍できる観光人材を育成する学校です。  
でも、「専門職短期大学って、一体何?」「専門学校や、短期大学とは何が違うの?」と思っている方も多いのでは?  
専門職短期大学は、専門学校と大学、それぞれの良いところを取り入れて国が作った、全く新しい学校種。  
学びのポイントをご紹介します!

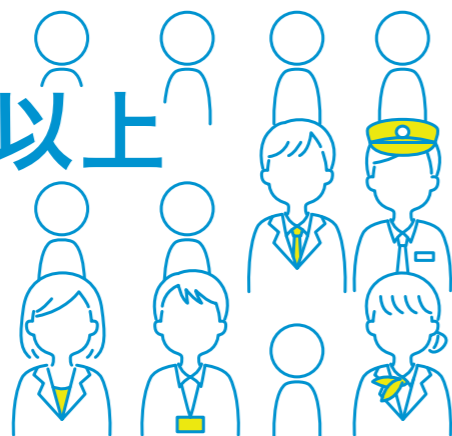
数字でわかる!

## 専門職短期大学とは?

実務家教員の割合

40%以上

実務家教員とは、実際にビジネスの現場で活躍してきた、実務の経験や能力を持つ先生のこと。専門職短期大学では、卒業後、即戦力となる知識・技術を身につけるために、こうした「実務家教員」を、専任教員数の40%以上配置することになっています。ビジネスの現場を知っている先生だからこそ受けられる、現場に即した指導や就職サポートが魅力です。



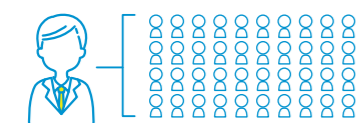
新しい学校種の誕生は  
55年ぶり



実習を中心とした専門学校の学びと、講義を中心とした大学・短期大学の学び、それぞれのメリットを掛け合わせ、新たに誕生したのが「専門職大学(短期大学)」。55年ぶりに生まれた新しい学校種として、今注目を集めています。

卒業まで  
2年または3年

専門職短期大学は2年制または3年制。卒業すると、「短期大学士(専門職)」の学位を取得できます。



原則40人以下  
の少人数授業

教員の目が行き届く少人数制授業で、一人ひとりにきめ細かな指導を実現。現場経験豊富な実務家教員と、理論に精通した教員それぞれから指導を受けることで、多角的な視点が身につきます。

実習・実技時間は  
授業全体の

1/3程度

専門職短期大学では、学んだ知識を現場で使ってみる「理論と実践」のサイクルを大切にしています。このため、学校内外での実習を充実。挑戦と失敗を繰り返しながら学ぶことで、即戦力となる人材をめざします。



知ってた?

## 世界から見た「せとうち」の実力。

香川県の訪日観光客数の  
対前年伸び率が、  
なんと  
日本国内で1位

※国土交通省 観光庁「宿泊旅行統計調査報告」(2017年6月発表)

2016年1月~12月における、香川県の訪日観光客による対前年宿泊者数伸び率は70.3%(のべ宿泊者数358,360名)。アジアの空港から高松空港への直行便が増えたこともあり、台湾や中国をはじめ、アジア圏を中心に飛躍的に増加しました。

世界の旅行市場に影響をもつ6つの海外旅行メディアにおいて「SETOUCHI」が注目のデスティネーションとして選ばれました。今後、「SETOUCHI」への欧米市場における関心の高まりが期待されています。

海外メディアも注目!  
島々によって作られる  
眺望が魅力の  
“SETOUCHI”

はじまるよ!

## 2021年4月 せとうち観光専門職短期大学(仮称)

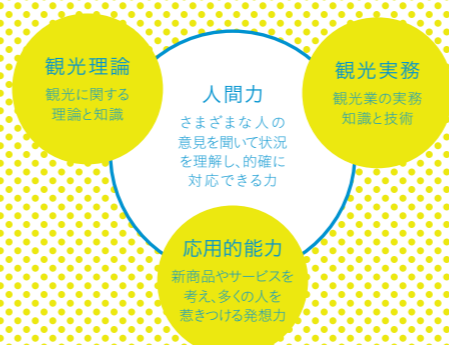
世界中から注目される「せとうち」。

でも、その魅力を広くアピールできる人材や、次の観光人材を引っ張っていくリーダーの育成など、まだまだ課題がたくさん残されています。

せとうち観光専門職短期大学は、「せとうち」をキャンパスにして、観光事業を「観光産業」「観光地域創生」などの領域から学び、瀬戸内だけでなく、日本中・世界中で活躍できる観光人材を養成します!

「せとうち」で学び、観光をとことん追求。  
地域の発展と人々の交流に貢献する「観光専門職」を養成

育てたい人物像



観光事業学科(仮称) 初年度納入金 2021年度(予定)1,150,000円(授業料等別添)

あなたは、何になりたい? /

“なりたい職業”からつくる、「学びのプログラム」

「人と話すことが好き!」「自分のアイデアで人を楽しませたい!」という人にピッタリな観光のお仕事。飛行機や鉄道のスタッフやホテルスタッフ、ツアープランナーなど、「なりたい職業」から自分のための「学びのプログラム」を作成しよう!

めざせる職業

- ・航空旅客スタッフ
- ・ツアープランナー
- ・観光施設のスタッフ
- ・鉄道会社スタッフ
- ・旅行会社スタッフ
- ・伝統産業のスタッフ
- ・ホテルスタッフ
- ・観光関連団体
- ・観光ガイド
- ・NPO等の職員
- ・起業
- 等

豊かな「人間力」を下地に、「観光の理論・知識」「観光実務の知識と技能」「新しいビジネスや商品、サービスを開発し、各地の観光ブランド化を推進できる応用的能力」を身につけます。